



# **SigmaSystemCenter 2.0**

**コンフィギュレーションガイド**

**－第3版－**

## 改版履歴

版数	改版	内容
1	2008.2	新規作成
2	2008.3	機能追加に伴い改版
3	2008.5	機能追加に伴い改版

Copyright © NEC Corporation 2003-2008. All rights reserved.

## 免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。  
本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。  
本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。  
日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。  
日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

## 商標および著作権

SigmaSystemCenter、WebSAM、NetvisorPro、iStorageManager、ESMPRO、および EXPRESSBUILDER は日本電気株式会社の商標および登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Microsoft Internet Explorer、および SQL Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
Linux は Linux Travalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
SUSE は、米国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標もしくは商標です。  
Red Hat は、米国 Red Hat Software, Inc. の登録商標です。  
HP-UX、Ignite-UX、および HP OpenView は、米国 Hewlett-Packard 社の登録商標です。  
Intel、Pentium、Xeon、Itanium は、米国 Intel 社の登録商標です。  
AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

EMC、Symmetrix、CLARiX、Navisphere は EMC Corporation の登録商標です。  
VMware、ESX Server および VMotion は、VMware, Inc. の登録商標もしくは商標です。  
Xen、Citrix、XenServer、XenCenter は、Citrix Systems, Inc. の登録商標もしくは商標です。

ORACLE は、米国 ORACLE Corporation の登録商標です。  
PXE Software Copyright (C) 1997 - 2000 Intel Corporation.  
Copyright (C) 2005, 2007, ALAXALA Networks Corporation. All rights reserved.  
(C) 1992-2007 Cisco Systems Inc. All rights reserved.  
Foundry Networks, FastIron, ServerIron and the 'Iron' family of marks are trademarks or registered trademarks of Foundry Networks, Inc. in the United States and other countries.  
BIG-IP は米国および他の国における F5 Networks, Inc. の登録商標です。  
InstallShield is a registered trademark and service mark of Macrovision Corporation and/or Macrovision Europe Ltd. in the United States and/or other countries.

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。  
Apache は、Apache Software Foundation の商標です。  
本製品には、Sun Microsystems 社が無償で配布している JRE (Java Runtime Environment)、および、Apache Software Foundation が無償で配布している TOMCAT を含んでいます。これらの製品については、それぞれの製品の使用許諾に同意したうえでご利用願います。著作権、所有権の詳細につきましては以下の LICENSE ファイルを参照してください。  
TOMCAT: TOMCAT をインストールしたフォルダ¥LICENSE  
JRE: JRE をインストールしたフォルダ¥LICENSE

Some icons used in this program are based on Silk Icons released by Mark James under a Creative Commons Attribution 2.5 License. Visit <http://www.famfamfam.com/lab/icons/silk/> for more details.

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。  
なお、® マーク、TMマークは本書に明記しておりません。

# 目次

はじめに .....	ix
対象読者と目的 .....	ix
本書の構成 .....	ix
SigmaSystemCenterマニュアル体系 .....	x
本書の表記規則 .....	xii
<b>1. システム構築前の準備を行う.....</b>	<b>3</b>
1.1. SystemProvisioningを起動 / 再起動 / 停止する .....	4
1.1.1. SystemProvisioningを起動するには .....	4
1.1.2. SystemProvisioningを再起動するには .....	4
1.1.3. SystemProvisioningを停止するには .....	4
1.2. Webコンソールを起動 / ログインする .....	5
1.2.1. Webコンソールを起動するには .....	5
1.2.2. SigmaSystemCenterにログインするには .....	7
1.2.3. SigmaSystemCenterに初めてログインする場合 .....	7
1.3. Webコンソールの基本的な操作を理解する .....	8
1.3.1. Webコンソールによる操作 .....	8
1.4. ライセンスキーを登録する .....	10
1.5. SystemProvisioningユーザを追加する .....	11
1.6. 環境を設定する .....	12
1.6.1. 構成情報の収集に関する設定を行うには .....	12
1.6.2. 障害時のメール通報の設定を行うには .....	13
1.6.3. 通報の通知をイベントログに書き込みを行うには .....	14
1.6.4. ログの出力に関する設定を行うには .....	15
1.6.5. 仮想リソースの情報を設定するには .....	16
1.6.6. 仮想マシンサーバのrootパスワードを設定するには .....	17
1.6.7. 監視ビューの更新時間を設定するには .....	18
1.6.8. 連携するESMPROの情報を設定するには .....	19
<b>2. 関連製品の事前設定 .....</b>	<b>21</b>
2.1. 関連製品の事前設定に関して .....	22
2.2. スイッチを利用するための設定を行う .....	22
2.2.1. スイッチブレードの初期設定を行うには .....	23
2.2.2. NetvisorProにスイッチを登録するには .....	24
2.2.3. NetvisorProでスイッチへのログイン管理設定を行うには .....	26
2.3. ロードバランサを利用するための設定を行う .....	29
2.3.1. NetvisorProにロードバランサを登録するには .....	29
2.3.2. NetvisorProでロードバランサへのログイン管理設定を行うには .....	29
2.4. ストレージを利用するための設定を行う .....	30
2.4.1. 各ストレージの事前設定を行う .....	30
2.4.2. 論理ディスクを初期化する .....	32
2.4.3. パーティション / ボリュームのドライブレター設定を考慮する .....	33
2.5. SIGMABLADEを利用するための設定を行う .....	34
2.5.1. SIGMABLADE controllerを利用するための設定を行う .....	34
2.6. SystemMonitor性能監視で性能を監視するための設定を行う .....	35
2.6.1. 監視対象マシンのユーザアカウントを設定する .....	35
2.6.2. SystemMonitor性能監視で管理サーバの設定を行うには (初回起動時のみ) .....	36
2.6.3. SystemMonitor性能監視で接続設定を行うには .....	38
2.6.4. SystemMonitor性能監視でグループを追加するには .....	39

2.6.5.SystemMonitor性能監視で監視対象マシンを追加するには	40
2.6.6.SystemMonitor性能監視で閾値監視、通報設定を行うには	42
2.7. 管理対象マシンで障害イベントを受信するための設定を行う	46
2.7.1.Windowsマシンで通報の受信設定を行うには	46
2.7.2.Linuxマシンで通報の受信設定を行うには	50
2.8. DPMを利用するための設定を行う	52
2.8.1.DPMのWebコンソールを起動するには	54
2.8.2.管理サーバ for DPMを登録するには	55
2.8.3.DPMに一般マシンを登録するには	56
2.8.4.DPMにCPUブレードを登録するには	59
2.8.5.仮想マシンサーバまたは仮想マシンをDPMに登録するには	63
2.9. DPMでマスタマシンを利用してシナリオを作成する	64
2.9.1.新規にOSをインストールしてマスタマシンを作成するには(Windows OS)	66
2.9.2.既存マシンを利用してマスタマシンを作成するには (Windows OS)	71
2.9.3.新規にOSをインストールしてマスタマシンを作成するには (Linux OS)	74
2.9.4.既存マシンを利用してマスタマシンを作成するには (Linux OS)	76
2.9.5.マスタマシンのバックアップに向け準備するには	78
2.9.6.バックアップ用シナリオファイルを作成するには	81
2.9.7.リストア用シナリオファイルを作成するには	84
2.10. VMwareを利用するための事前設定を行う	87
2.10.1.VMware環境を構築する	87
2.11. VirtualCenterでマスタVMを利用してテンプレートを作成する	88
2.11.1.VirtualCenterでマスタVMを作成するには	88
2.11.2.VirtualCenterでテンプレートを作成するには	89
2.12. Xenを利用するための事前設定を行う	90
2.12.1.Xen環境を構築する	90
2.13. XenCenterでマスタVMを利用してテンプレートを作成する	91
2.13.1.XenCenterでマスタVMを作成するには	91
2.13.2.XenCenterでテンプレートを作成するには	92
<b>3. SigmaSystemCenterへリソースを登録する</b>	<b>95</b>
3.1. SigmaSystemCenterへのリソースの登録	96
3.2. サブシステムを追加する	96
3.2.1.VMware VirtualCenterをサブシステムに追加するには	97
3.2.2.XenEnterprise Pool Masterをサブシステムに追加するには	98
3.2.3.DPM (Windows / Linux) をサブシステムに追加するには	100
3.2.4.DPM (HP-UX) をサブシステムに追加するには	101
3.2.5.SIGMABLADE controllerをサブシステムに追加するには	102
3.2.6.NetvisorProをサブシステムに追加するには	104
3.2.7.スイッチブレードをサブシステムに追加するには	105
3.2.8.ストレージ管理サーバをサブシステムに追加するには	106
3.3. スイッチを登録する	107
3.3.1.スイッチを登録するには	107
3.3.2.スイッチブレードを登録するには	108
3.3.3.VLANを追加するには	109
3.4. ロードバランサを登録する	110
3.4.1.ロードバランサを登録するには	110
3.4.2.ロードバランサグループを追加するには	111
3.5. ストレージを登録する	112
3.5.1.ディスクアレイとディスクボリュームを登録するには	112
3.5.2.共有ディスクの設定	113
3.6. ポリシーを作成する	114
3.6.1.新規にポリシーを作成するには	115
3.6.2.標準ポリシーを複製するには	116
3.6.3.ポリシープロパティを設定するには	117
3.6.4.ポリシー監視イベントの対応処置詳細を設定するには	118

---

3.7.	ローカルスクリプトを登録する.....	120
3.7.1.	ローカルスクリプトを追加するには.....	120
3.8.	マシンを登録する.....	121
3.8.1.	リソースグループを追加するには.....	121
3.8.2.	マシンを登録するには.....	122
3.9.	マシンプロパティを設定するには.....	124
3.9.1.	[全般] タブを設定するには.....	124
3.9.2.	[ネットワーク] タブを設定するには.....	126
3.9.3.	[ストレージ] タブを設定するには.....	127
3.9.4.	[ソフトウェア] タブを設定するには.....	128
3.9.5.	[配布済みソフトウェア] タブを確認するには.....	129
<b>4.</b>	<b>仮想マシンに対する操作.....</b>	<b>131</b>
4.1.	仮想マシン用テンプレートを用意する.....	132
4.1.1.	SystemProvisioningから使用できるテンプレートを確認するには.....	132
4.1.2.	SystemProvisioningからテンプレートを作成するには.....	133
4.2.	仮想マシンを作成する.....	134
4.2.1.	仮想マシンの作成方法について.....	134
4.2.2.	[仮想] ビューで仮想マシンを作成するには.....	135
4.3.	VM移動.....	136
<b>5.</b>	<b>マシンを運用するための操作.....</b>	<b>139</b>
5.1.	カテゴリを追加する.....	140
5.2.	アクセス権限を設定する.....	141
5.2.1.	ルールを追加するには.....	141
5.2.2.	ルールの権限対象を設定するには.....	142
5.2.3.	ユーザにルールを割り当てるには.....	143
5.3.	運用グループを追加する.....	144
5.4.	グループプロパティを設定する.....	145
5.4.1.	[全般] タブを設定するには.....	145
5.4.2.	[モデル] タブを設定するには.....	146
5.4.3.	[ホスト] タブを設定するには.....	148
5.4.4.	[ソフトウェア] タブを設定するには.....	149
5.4.5.	[VLAN設定] タブを設定するには.....	150
5.4.6.	[LB設定] タブを設定するには.....	152
5.4.7.	[OS設定] タブを設定するには (Windows).....	153
5.4.8.	[OS設定] タブを設定するには (Linux).....	154
5.4.9.	[OS設定] タブを設定するには (HP-UX).....	155
5.5.	モデルプロパティを設定する (物理マシンの場合).....	156
5.5.1.	[全般] タブを設定するには.....	156
5.5.2.	[ソフトウェア] タブを設定するには.....	158
5.6.	モデルプロパティを設定する (仮想マシンの場合).....	160
5.6.1.	[全般] タブを設定するには.....	160
5.6.2.	[ソフトウェア] タブを設定するには.....	162
5.6.3.	[ネットワーク] タブを設定するには.....	163
5.7.	モデルプロパティを設定する (仮想マシンサーバの場合).....	164
5.7.1.	[全般] タブを設定するには.....	164
5.7.2.	[ソフトウェア] タブを設定するには.....	165
5.7.3.	[VM最適配置] タブを設定するには.....	165
5.8.	ホストを設定する.....	166
5.8.1.	[全般] タブを設定するには.....	166
5.8.2.	[ネットワーク] タブを設定するには.....	167
5.8.3.	[ストレージ] タブを設定するには.....	168
5.8.4.	[ソフトウェア] タブを設定するには.....	170
5.9.	VM最適配置機能を設定する.....	172

5.9.1.仮想マシンサーバをグループで管理するには	172
5.9.2.VMサーバモデルを設定するには	173
5.9.3.SystemMonitor性能監視を設定するには	174
5.9.4.省電力機能を使用するには	174
5.10. プールにマシンを追加する	175
5.11. グループで稼動する	176
5.11.1.マスタマシンを登録するには	176
5.11.2.ホストにリソースを割り当てるには	178
5.11.3.仮想マシンを作成してグループで稼動するには	180
5.12. スケールアウト	182
5.13. スケールイン	183
5.14. マシンの用途を変更する	184
5.15. マシンを置換する	186
5.16. マシンへ指定したソフトウェアを配布する	187
5.17. ソフトウェアの再配布をする	189
<b>6. 保守</b>	<b>193</b>
6.1. 保守の操作	194
6.1.1.SystemProvisioningを起動 / 再起動 / 停止するには	194
6.1.2.マシンを起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンドするには	194
6.1.3.メンテナンスモードをオン / オフするには	196
6.1.4.マシンのハードウェア状態を故障から正常に解除するには	197
6.1.5.ジョブ実行結果のリセット	198
6.2. 管理対象マシンを追加登録する	199
6.2.1.物理マシンを追加登録するには	199
6.2.2.仮想マシンサーバを追加登録するには	200
6.2.3.仮想マシンを追加登録するには	202
6.2.4.SIGMABLADE controllerを使用する場合	203
6.2.5.SIGMABLADE controllerが認識している管理用NICについて	204
6.3. マシンへ追加APの配布・パッチを適用する	205
6.3.1.マシンへ追加APの配布をするには	205
6.3.2.マシンへパッチを適用するには	207
6.4. ログの採取	210
6.4.1.SystemProvisioningのログを採取するには	210
6.4.2.SystemMonitor性能監視のログを採取するには	211
6.4.3.DPMのログを採取する	212
6.4.4.DPM (HP-UX版) のログを採取するには	215
6.5. ハードウェアを交換する	216
6.5.1.プライマリNIC以外のNICを交換するには	216
6.5.2.プライマリNICを交換するには	218
6.5.3.マシンを交換するには	219
6.5.4.ディスクを交換するには	220
6.5.5.HBAを交換するには	221
6.5.6.スイッチブレードを追加するには	223
6.5.7.スイッチブレードを交換するには	224
6.5.8.スイッチブレードを削除するには	225
6.5.9.NetvisorProスイッチを追加するには	225
6.5.10.NetvisorProスイッチを交換する	226
6.5.11.NetvisorProスイッチを削除するには	226
6.5.12.ESX Serverのディスクを交換するには	227
6.5.13.ESX Serverのハードディスク以外のデバイスを交換するには	229
6.5.14.Xen Serverのディスクを交換するには	230
6.5.15.Xen Serverのハードディスク以外のデバイスを交換するには	231
6.5.16.NIC-NetvisorPro管理スイッチポートの接続を変更するには	232
<b>7. バックアップ・リストア</b>	<b>233</b>

---

7.1.	バックアップ計画	234
7.1.1.	管理サーバ	234
7.1.2.	管理対象マシン	234
7.2.	SystemProvisioningをバックアップ / リストアする	235
7.2.1.	構成情報データベースをバックアップするには	235
7.2.2.	構成情報データベースをリストアするには	236
7.3.	SystemMonitor性能監視をバックアップ / リストアする	237
7.3.1.	SystemMonitor性能監視をバックアップするには	237
7.3.2.	SystemMonitor性能監視をリストアするには	238



# はじめに

## 対象読者と目的

「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」は、インストール後の設定全般を行うシステム管理者と、その後の運用・保守を行うシステム管理者を対象読者とし、インストール後の設定から運用に関する操作手順を実際の流れに則して説明します。また、保守の方法や操作についても説明します。

## 本書の構成

### セクション I 環境構築と設定

- 1 「システム構築前の準備を行う」: SigmaSystemCenterの初期設定、基本動作、環境設定について説明します。
- 2 「関連製品の事前設定」: SigmaSystemCenterで使用する関連製品の事前設定について説明します。

### セクション II SigmaSystemCenterの運用を開始する

- 3 「SigmaSystemCenterへリソースを登録する」: SigmaSystemCenterへの関連製品の登録方法について説明します。
- 4 「仮想マシンに対する操作」: 仮想マシンを利用した運用について説明します。
- 5 「マシンを運用するための操作」: マシンの運用について説明します。

### セクション III メンテナンスを行う

- 6 「保守」: SigmaSystemCenterのメンテナンス方法について説明します。
- 7 「バックアップ・リストア」: SigmaSystemCenter運用時のバックアップおよびリストア方法について説明します。

# SigmaSystemCenter マニュアル体系

SigmaSystemCenter のマニュアルは、各製品およびコンポーネントごとに以下のように構成されています。

また、本書内では、各マニュアルは「本書での呼び方」の名称で記載します。

製品 / コンポーネント名	マニュアル名	本書での呼び方
SigmaSystemCenter 2.0	SigmaSystemCenter 2.0 ファーストステップガイド	SigmaSystemCenter ファーストステップガイド
	SigmaSystemCenter 2.0 インストレーションガイド	SigmaSystemCenter インストレーションガイド
	SigmaSystemCenter 2.0 コンフィグレーションガイド	SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド
	SigmaSystemCenter 2.0 リファレンスガイド	SigmaSystemCenter リファレンスガイド
ESMPRO/ServerManager 4.41	ESMPRO/ServerManager Ver.4.4 インストレーションガイド	ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド
	ESMPRO サーバ管理ガイド	ESMPROサーバ管理ガイド
WebSAM DeploymentManager 5.1	WebSAM DeploymentManager Ver5.1 ユーザーズガイド 導入編	DeploymentManager ユーザーズガイド導入編
	WebSAM DeploymentManager Ver5.1 ユーザーズガイド 基本操作編	DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編
	WebSAM DeploymentManager Ver5.1 ユーザーズガイド 応用編	DeploymentManager ユーザーズガイド応用編
	WebSAM DeploymentManager Ver5.1 ユーザーズガイド PackageDescriber編	DeploymentManager ユーザーズガイド PackageDescriber編
	パッケージビルダマニュアル	DeploymentManager パッケージビルダマニュアル
WebSAM DeploymentManager (HP-UX版)	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド (導入編)	DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド導入編
	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド (機能編)	DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド機能編
	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) 操作マニュアル	DeploymentManager (HP-UX版) 操作マニュアル
	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド エラーメッセージ集	DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド エラーメッセージ集
	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) R1.4.3 リリースメモ	DeploymentManager (HP-UX版) リリースメモ
SystemMonitor性能監視	SystemMonitor性能監視 ユーザーズガイド	SystemMonitor性能監視 ユーザーズガイド
	SigmaSystemCenter クラスタ構築資料	SigmaSystemCenter クラスタ構築資料

製品 / コンポーネント名	マニュアル名	本書での呼び方
SIGMABLADE controller 1.1	SigmaSystemCenter SIGMABLADE controller セットアップカード	SIGMABLADE controller セットアップカード
	SigmaSystemCenter SIGMABLADE controller ユーザーズガイド	SIGMABLADE controller ユーザーズガイド

SigmaSystemCenter の製品概要、インストール、設定、運用、保守に関する情報は、以下の4つのマニュアルに含みます。各マニュアルの役割を以下に示します。

#### 「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」

SigmaSystemCenter を使用するユーザを対象読者とし、製品概要、システム設計方法、動作環境などについて記載します。

#### 「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」

SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、およびアンインストールを行うシステム管理者を対象読者とし、それぞれの方法について説明します。

#### 「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」

インストール後の設定全般を行うシステム管理者と、その後の運用・保守を行うシステム管理者を対象読者とし、インストール後の設定から運用に関する操作手順を実際の流れに則して説明します。また、保守の操作についても説明します。

#### 「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」

SigmaSystemCenter の管理者を対象読者とし、SigmaSystemCenter の機能説明、操作画面一覧、操作方法、メンテナンス関連情報およびトラブルシューティング情報などを記載します。「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」および「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」を補完する役割を持ちます。

# 本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項、および関連情報を以下のように表記します。

---

**注:**は、機能、操作、および設定に関する注意事項、警告事項、および補足事項です。

---

---

**関連情報:**は、参照先の情報の場所を表します。

---

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[ ] 角かっこ	画面に表示される項目 (テキストボックス、チェックボックス、タブなど) の前後	[マシン名] テキストボックスにマシン名を入力します。 [すべて] チェックボックス
「 」 かぎかっこ	画面名 (ダイアログボックス、ウィンドウなど)、他のマニュアル名の前後	「設定」ウィンドウ 「インストールガイド」
コマンドライン中の [ ] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	add [/a] Gr1
モノスペースフォント (courier)	コマンドライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)	以下のコマンドを実行してください。 replace Gr1
モノスペースフォント斜体 (courier)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目 値の中にスペースが含まれる場合は “ ” (二重引用符) で値を囲ってください。	add <i>GroupName</i> InstallPath=" <i>Install Path</i> "

# セクション I 環境構築と設定

このセクションでは、SigmaSystemCenter のインストール後、運用開始までに行うべき環境構築および事前設定について記載します。

- 1 システム構築前の準備を行う
- 2 関連製品の事前設定



# 1. システム構築前の準備を行う

本章では、SigmaSystemCenter の初期設定、基本動作、環境設定について記載します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

• 1.1	SystemProvisioningを起動 / 再起動 / 停止する.....	4
• 1.2	Webコンソールを起動 / ログインする .....	5
• 1.3	Webコンソールの基本的な操作を理解する.....	8
• 1.4	ライセンスキーを登録する .....	10
• 1.5	SystemProvisioningユーザを追加する.....	11
• 1.6	環境を設定する.....	12

## 1.1. SystemProvisioning を起動 / 再起動 / 停止する

SystemProvisioning の起動、再起動および停止操作に関する説明をします。

### 1.1.1. SystemProvisioning を起動するには

SystemProvisioning は、管理サーバを起動すると自動的に起動します。手動で起動する場合、以下の手順に従って起動してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から「PVMService」を選択し、[サービスの開始] をクリックします。

以上で SystemProvisioning の起動は完了です。

### 1.1.2. SystemProvisioning を再起動するには

SystemProvisioning を再起動します。以下の手順に従って再起動してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から「PVMService」を選択し、[サービスの再起動] をクリックします。

以上で SystemProvisioning の再起動は完了です。

### 1.1.3. SystemProvisioning を停止するには

SystemProvisioning を停止します。以下の手順に従って停止してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から「PVMService」を選択し、[サービスの停止] をクリックします。

以上で SystemProvisioning の停止は完了です。

## 1.2. Web コンソールを起動 / ログインする

Webコンソールを操作するには、Webコンソールを起動し、ログインする必要があります。初めてSigmaSystemCenterにログインする場合、「1.2.3 SigmaSystemCenterに初めてログインする場合」を参照してください。

### 1.2.1. Web コンソールを起動するには

Web コンソールを起動します。以下の手順に従って起動してください。

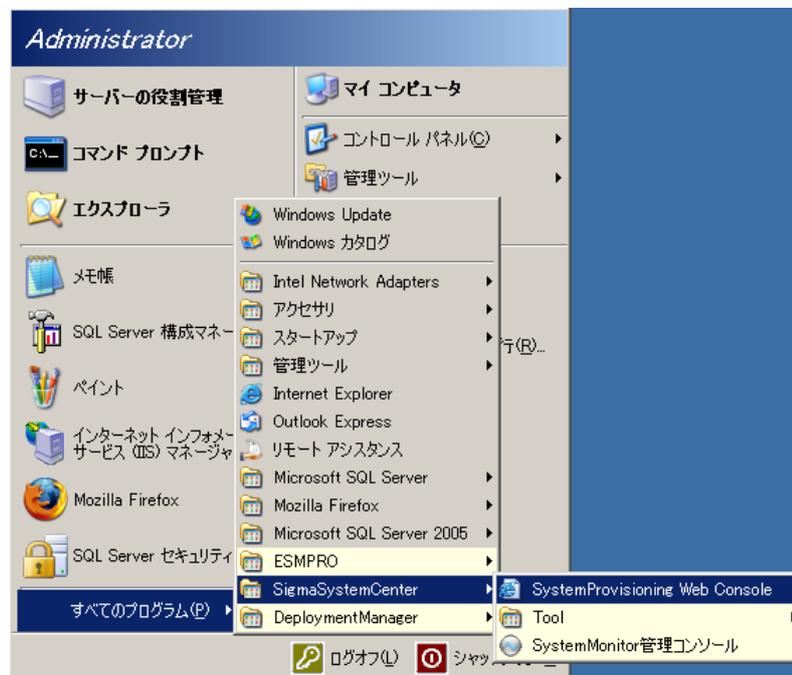
1. Web ブラウザを起動します。
2. Web ブラウザのアドレス欄に以下の URL を入力します。

`http://ホスト/Provisioning/Default.aspx`

ホストには、管理サーバのホスト名、または IP アドレスを入力してください。

3. ログインウィンドウが表示されます。ログインについては、「1.2.2 SigmaSystemCenterにログインするには」を参照してください。

管理サーバでWebコンソールを起動する場合は、[スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [SigmaSystemCenter] - [SystemProvisioning Web Console] を選択し、Webコンソールを起動することもできます。



---

**注:**

・ [スタート] メニューから Web コンソールを起動した場合、既に起動済みのブラウザ上に Web コンソールが表示されることがあります。別途、ブラウザを起動して必要な URL を参照してください。

・ Windows Server 2003 において、Web コンソールが正しく表示されない場合、ASP.NET を修復する必要があります。以下の手順に従って操作してください。

1. コマンドプロンプトを起動します。

[スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックし、コマンドプロンプトを起動します。

2. 以下のコマンドを入力します。

```
"%windir%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.50727\aspnet_regiis.exe" -i
```

3. **Enter** キーを押します。

4. Web コンソールを起動します。

---

以上で Web コンソールの起動は完了です。

## 1.2.2. SigmaSystemCenter にログインするには

SigmaSystemCenter へのログインを行います。SigmaSystemCenter は OS 認証とは別に SigmaSystemCenter を使用できるユーザを制限するため固有のユーザ管理を行います。初めてSigmaSystemCenterにログインする場合、「1.2.3 SigmaSystemCenterに初めてログインする場合」に記載している初期ユーザでログインしてください。

1. Web コンソールを起動すると、「SigmaSystemCenter ログイン」が表示されます。

2. ユーザ名とパスワードを入力します。

**注:** SigmaSystemCenterにログインするには、初めてログインする場合を除き、管理者権限を持つユーザによりユーザ名、パスワードを登録しておく必要があります。ユーザの登録方法は、「1.5 SystemProvisioningユーザを追加する」を参照してください。

3. [ログイン] をクリックします。

以上で SigmaSystemCenter へのログインは完了です。

## 1.2.3. SigmaSystemCenter に初めてログインする場合

SigmaSystemCenter に初めてログインする場合には、以下の初期ユーザ名およびパスワードを入力してください。

ユーザ名	admin
パスワード	admin

初期ユーザでログイン後、管理者権限を持つ任意のユーザを 1 つ以上登録してください。ユーザが登録されると、初期ユーザ名とパスワードは使用できなくなります。ユーザの登録方法に関しては、「1.5 SystemProvisioningユーザを追加する」を参照してください。

## 1.3. Web コンソールの基本的な操作を理解する

Web コンソールの基本的な操作について説明します。

### 1.3.1. Web コンソールによる操作

Web コンソールを使用して、管理対象マシンの操作やグループ管理など様々な操作を行うことができます。

Web コンソールは、以下の 5 つのパーツから構成されています。



#### (1) タイトルバー

Web コンソール上部には常にタイトルバーが表示されています。

タイトルバーは、検索機能、メインメニュー、アカウント管理機能から構成されています。

- 検索機能

マシンの検索ができます。検索機能の詳細は、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド Web コンソール編」の「1.1 Web コンソールの概要」を参照してください。

- メインメニュー

各メニューをクリックすると、ツリービューおよびメインウィンドウの表示を切り替えることができます。

- アカウント管理機能

パスワードの変更や、ログアウトができます。

**(2) ツリービュー**

メインメニューをクリックすることにより、ツリービューが切り替わります。

ツリービューのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに詳細情報、[設定] メニューおよび [操作] メニューが表示され、操作を進めることができます。

**(3) メインウィンドウ**

SystemProvisioning のメインウィンドウです。

- グループボックス

グループボックスは、メインウィンドウに表示される詳細情報、各一覧表示ボックスを指します。

ホスト名	状態	電源	IPアドレス	リソース	モデル	プロパティ
esx35	正常	Running	192.168.10.17	vms-001	VMS-1	
vmsserver02	定義のみ	自動取得				

**(4) [設定] メニュー、[操作] メニュー**

対象リソースの設定を管理するためのメニューです。メニューの内容は、操作の状態によって異なります。メニューで行う操作は、ツリービューで選択したビュー内のすべてのリソースに対して行うことができます。

**(5) [アクション] メニュー**

[アクション] メニューとは、各グループボックス内にあるメニューおよびプルダウンボックスのことを指し、指定の対象リソースの操作を行うためのメニューです。

メインウィンドウに表示されるグループボックス内のリストから操作する対象リソースを選択し、[アクション] メニューの操作を実行します。

[アクション] メニューで行う操作は、各グループボックスでチェックボックスを選択したリソースに対して行うことができます。

## 1.4. ライセンスキーを登録する

SigmaSystemCenter をインストールした後、製品に添付されているライセンスキーシートのライセンスキーを登録します。以下の手順に従って登録してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [ライセンス] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにライセンスの詳細情報が表示されます。

エディション情報			
エディションバージョン			
最大管理台数	0		
オプション			
有効期限			

ターゲットOSライセンス		
OS種別	管理可能台数	消費台数

ライセンス個別情報			
ライセンスキー	オプション	OS種別	ライセンス数

ライセンスキー

4. [ライセンスキー] テキストボックスにライセンスキーを入力します。

---

**注:** ライセンスキーを登録する場合、最初にエディションライセンスを登録してください。ライセンスについては、「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」の「2.2 SigmaSystemCenter の製品体系とライセンス」を参照してください。

---

5. [追加] をクリックします。

---

**注:** ライセンスキーを登録後、SystemProvisioningを再起動してください。SystemProvisioningの再起動については、「1.1.2 SystemProvisioningを再起動するには」を参照してください。

---

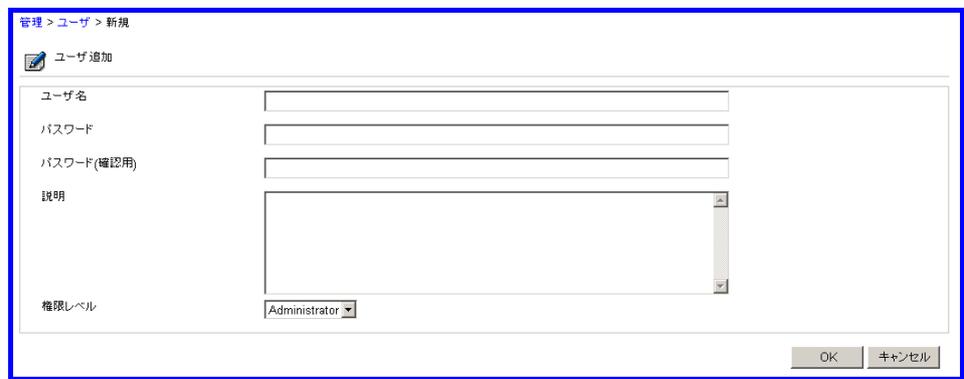
以上でライセンスキーの登録は完了です。

## 1.5. SystemProvisioning ユーザを追加する

SystemProvisioning を使用するユーザのユーザアカウントを追加します。以下の手順に従って追加してください。

**注:** SystemProvisioning を使用する場合、管理者権限を持つ SystemProvisioning ユーザが1つ以上登録されている必要があります。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [ユーザ] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。
4. [ユーザー一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックします。メインウィンドウに「ユーザ追加」が表示されます。



5. [ユーザ名] テキストボックスにユーザ名を入力します。
6. [パスワード] テキストボックスおよび [パスワード (確認用)] テキストボックスにパスワードを入力します。
7. [権限レベル] プルダウンボックスから権限レベルを選択します。
8. [OK] をクリックします。

以上でユーザの追加は完了です。

## 1.6. 環境を設定する

SigmaSystemCenter の運用を開始する前に、運用環境を設定する必要があります。設定方法について説明します。

### 1.6.1. 構成情報の収集に関する設定を行うには

構成情報の収集に関する設定を行います。構成情報の収集を既定値から変更する場合、以下の手順に従って設定してください。

---

**関連情報:** 構成情報の収集については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド Web コンソール編」の「2.13.1 [全般] タブ」を参照してください。

---

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [環境設定] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに「環境設定」が表示されます。[全般] タブを選択します。



4. [情報収集を行う] チェックボックスをオンにします。
5. [情報収集間隔] テキストボックスに情報収集間隔を入力します。
6. [適用] をクリックします。

以上で構成情報の収集に関する設定は完了です。

## 1.6.2. 障害時のメール通報の設定を行うには

障害時のメール通報の設定を行います。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [環境設定] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに「環境設定」が表示されます。[通報] タブを選択します。

管理 > 環境設定

環境設定

全般 **通報** ログ 仮想リソース 表示 その他

メール通報機能の設定を行います。メール通報を行う場合、送信用メールサーバ名、通信元メールアドレス、通信先(管理者)メールアドレスを入力してください。

テスト送信ボタンを押すとすぐにテストメールを送信します。

メール通報を行います

送信用メールサーバ名

通信元メールアドレス情報(From)

通信先メールアドレス情報(To)

テスト送信

通知をイベントログに書き込む

適用

4. [メール通報を行います] チェックボックスをオンにし、各項目を入力します。
5. [テスト送信] をクリックし、メール通報テストが正常に行われたかの確認を行います。
6. [適用] をクリックします。

以上で障害時のメール通報の設定は完了です。

### 1.6.3. 通報の通知をイベントログに書き込みを行うには

SystemProvisioning が受信した通報、通報によるポリシー実行結果をイベントログに記録する設定を行います。また、SystemProvisioning 管理サーバ上に ESMPRO/ServerAgent をインストールすると、ESMPRO/ServerManager へ通報することができます。以下の手順に従って設定してください。

**関連情報:** ESMPRO への通知については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」の「1.3.2 マシンの状態、状態の監視」を参照してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [環境設定] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに「環境設定」が表示されます。[通報] タブを選択します。

The screenshot shows the 'Environment Settings' (環境設定) window with the 'Notification' (通報) tab active. The 'Log to event log' (通知をイベントログに書き込む) checkbox is checked. The 'Apply' (適用) button is visible at the bottom right.

4. [通知をイベントログに書き込む] チェックボックスをオンにします。
5. [適用] をクリックします。

以上で通報の通知をイベントログに書き込みを行う設定は完了です。

## 1.6.4. ログの出力に関する設定を行うには

運用ログ、デバッグログに関する設定を行います。ログの出力設定を変更する場合、以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [環境設定] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに「環境設定」が表示されます。[ログ] タブを選択します。

The screenshot shows the 'Environment Settings' (環境設定) window with the 'Log' (ログ) tab selected. The 'Operational Log Settings' (運用ログ設定) section has a text box for 'Maximum Number of Output Items' (最大出力件数) containing '50000'. The 'Debug Log Settings' (デバッグログ設定) section has a text box for 'Maximum Output Size' (最大出力サイズ) containing '1' and a dropdown menu for 'Debug Log Level' (取得するデバッグログレベルの設定) set to '3'. A 'Apply' (適用) button is located at the bottom right.

4. [最大出力件数] テキストボックスに運用ログの最大出力件数を入力します。

**注:** 本システムの動作環境下における運用ログの最大出力件数は 100,000 件です。設定を行う場合には、100,000 件以下に設定してください。動作環境については、「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」の「3. 動作環境」を参照してください。

5. [最大出力サイズ] テキストボックスにデバッグログの最大出力サイズを入力します。
6. [取得するデバッグログレベルの設定] プルダウンボックスからデバッグログの取得レベルを選択します。
7. [適用] をクリックします。

以上でログの出力に関する設定は完了です。

### 1.6.5. 仮想リソースの情報を設定するには

1 台の仮想マシンサーバ上で稼動可能な仮想マシンの数の既定値 (20 台) を変更する場合、以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [環境設定] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに「環境設定」が表示されます。[仮想リソース] タブを選択します。

管理 > 環境設定

環境設定

全般 通報 ログ **仮想リソース** 表示 その他

仮想マシンサーバの「キャパシティ値」、仮想マシンの「コスト値」を設定します。ここで設定した値は規定値として使用されます。

起動中の仮想マシンのコスト値の合計がキャパシティ値を超えないようにすることによって、仮想マシンサーバ上で稼動可能な仮想マシン数を制限します。

キャパシティ値

コスト値

ファイルオーパ時に使用するVMware ESX仮想マシンサーバのrootパスワードの既定値を設定します。

各VMware ESX仮想マシンサーバのパスワード情報は管理ビューのサブシステムで設定できます。設定されていない場合にこのパスワードが使用されます。

rootパスワード更新

rootパスワード

rootパスワード確認

適用

4. [キャパシティ値] テキストボックス、[コスト値] テキストボックスに仮想マシンサーバ、仮想マシンのキャパシティ値、コスト値を入力します。

---

**関連情報:** キャパシティ値、コスト値については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」の「1.3.5 仮想マシンサーバのキャパシティ制御」、もしくは「SigmaSystemCenter リファレンスガイド Web コンソール編」の「1.1.5 キャパシティ値、コスト値の設定」を参照してください。

---

5. [適用] をクリックします。

以上で仮想リソース情報の設定は完了です。

## 1.6.6. 仮想マシンサーバの root パスワードを設定するには

ESX Server の障害復旧（Failover）時に使用される ESX Server の root パスワードを設定します。ここで指定されたパスワードは、すべての ESX Server に対する既定値として使用されます。

### 注:

- ・ root パスワードが設定されていない場合、ESX Server の障害復旧（Failover）処理が失敗します。
- ・ ESX Server ごとにアカウント / パスワードを設定する場合、ESX Server のサブシステム編集ウィンドウから設定してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [環境設定] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに「環境設定」が表示されます。[仮想リソース] タブを選択します。

管理 > 環境設定

環境設定

全般 通報 ログ **仮想リソース** 表示 その他

仮想マシンサーバの「キャパシティ値」、仮想マシンの「コスト値」を設定します。ここで設定した値は規定値として使用されます。

起動中の仮想マシンのコスト値の合計がキャパシティ値を超えないようにすることによって、仮想マシンサーバ上で稼働可能な仮想マシン数を制限します。

キャパシティ値

コスト値

フェイルオーバー時に使用するVMware ESX仮想マシンサーバのrootパスワードの既定値を設定します。

各VMware ESX仮想マシンサーバのパスワード情報は管理ビューのサブシステムで設定できます。設定されていない場合にこのパスワードが使用されます。

rootパスワード更新

rootパスワード

rootパスワード確認

適用

4. [root パスワード更新] チェックボックスをオンにします。
5. [root パスワード] テキストボックスおよび [root パスワード確認] テキストボックスに root パスワードの既定値を入力します。
6. [適用] をクリックします。

以上で仮想マシンサーバの root パスワードの設定は完了です。

### 1.6.7. 監視ビューの更新時間を設定するには

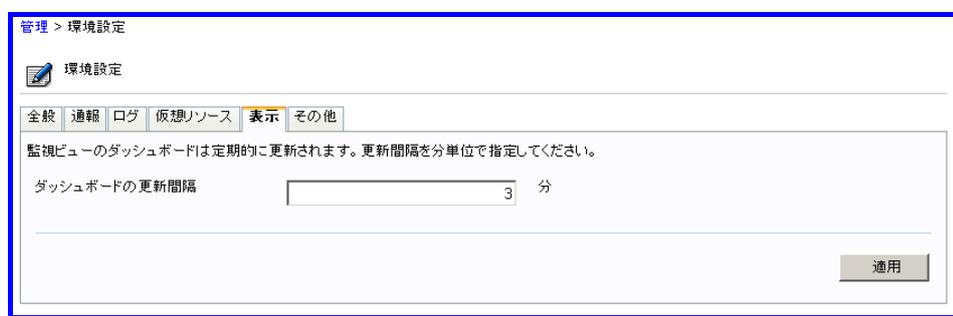
監視ビューの更新間隔を変更する場合、以下の手順に従って設定してください。

---

**注:** ダッシュボードの更新時間を変更した場合、再度ログインしてください。再度ログインを行わない場合、ダッシュボードの更新時間は変更されません。

---

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [環境設定] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに「環境設定」が表示されます。[表示] タブを選択します。



4. [ダッシュボードの更新間隔] テキストボックスにダッシュボードの自動更新する間隔を入力します。
5. [適用] をクリックします。

以上で監視ビューの更新時間の設定は完了です。

### 1.6.8. 連携する ESMPRO の情報を設定するには

ESMPRO/ServerManager と連携するための情報を登録します。

ESMPRO/ServerManager が ESMPRO/ServerAgent と通信するときに使用する SNMP コミュニティ名を既定値の「public」から変更する場合、以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [環境設定] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに「環境設定」が表示されます。[その他] タブを選択します。

管理 > 環境設定

環境設定

全般 通報 ログ 仮想リソース 表示 その他

サーバ登録を行う場合に必要となるSNMPコミュニティ名を指定します。

ESMPRO/SMの設定情報を確認し、この項目を設定ください。

SNMPコミュニティ名

適用

4. [SNMP コミュニティ名] テキストボックスに SNMP コミュニティ名を入力します。
5. [適用] をクリックします。

以上で連携する ESMPRO の情報の設定は完了です。



## 2. 関連製品の事前設定

本章では、SigmaSystemCenter で使用する関連製品の事前設定について記載します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

• 2.1	関連製品の事前設定に関して .....	22
• 2.2	スイッチを利用するための設定を行う .....	22
• 2.3	ロードバランサを利用するための設定を行う.....	29
• 2.4	ストレージを利用するための設定を行う.....	30
• 2.5	SIGMABLADEを利用するための設定を行う .....	34
• 2.6	SystemMonitor性能監視で性能を監視するための設定を行う.....	35
• 2.7	管理対象マシンで障害イベントを受信するための設定を行う .....	46
• 2.8	DPMを利用するための設定を行う.....	52
• 2.9	DPMでマスタマシンを利用してシナリオを作成する.....	64
• 2.10	VMwareを利用するための事前設定を行う.....	87
• 2.11	VirtualCenterでマスタVMを利用してテンプレートを作成する .....	88
• 2.12	Xenを利用するための事前設定を行う .....	90
• 2.13	XenCenterでマスタVMを利用してテンプレートを作成する.....	91

## 2.1. 関連製品の事前設定に関して

本章では、SigmaSystemCenterで利用する関連製品の事前設定に関して記載します。この章に記載されている内容は、SigmaSystemCenterで操作を行う前に済ませておく必要があります。既にご利用の環境で設定が完了している場合は、改めて設定を行う必要はありません。製品に応じて「3 SigmaSystemCenterへリソースを登録する」を参照し、関連製品をSigmaSystemCenterに登録してください。

## 2.2. スイッチを利用するための設定を行う

SigmaSystemCenter で利用できるスイッチには、NetvisorPro で管理するスイッチおよびスイッチブレード、SystemProvisioning のみで管理するスイッチブレードがあります。

NetvisorPro で管理するスイッチおよびスイッチブレードを利用する場合、事前にNetvisorPro を設定しておく必要があります。SystemProvisioning のみで管理するスイッチブレードを利用する場合も同様に、事前にスイッチブレードを設定しておく必要があります。

以下の手順の流れに沿ってスイッチの設定を行ってください。

## 2.2.1. スイッチブレードの初期設定を行うには

スイッチブレードの初期設定を行います。以下の手順に従って設定してください。

---

### 注:

- ・ 詳細は、スイッチに付属している「インテリジェントスイッチ ユーザーズガイド」を参照してください。なお、本項の手順内の参照先はスイッチに付属している「インテリジェントスイッチ ユーザーズガイド」を指します。
  - ・ スイッチブレードを1つのブレード収納ユニット内に2台実装する場合、それぞれのスイッチブレードの名前が重複しないようにしてください。詳細は、スイッチに付属している「インテリジェントスイッチ ユーザーズガイド」の「4 初期導入時のセットアップ」に記載されている「装置名称の設定」を参照してください。
- 

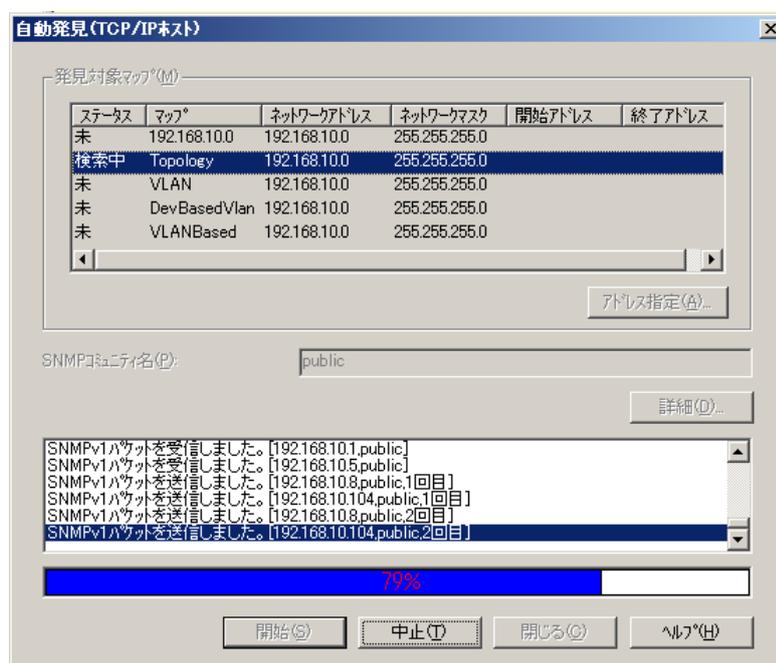
1. スイッチブレードに対して、マネージメント VLAN を作成します。
2. マネージメント VLAN に、マシン管理のために使用するネットワークアドレスを設定します。詳細は、「5 スイッチの管理と詳細設定」の「マネージメント VLAN」を参照してください。
3. スイッチブレード接続用の IP アドレスを設定します。  
詳細は、「4 初期導入時のセットアップ」の「IP アドレスの設定とインターフェースの有効化」を参照してください。
4. PXE ブートアシスト機能を有効にします。
5. すべての CPU ポートをマネージメント VLAN に登録します。  
詳細は、「6 コマンドリファレンス」の「Virtual LAN」を参照してください。
6. スパニングツリー機能を有効にします。  
詳細は、「5 スイッチの管理と詳細設定」の「スパニングツリー」を参照してください。
7. SNMP エージェントを有効にし、SNMP マネージャがアクセスするためのコミュニティ名とアクセスを許可する SNMP マネージャを設定します。  
詳細は、「5 スイッチの管理と詳細設定」の「SNMP エージェント」を参照してください。
8. マネージメント VLAN と SNMP 設定を確認した後、設定内容をフラッシュメモリに保存します。詳細は、「5 スイッチの管理と詳細設定」の「コンフィギュレーションファイルの管理」を参照してください。

## 2.2.2. NetvisorPro にスイッチを登録するには

NetvisorProが管理するスイッチのネットワークの設定後、以下の手順に従って登録してください。NetvisorProが管理するスイッチには、「2.2.1 スイッチブレードの初期設定を行うには」のSystemProvisioningのみで管理するスイッチブレード以外の、NetvisorProがサポートしているスイッチブレードも含まれます。

**関連情報:** NetvisorPro の詳細設定については、「WebSAM NetvisorPro ユーザーズマニュアル」の「5.1.8 アイコンを登録するには」、「5.1.12 アイコンを登録するには (自動登録・手動起動)」、「5.5.4 自動的に物理トポロジ、VLAN マップを作成するには (NetvisorPro 側の操作について)」を参照してください。

1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [ESMPRO\_Netvisor] - [オペレーションウィンドウ] を選択し、NetvisorPro のオペレーションウィンドウを起動します。
2. [ツール(T)] メニューから [自動発見(V)] - [手動起動(F)] - [TCP / IP ホストの発見(I)] を選択します。
3. 「自動発見 (TCP / IP ホスト)」ダイアログボックスが表示されます。[アドレス指定] をクリックします。
4. IP アドレスの範囲を指定し、[開始(S)] をクリックします。



5. NetvisorPro のオペレーションウィンドウに、発見されたスイッチのアイコンが表示されます。
6. [ツール(T)] メニューから [自動発見(V)] - [手動起動(F)] - [物理トポロジ、VLAN の発見(Q)] を選択します。



7. NetvisorPro のオペレーションウィンドウの、Topology (物理トポロジ) マップ配下および VLAN マップ配下に発見されたアイコンが描画されます。

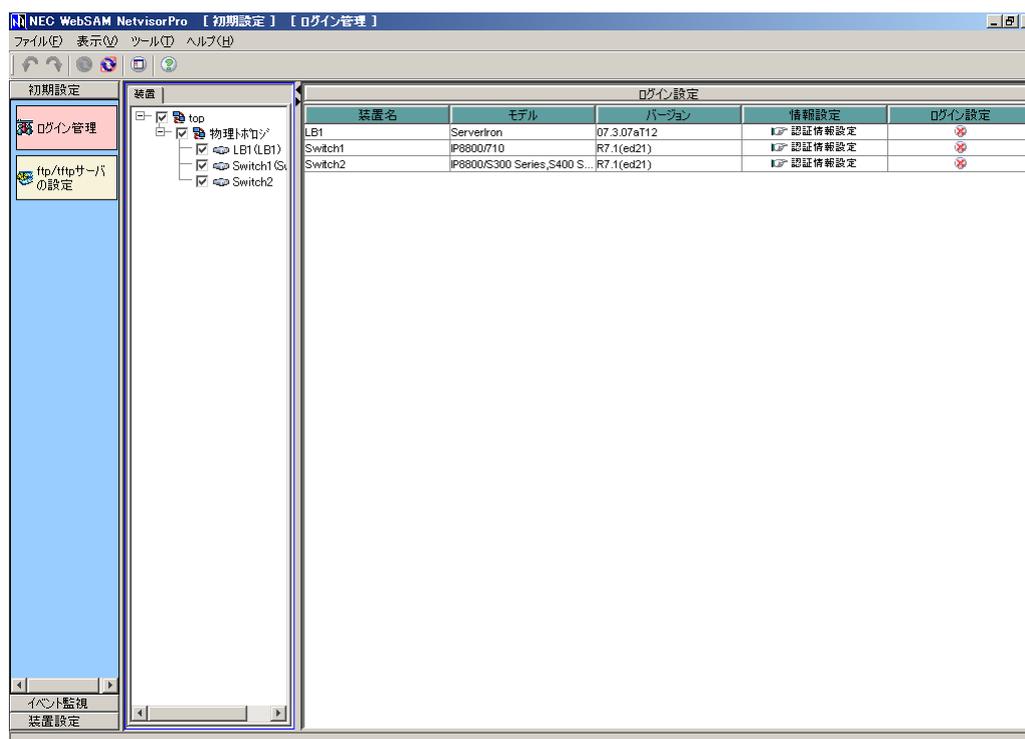
以上でスイッチの NetvisorPro への登録は完了です。

### 2.2.3. NetvisorPro でスイッチへのログイン管理設定を行うには

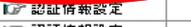
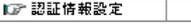
「2.2.2 NetvisorProにスイッチを登録するには」で登録したスイッチに対して、NetvisorProでスイッチへのログイン管理設定を行います。以下の手順に従って設定してください。

**関連情報:** NetvisorPro のログイン管理設定については、「WebSAM NetvisorPro 共通操作マニュアル」の「3.7 ログイン管理機能」を参照してください。

1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [NetvisorPro] - [NVPRO ウィンドウ] を選択し、「NEC WebSAM NetvisorPro」画面を起動します。
2. 「NEC WebSAM NetvisorPro」画面の [初期設定] ツールバーをクリックします。[初期設定] 内の [ログイン管理] をクリックします。
3. [初期設定] ペインの右側に [装置] ツリービューが表示されます。ツリーに表示される装置名の中から設定を行う装置のチェックボックスをオンにします。
4. 手順3で選択した装置名が、[ログイン設定] ペインに一覧表示されます。



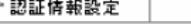
5. 設定を行う装置の [認証情報設定] をクリックします。

ログイン設定				
装置名	モデル	バージョン	情報設定	ログイン設定
LB1	ServerIron	07.3.07aT12		
Switch1	IP8800/710	R7.1(ed21)		
Switch2	IP8800/S300 Series,S400 S...	R7.1(ed21)		

6. ダイアログボックスが表示されます。[Login Password] テキストボックスと [Enable Password] テキストボックスにパスワードを正しく入力します。



7. 「NEC WebSAM NetvisorPro」画面の [ログイン設定] ペインに表示されるアイコンが変わります。

ログイン設定				
装置名	モデル	バージョン	情報設定	ログイン設定
172.16.87.57	cisco	12.2(13)T		
192.168.1.16	IP8800/720	R7.1(ed17)		

8. ダイアログボックスの [適用] をクリックします。

## 2 関連製品の事前設定

---

9. ログインテストを行う装置を選択し、右クリックでコンテキストメニューの [ログインテスト] を選択します。
10. [ログイン設定テスト結果] ペインにログインテストの結果が表示されます。

ログイン設定テスト結果		
装置名	テスト結果	詳細情報
192.168.1.16	成功しました。	

ログイン設定テスト結果		
装置名	テスト結果	詳細情報
172.16.87.57	失敗しました。	 詳細情報参照

“失敗しました” と表示された場合、[詳細情報参照] をクリックし、失敗の原因を確認し、原因を取り除き再度テストを行ってください。

以上でスイッチへのログイン管理設定は完了です。

## 2.3. ロードバランサを利用するための設定を行う

NetvisorPro が管理するロードバランサを利用する場合、事前に NetvisorPro にロードバランサを設定しておく必要があります。以下の手順の流れに沿って NetvisorPro にロードバランサの設定を行ってください。

### 2.3.1. NetvisorPro にロードバランサを登録するには

ロードバランサの設定後、NetvisorPro にロードバランサを登録します。

ロードバランサの登録手順は、スイッチの登録手順と同じですので、「2.2.2 NetvisorPro にスイッチを登録するには」を参照してください。

### 2.3.2. NetvisorPro でロードバランサへのログイン管理設定を行うには

NetvisorPro でロードバランサへのログイン管理設定を行います。

ロードバランサへのログイン管理設定手順は、スイッチへのログイン管理設定手順と同じですので、「2.2.3 NetvisorPro でスイッチへのログイン管理設定を行うには」を参照してください。

## 2.4. ストレージを利用するための設定を行う

ストレージを利用する場合、事前にストレージ関連製品の設定をしておく必要があります。SigmaSystemCenter で利用できるストレージには、iStorage、CLARiX、および Symmetrix があります。以下の手順の流れに沿って各種ストレージの設定を行ってください。

### 2.4.1. 各ストレージの事前設定を行う

SigmaSystemCenter からストレージ装置に対して行うことができる設定は、ディスクボリュームのアクセスコントロール設定のみです。ストレージ装置側の設定や、ストレージ制御ソフトウェアに対しての設定は行いません。ストレージ制御ソフトウェアを使用して事前に環境を設定しておく必要があります。

ご利用のストレージに応じて以下を設定してください。

#### ◆ iStorage の場合

SystemProvisioning で iStorage を管理するためには、事前に iStorage 環境で iStorageManager の初期設定を行う必要があります。初期設定の詳細については、iStorageManager のマニュアルを参照してください。

1. iStorageManager の設定  
iStorageManager の利用者アカウントを登録します。
2. WebSAM iStorageManager Integration Base の SG ファイルの設定  
WebSAM iStorageManager Integration Base から iStorage 基本制御を利用するための設定を行います。
3. iStorageManager によるディスクアレイの設定  
SystemProvisioning で管理対象とするディスクアレイを登録します。
4. iStorage に LD を作成  
ディスクアレイに LD を作成します。
5. iStorage に LD セットの作成とアクセスコントロールの設定  
ディスクアレイに LD セットを作成し、アクセスコントロールを WWN モードに設定します。

---

#### 注:

- ・ iStorage D8 を使用する場合、SigmaSystemCenter では論理パーティション単位での制御のみ可能となります。複数の論理パーティションにまたがった構成変更には対応していません。
  - ・ CPU ブレード置換を利用する場合、事前にブレード単位 (IO ブレード / CPU ブレード)、または、WWN 単位で LD セットを作成してください。事前に LD セットが作成されていない場合、CPU ブレード置換後に置換元、置換先のマシンに対するストレージのアクセスコントロールが正しく行えません。
-

◆ CLARiX の場合

SystemProvisioning で CLARiX のディスクアレイ装置を利用するためには、管理サーバ上に Navisphere Agent と Navisphere CLI をインストールする必要があります。

詳細については、Navisphere のマニュアルを参照してください。

1. Navisphere Agent と Navisphere CLI のインストール  
管理サーバ上に Navisphere Agent と Navisphere CLI をインストールし、CLARiX に対してコマンドを発行する環境に合わせて、Navisphere Agent と Navisphere CLI の設定を行います。
2. ディスクアレイの設定、ストレージグループの作成  
SystemProvisioning で利用する CLARiX ディスクアレイの設定および、ストレージグループを作成します。

◆ Symmetrix の場合

SystemProvisioning で Symmetrix のディスクアレイ装置を利用するためには、管理サーバ上に SYMCLI をインストールする必要があります。

詳細については、SYMCLI のマニュアルを参照してください。

1. SYMCLI のインストール  
管理サーバ上に SYMCLI をインストールし、Symmetrix に対してコマンドを発行する環境に合わせて、SYMCLI の設定を行います。  
Symmetrix ストレージ管理サーバを別に構築する、または構築済みの場合は、そのサーバに SYMAPI がインストールされていることを確認し、管理サーバ上の SYMCLI の設定を、SYMAPI を利用するように変更してください。
2. ディスクアレイの設定、論理ディスクの作成  
SystemProvisioning で利用する Symmetrix ディスクアレイの設定および、論理ディスクを作成します。

---

**注:** SigmaSystemCenter での運用を開始する前にディスクボリュームが既に接続済みの場合、ディスクボリュームの接続を切断しておく必要があります。

---

### 2.4.2. 論理ディスクを初期化する

SystemProvisioning にストレージ上の論理ディスクを追加する前に初期化をする必要があります。以下の操作はストレージ管理ソフトウェアで論理ディスクを作成した後に一度だけ実行します。

以下の手順に従って初期化してください。

---

**注:** 初期化をしていない論理ディスクを接続した場合、OS 配布後にディスクとしての認識はされますが、利用できる状態ではありません。

---

1. OS に論理ディスクを認識させます。
2. ディスクの署名を作成します。
3. パーティション / ボリュームの作成をします。
4. フォーマットをします。

以上で論理ディスクの初期化は完了です。

### 2.4.3. パーティション / ボリュームのドライブレター設定を考慮する

マシン構成の変更時にストレージ上の論理ディスクを接続するとき、論理ディスク上のパーティション / ボリュームのドライブレターは、配布イメージ作成までの論理ディスク接続状況や OS の種別によって決まります。運用計画に従って配布イメージを作成してください。

配布イメージ種別	配布イメージ作成時までの論理ディスク接続状況		OS		
			Windows Server 2000	Windows Server 2003	Linux
フルバックアップ型	論理ディスクを接続したことがない		OSがドライブレターを割り当てます。管理対象マシンの内蔵ディスクを含めて通常Cドライブから順に割り当てられます。		
	論理ディスクを接続したことがある	配布後と同じ論理ディスク	論理ディスク上のパーティション / ボリュームに割り当てていたドライブレターと同じになります。		
		配布後と異なる論理ディスク	OSがドライブレターを割り当てます。管理対象マシンの内蔵ディスクを含めて通常Cドライブから順に割り当てられます。		
展開型	論理ディスクを接続したことがない		OSがドライブレターを割り当てます。管理対象マシンの内蔵ディスクを含めて通常Cドライブから順に割り当てられます。		—
	論理ディスクを接続したことがある	配布後と同じ論理ディスク	論理ディスク上のパーティション / ボリュームに割り当てていたドライブレターと同じになります (※1)。	OSがドライブレターを割り当てます。管理対象マシンの内蔵ディスクを含めて通常Cドライブから順に割り当てられます。	—
		配布後と異なる論理ディスク	OSがドライブレターを割り当てます。管理対象マシンの内蔵ディスクを含めて通常Cドライブから順に割り当てられます。		—

※1 配布イメージ中にディスク情報 (ディスクのシグネチャ、ドライブレターの情報) を保持するために、配布後も同じドライブレターが割り当てられます。

## 2.5. SIGMABLADE を利用するための設定を行う

SIGMABLADE controller を使用して SIGMABLADE-H を管理する場合、事前に SIGMABLADE controller の設定を行う必要があります。以下の手順の流れに沿って SIGMABLADE controller の設定を行ってください。

---

**注:** SIGMABLADE controller では、ブレード収納ユニットを "Enclosure" と表記していません。

---

### 2.5.1. SIGMABLADE controller を利用するための設定を行う

SIGMABLADE controller のインストールからブレード収納ユニットの登録までを行います。SigmaSystemCenter では、SIGMABLADE controller に登録されたブレード収納ユニットに搭載されている SIGMABLADE を管理することができます。

---

**関連情報:** SIGMABLADE controller の設定手順については、「SIGMABLADE controller ユーザーズガイド」の「コンソール操作編」を参照してください。

---

1. SIGMABLADE controller のすべてのコンポーネントを管理サーバへインストールします。
2. SIGMABLADE controller コンソールを起動します。
3. サーバロケータへ接続（ログイン）します。
4. サーバロケータに SIGMABLADE controller サーバを登録します。
5. サーバを選択して、Enclosure を登録します。

以上で SIGMABLADE controller を利用するための設定は完了です。

## 2.6. SystemMonitor 性能監視で性能を監視するための設定を行う

SystemMonitor 性能監視は、Windows サービスとしてバックグラウンドで動作しており、システムの性能状況を表示する機能と性能異常を SystemProvisioning へ通報する機能を持っています。

SystemMonitor 性能監視で性能監視機能を利用する場合、事前に設定を行う必要があります。以下の手順の流れに沿って SystemMonitor 性能監視の設定を行ってください。

### 2.6.1. 監視対象マシンのユーザアカウントを設定する

SystemMonitor 性能監視の監視対象とするマシンに対して、ユーザアカウントの設定が必要です。監視対象マシンの条件によってユーザアカウントの規定が異なりますので、以下に沿ってユーザアカウントを設定してください。

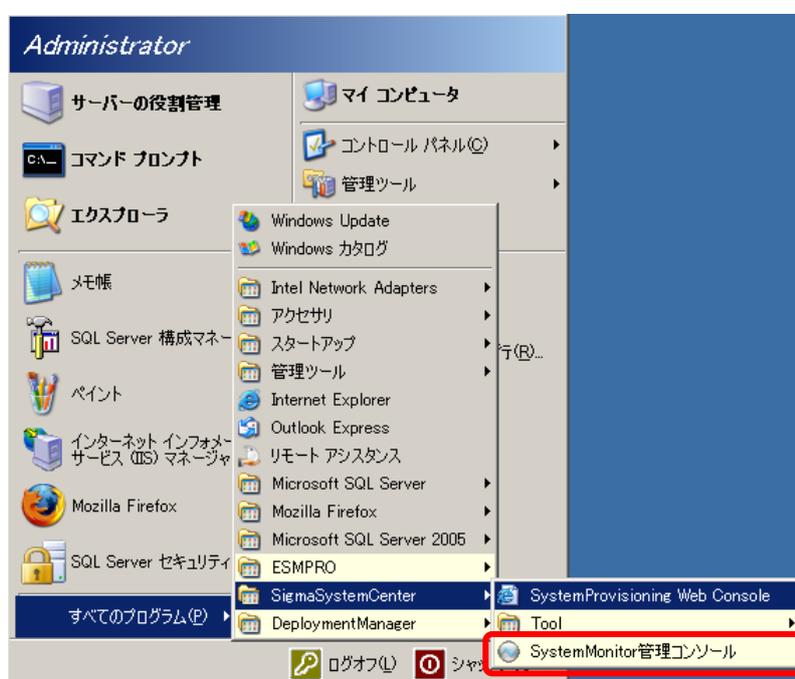
- ◆ 監視対象マシンの OS が Windows の場合  
性能監視サービスが監視対象マシンにアクセスするためのユーザアカウントを用意する必要があります。アカウントは、監視対象マシンの OS 管理者権限を所有している必要があります。
- ◆ 監視対象マシンの OS が Linux を監視対象マシンとする場合
  - 性能監視サービスが監視対象マシンにアクセスするためのユーザアカウントを用意する必要があります。
  - telnet を使用して接続する場合は、telnet サーバをインストールし、サービスを有効にします。また、ファイアウォールが設定されている場合は telnet をファイアウォールの対象外にします。
  - SSH を使用して接続する場合は、SSH を有効にします。
- ◆ VMware ESX3.x を監視対象マシンとする場合
  - 性能監視サービスが監視対象マシンにアクセスするためのユーザアカウントを用意する必要があります。
  - Virtual Infrastructure Client を使用して、接続用のアカウントに、"No ACCESS" 以外の "role" を設定する必要があります。
  - ファイアウォールが設定されている場合、SSL を対象外にします。
- ◆ Xen Server を監視対象マシンとする場合
  - 性能監視サービスが監視対象マシンにアクセスするためのユーザアカウントを用意する必要があります。
  - ファイアウォールが設定されている場合は、SSL を対象外にします。

## 2.6.2. SystemMonitor 性能監視で管理サーバの設定を行うには (初回起動時のみ)

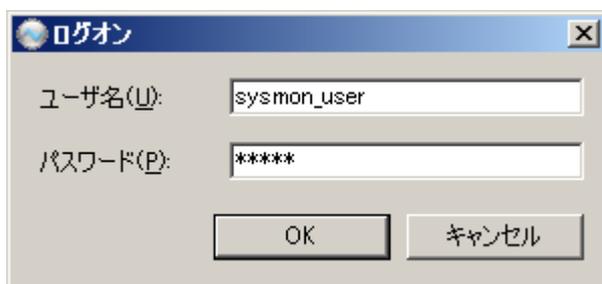
SystemMonitor 性能監視で SystemMonitor 性能監視管理サーバの設定を行います。以下の手順に従って設定してください。

**関連情報:** SystemMonitor 性能監視管理サーバの設定については、「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」の「2.2 管理サーバの登録」を参照してください。

1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [SigmaSystemCenter] - [SystemMonitor 管理コンソール] を選択し、管理コンソールを起動します。



2. 「ログオン」ダイアログボックスが表示されます。[ユーザ名] テキストボックス、[パスワード] テキストボックスにユーザ名およびパスワードを入力します。



3. 初回起動時のみ、「管理サーバ」ダイアログボックスが表示されます。各項目を入力します。



4. [OK] をクリックします。

以上で、SystemMonitor 性能監視で管理サーバの設定は完了です。

### 2.6.3. SystemMonitor 性能監視で接続設定を行うには

性能監視サービスが監視対象マシンにアクセスするためのアカウント名 / パスワードの設定を行います。以下の手順に従って設定してください。

**関連情報:** 接続設定については、「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」の「2.3 監視対象マシンとの接続設定」を参照してください。

1. 管理コンソールのメイン画面を起動します。
2. ツリーの管理サーバ名を右クリックし、[環境設定] を選択します。
3. 「環境設定」画面が表示されます。[接続] タブを選択し、各項目を入力します。



4. [OK] をクリックします。

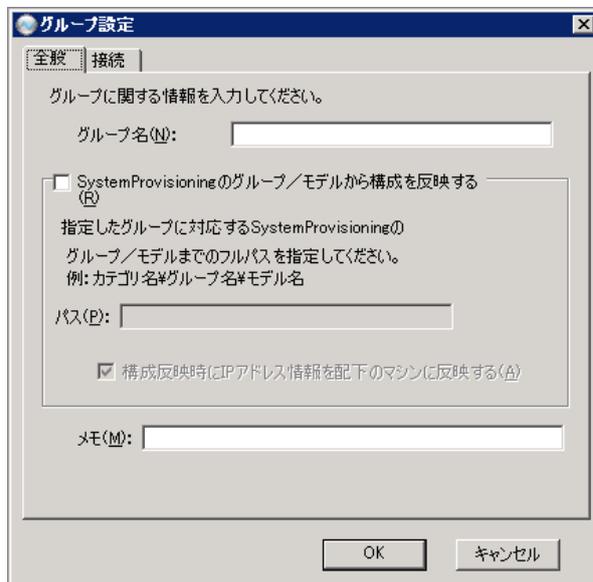
以上で、SystemMonitor 性能監視での接続設定は完了です。

## 2.6.4. SystemMonitor 性能監視でグループを追加するには

SystemMonitor 性能監視では、監視対象マシンをグループ単位で管理します。以下の手順に従ってグループを追加してください。

**関連情報:** グループ追加の詳細については、「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」の「4.1.1 ナビゲーションツリーウィンドウでの指定」を参照してください。

1. 管理コンソールのメイン画面を起動します。
2. ツリーの管理サーバ名を右クリックし、[グループの追加] を選択します。
3. 「グループ設定」ダイアログボックスが表示されます。[全般] タブを選択します。



4. [グループ名] テキストボックスにグループ名を入力します。
5. [SystemProvisioning のグループ / モデルから構成を反映する] チェックボックスをオンにすると、このグループに対して、SystemProvisioning 運用グループの情報を反映させることができます。また、[パス] テキストボックスに対象とする SystemProvisioning の運用グループをフルパス名で指定します。該当するグループ / モデルで稼働中のマシンについてマシン名および、マシン状態 (正常 / エラー) などの情報を自動的に取得します。
6. 情報取得時にマシンの IP アドレス情報を反映する場合は、[構成反映時に IP アドレス情報を配下のマシンに反映する] チェックボックスをオンします。

**注:** 管理サーバの [環境設定] ダイアログボックスで設定した接続設定を使用する場合、[接続] タブでの設定変更は必要ありません。

以上で、SystemMonitor 性能監視でのグループの追加は完了です。

## 2.6.5. SystemMonitor 性能監視で監視対象マシンを追加するには

SystemMonitor 性能監視で監視する対象のマシンを追加します。以下の手順に従って追加してください。

- ◆ SystemProvisioning 運用グループの情報を反映してマシンを追加する場合

---

**関連情報:** SystemProvisioning 運用グループの情報を反映した監視対象マシンの追加については、「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」の「1.10 SystemProvisioning 連携機能」を参照してください。

---

1. 管理コンソールのメイン画面を起動します。
2. ツリーの管理サーバ名を右クリックし、[SystemProvisioning 構成反映] を選択します。
3. 確認ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

- ◆ 手動でマシンを追加する場合

---

**関連情報:** 監視対象マシンの追加については、「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」の「4.1 監視対象マシンの指定」を参照してください。

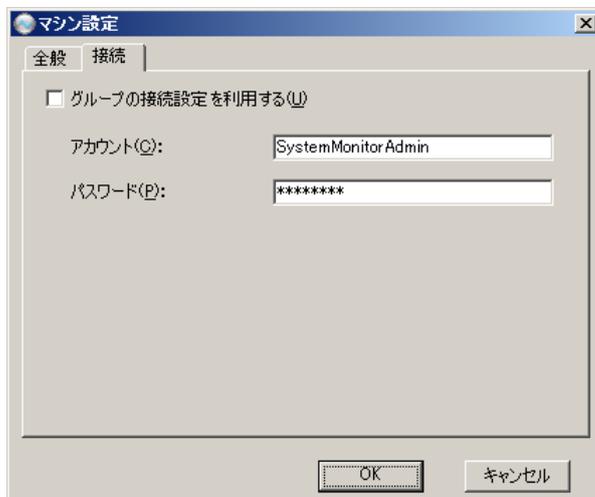
---

1. 管理コンソールのメイン画面を起動します。
2. ツリーの監視対象マシンを追加するグループ名を右クリックし、[マシン追加] を選択します。
3. 「マシン設定」ダイアログボックスが表示されます。
4. [全般] タブを選択し、各項目を選択 / 入力します。



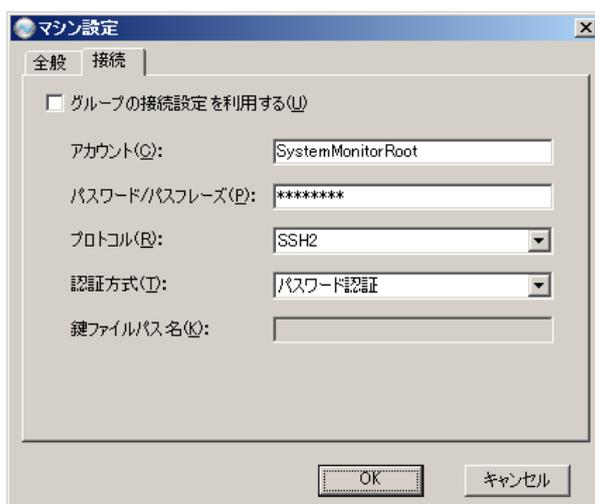
5. [接続] タブを選択し、各項目を選択 / 入力します。

<監視対象マシンの OS が Windows の場合>



The screenshot shows the 'マシン設定' (Machine Settings) dialog box with the '接続' (Connection) tab selected. The 'グループの接続設定を利用する(U)' (Use group connection settings) checkbox is unchecked. The 'アカウント(A):' (Account) field contains 'SystemMonitor Admin' and the 'パスワード(P):' (Password) field contains '\*\*\*\*\*'. The 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons are at the bottom.

<管理対象マシンの OS が Linux、ESX Server、Xen Server の場合>



The screenshot shows the 'マシン設定' (Machine Settings) dialog box with the '接続' (Connection) tab selected. The 'グループの接続設定を利用する(U)' (Use group connection settings) checkbox is unchecked. The 'アカウント(A):' (Account) field contains 'SystemMonitor Root', the 'パスワード/パスフレーズ(P):' (Password/Passphrase) field contains '\*\*\*\*\*', the 'プロトコル(R):' (Protocol) dropdown is set to 'SSH2', and the '認証方式(I):' (Authentication method) dropdown is set to 'パスワード認証' (Password authentication). The '鍵ファイルパス名(N):' (Key file path name) field is empty. The 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons are at the bottom.

6. [OK] をクリックします。

以上で、SystemMonitor 性能監視での監視対象マシンの追加は完了です。

## 2.6.6. SystemMonitor 性能監視で閾値監視、通報設定を行うには

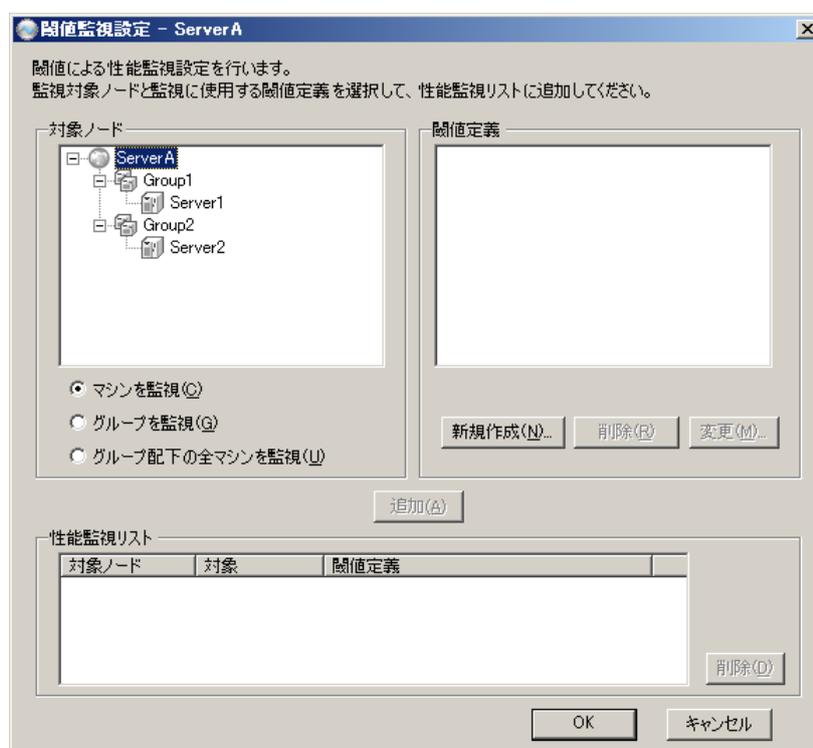
SystemMonitor 性能監視では、収集した性能情報の閾値監視により、監視対象マシンの負荷状態の異常を検出し、通報することができます。閾値監視情報は収集データをもとに設定します。あらかじめ設定したい性能情報の収集設定をしておく必要があります。以下の手順に従って設定してください。

---

**関連情報:** 閾値監視設定については、「SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド」の「6.1.1 閾値監視設定方法」を参照してください。

---

1. 管理コンソールのメイン画面を起動します。
2. ツリーの管理サーバ名を右クリックし、「閾値監視設定」を選択します。
3. 「閾値監視設定」ダイアログボックスが表示されます。



4. 監視単位によって監視対象として指定できるノードが表示されます。ツリー上で監視対象ノードを選択します。
5. 監視単位は、「マシンを監視」、「グループを監視」、「グループ配下の全マシンを監視」から1つ選択します。

---

**関連情報:** 監視単位については、「SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド」の「1.9 閾値監視と通報機能」を参照してください。

---

6. 閾値定義を設定します。新規に閾値定義を作成する場合は、[閾値定義] グループボックスの [新規作成 (N)] をクリックします。
7. 「閾値定義設定」ダイアログボックスが表示されます。1 つの性能情報に対する閾値を設定します。



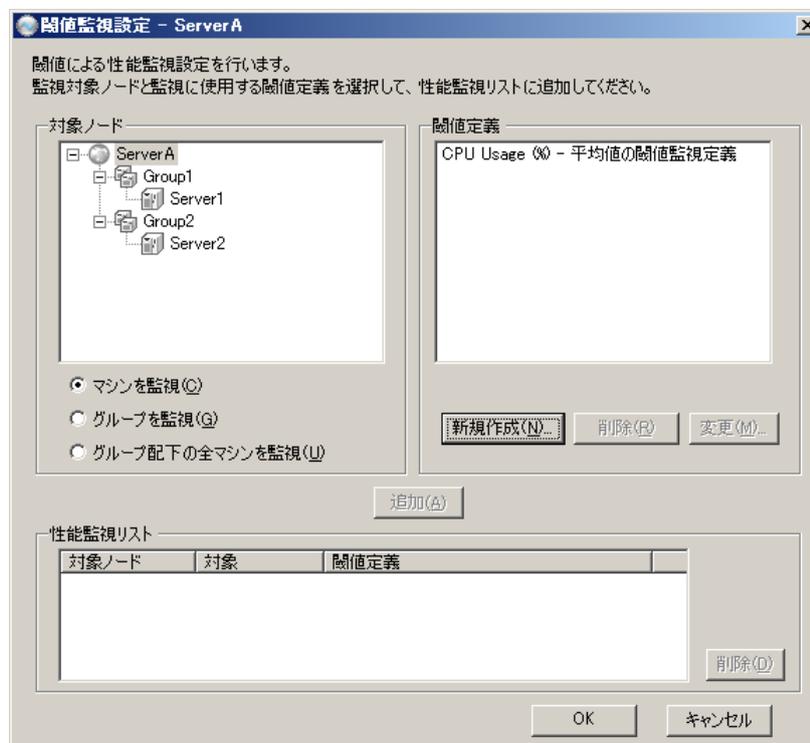
8. [上限閾値] タブ、[下限閾値] タブを選択し、各項目を選択 / 入力します。



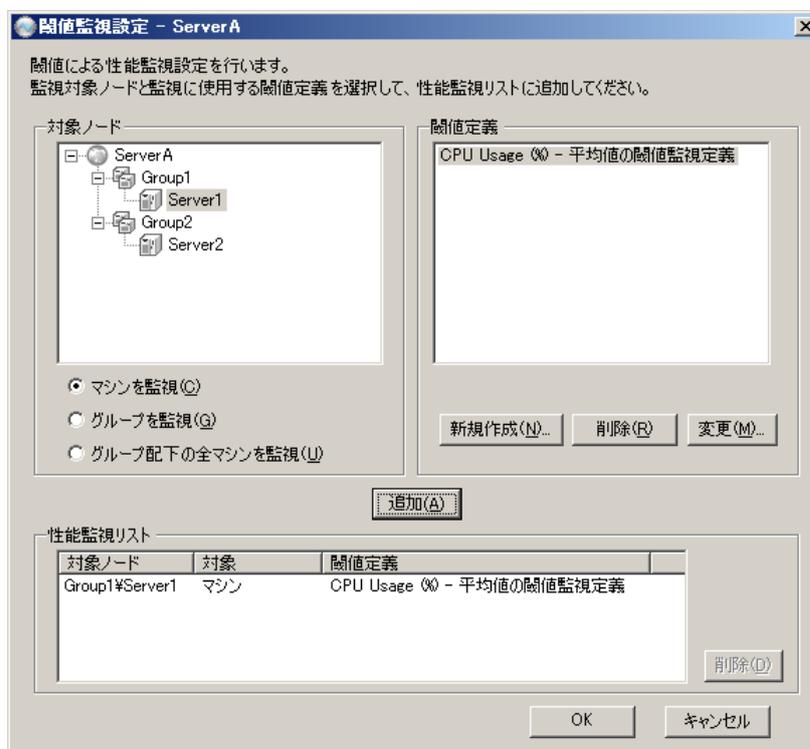
9. [通報設定] タブを選択し、各項目を選択 / 入力します。



10. [OK] をクリックします。「閾値監視設定」ダイアログボックスの [閾値定義] グループボックスに設定が反映されていることを確認します。



- 性能監視定義として指定する項目を対象ノードと閾値定義から選択し、[追加 (A)] をクリックして性能監視リストに性能監視定義を追加します。



- [OK] をクリックします。

以上で、SystemMonitor 性能監視での閾値監視、通報設定は完了です。

## 2.7. 管理対象マシンで障害イベントを受信するための設定を行う

管理対象マシンから管理サーバへ通報する場合、SNMP の Trap と ESMPRO/ServerAgent のマネージャ通報 (TCP/IP In-Band) の 2 つの通報手段があります。必ずどちらか 1 つ設定を行う必要があります。SNMP と ESMPRO/ServerAgent の両方に同じ通報先を指定した場合、同一内容のイベントを 2 通受信します。

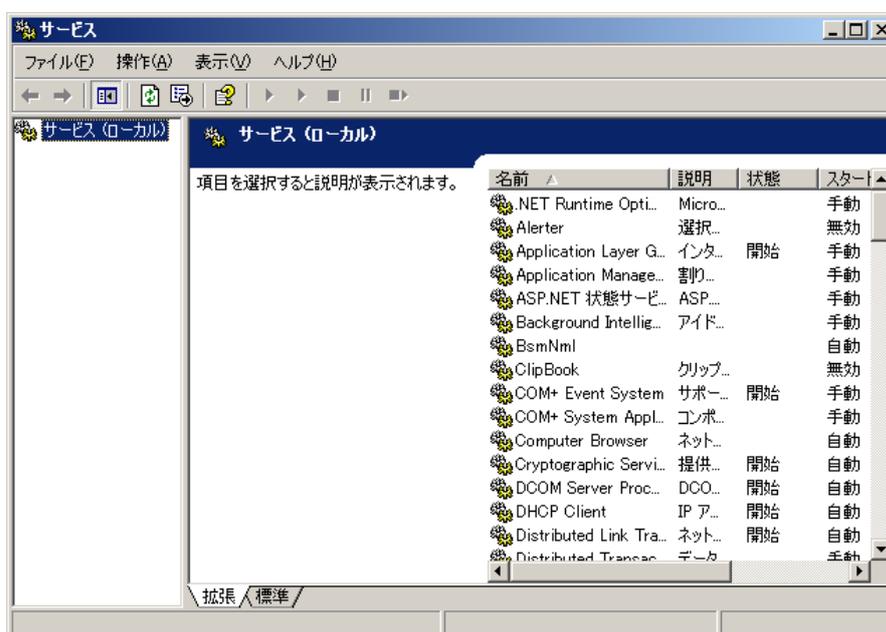
どちらか一方の設定を行う必要がありますが、ESMPRO/ServerAgent のマネージャ通報 (TCP/IP In-Band) を推奨します。以下の流れに沿って管理対象マシンで障害イベントを受信するための設定を行ってください。

### 2.7.1. Windows マシンで通報の受信設定を行うには

Windows マシンで障害イベントの通報を受信するための設定を行います。以下の手順に従って設定してください。

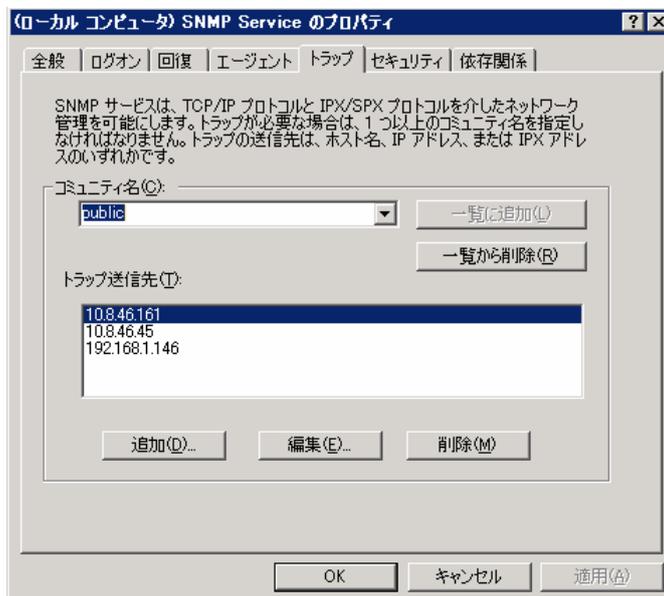
#### ◆ SNMP Service

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。

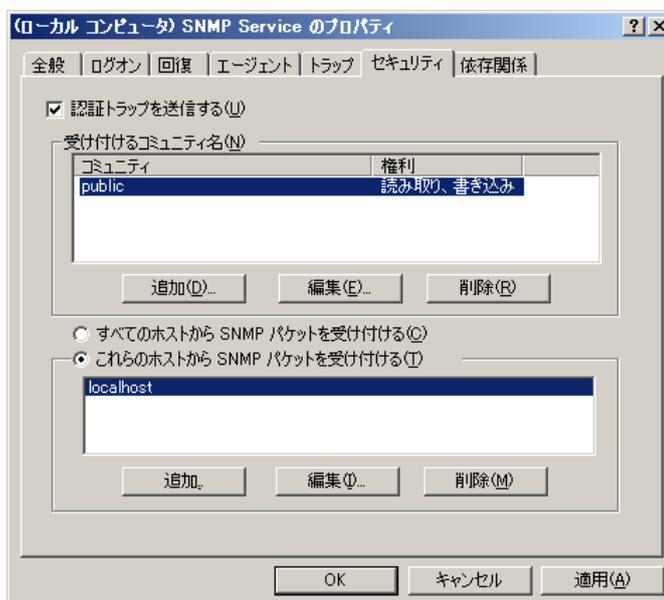


2. サービス一覧から「SNMP Service」を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. 「SNMP Service のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。[トラップ] タブを選択します。

4. SystemProvisioning の環境設定で設定した SNMP コミュニティ名を [コミュニティ名] プルダウンボックスから選択し (既定値は「public」)、トラップ送信先に SystemProvisioning のホスト名、または、IP アドレスを追加します



5. [セキュリティ] タブを選択し、[受け取るコミュニティ名] の権利は [読み取り、作成] または [読み取り、書き込み] に設定します。



6. [OK] をクリックします。

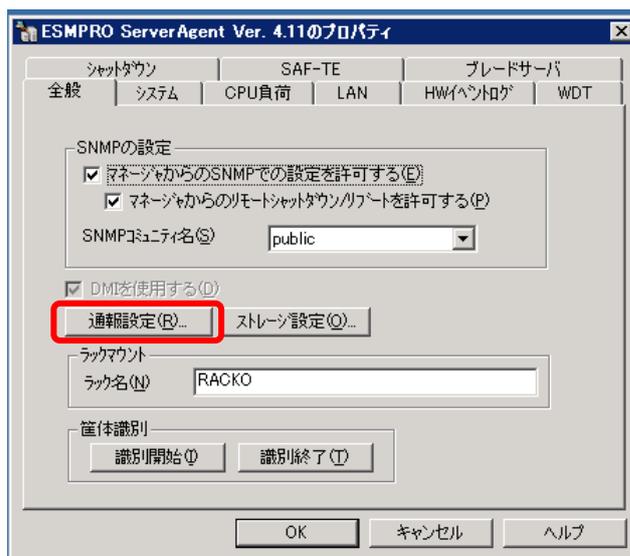
以上で、SNMP Service からの通報の受信設定は完了です。

## 2 関連製品の事前設定

### ◆ ESMPRO/ServerAgent (マネージャ通報 (TCP/IP In Band))

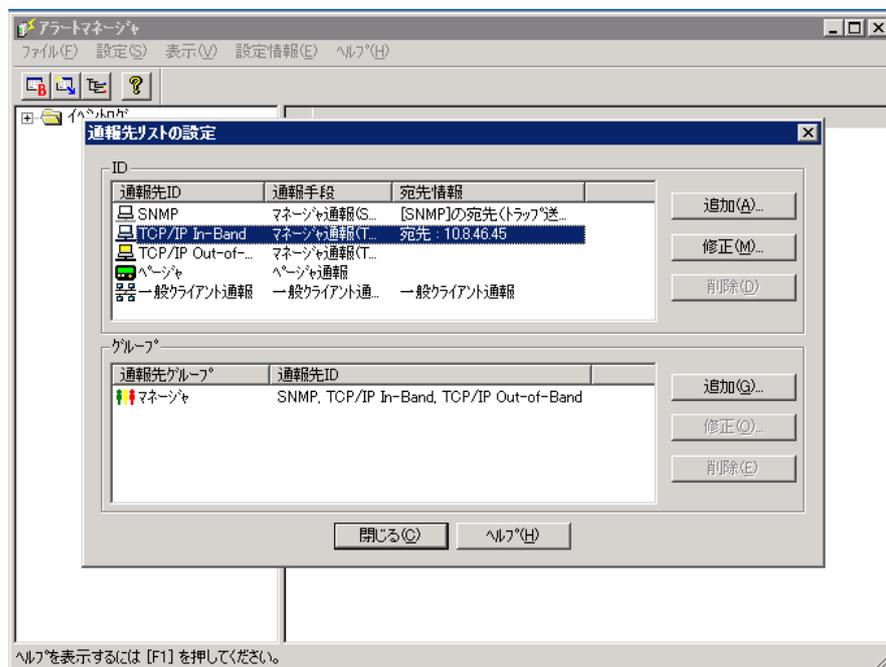
注：通報先はESMPRO/ServerAgentをインストールした直後は設定されていません。  
通報先を設定する必要があります。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [ESMPRO/ServerAgent] をダブルクリックします。
2. 「ESMPRO ServerAgent のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。



3. [全般] タブを選択し、[通報設定(R)] をクリックします。
4. 「アラートマネージャ」画面が表示されます。
5. [設定(S)] - [通報先リストの設定] を選択します。

- 「通報先リストの設定」ダイアログボックスが表示されます。通報先の設定方法は、[ヘルプ] をクリックし、オンラインヘルプの [設定概要] – [設定ツール] – [通報先の設定] – [マネージャ通報(TCP/IP In-Band)の設定] を参照してください。



- アラートマネージャを終了し、プロパティ画面の [OK] をクリックします。

以上で、ESMPRO/ServerAgent (マネージャ通報 (TCP/IP In Band)) からの通報の受信設定は完了です。

## 2.7.2. Linux マシンで通報の受信設定を行うには

Linux マシンで障害イベントの通報を受信するための設定を行います。以下の手順に従って設定してください。

---

**関連情報:** Linux マシンで通報の設定については、「ESMPRO/ServerAgent (Linux 版) ユーザーズガイド」を参照してください。

---

### ◆ SNMP

---

**注:** 通報先はESMPRO/ServerAgentをインストールした直後は設定されていません。通報先を設定する必要があります。

---

1. root 権限のあるユーザでログインします。
2. /opt/nec/esmpro\_sa/bin/ESMamsadm を起動します。
3. [通報基本設定] を選択し、**Enter** キーを押します。
4. [マネージャ通報 (SNMP)] を選択し、**Enter** キーを押します。
5. [通報手段有効] を選択してチェックを “\*” にします。
6. 必要に応じて [トラップ通報先 IP] に通報先サーバの IP アドレスを設定します。

### ◆ マネージャ通報 (TCP/IP In-Band)

---

**注:** 通報先はESMPRO/ServerAgentをインストールした直後は設定されていません。通報先を設定する必要があります。

---

1. root 権限のあるユーザでログインします。
2. /opt/nec/esmpro\_sa/bin/ESMamsadm を起動します。
3. [通報基本設定] を選択し、**Enter** キーを押します。
4. [マネージャ通報 (TCP\_IP In-Band)] を選択し、**Enter** キーを押します。
5. [通報手段有効] を選択してチェックを “\*” にします。
6. ESMamsadm の初期画面から [通報先リストの設定] を選択し、**Enter** キーを押します。
7. 必要に応じて [IP アドレス (またはホスト)] に通報先サーバの IP アドレスおよび [ポート番号] を設定します。

◆ CLUSTERPRO イベントの通報設定

CLUSTERPRO のイベントを受信する場合は、CLUSTERPRO が Syslog に登録するイベントを監視する必要があります。

ESMPRO/ServerAgent のコントロールパネルで、監視対象の CLUSTERPRO のイベントを設定します。

1. root 権限のあるユーザでログインします。
2. /opt/nec/esmpro\_sa/bin/ESMamsadm を起動します。
3. [Syslog イベントの設定] を選択し、**Enter** キーを押します。
4. [ソースに対する処理:] で [ON] を選択しチェックを “\*” にします。[追加...] を選択し、**Enter** キーを押します。
5. [Syslog イベントの追加] で、以下のイベントソースを設定します。

注: イベントの監視は、下記項目の「キーワード」で入力した文字列で行います。そのため、大文字 / 小文字 / スペースについても、設定内容の記載通りに入力してください。入力内容に誤りがあると通報できません。

項目	設定内容
ソース名	CLUSTERPRO
イベント ID	c00008a4
キーワード	<type:△nm><event:△2>△Server
Trap Name	サーバダウン

項目	設定内容
ソース名	CLUSTERPRO
イベント ID	c0005217
キーワード	<type:△rm><event:△9>△Monitor△rr..rr△failed
Trap Name	パブリックLAN異常

※ [キーワード] の設定内容の “△” は、半角スペースを示します。

## 2.8. DPM を利用するための設定を行う

SystemProvisioning は、DPM を利用して管理対象マシンへ OS、アプリケーション、パッチなどのインストールやマシンの起動、停止を行います。そのため、SystemProvisioning で管理対象とする物理マシンは、事前に DPM に登録しておく必要があります。

本節では、DeploymentManager (Windows / Linux 版) の初期設定を行い、管理対象マシンを登録する手順について説明します。HP-UX サーバを管理対象とする場合は、DeploymentManager (HP-UX 版) を使用します。

---

**関連情報:** DeploymentManager (HP-UX 版) での設定手順については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド機能編」を参照してください。

---

---

**注:** DPM では、一般マシンを“一般コンピュータ”と表記しています。

---

DPMは、Webコンソール (ブラウザ) を使用して操作します。Webコンソールの起動および初期設定については、「2.8.1 DPMのWebコンソールを起動するには」および「2.8.2 管理サーバ for DPMを登録するには」を参照してください。

DPM にマシンを登録するには、自動で登録する方法と手動で登録する方法があります。本書では自動で登録する方法を記載します。また、一般マシンと CPU ブレードとでは登録手順が異なります。

- ◆ 一般マシンを登録する場合  
一般マシンを登録する場合、「2.8.3 DPMに一般マシンを登録するには」を参照してください。
  
- ◆ CPU ブレードを登録する場合  
CPUブレードを登録する場合、「2.8.4 DPMにCPUブレードを登録するには」を参照してください。

---

**関連情報:**

- ・ 初めて DPM を利用する場合、設定の詳細については、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「3. DPM を初めてお使いになる場合 (初期導入時)」および「4. 管理サーバ for DPM にコンピュータを登録するまで」を参照してください。
-

---

**注:** 以下の2点の注意事項は DeploymentManager (HP-UX 版) に関する注意事項です。

- ・ DeploymentManager (HP-UX 版) コンソールからの HP-UX サーバ登録時に LAN コンソールからの検索方式で自動登録を行った場合、SystemProvisioning に登録されるマシンの NIC 番号が誤って登録され、SystemProvisioning からの HP-UX 配布処理が失敗する場合があります。この問題は LAN コンソールからの検索方式で自動作成されるマシンのプロパティ情報の管理用 LAN の MAC アドレスがクライアントの設定内容と異なる場合に発生します。この問題を回避するためには、DeploymentManager (HP-UX 版) のコンソールからマシンのプロパティ情報の管理用 LAN の MAC アドレスを、クライアントで設定した管理用 LAN の MAC アドレス情報に合わせる必要があります。マシンのプロパティ情報の変更方法については、「DeploymentManager (HP-UX 版) 操作マニュアル」の「3.2. コンピュータの登録」の「NX7000/NX7700i コンピュータの変更」を参照してください。クライアントの設定については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド 導入編」の「2.5 DeploymentManager クライアントのセットアップ」を参照してください。
- ・ マシンのプロパティ情報が誤った状態で SystemProvisioning にマシン登録されてしまった場合は、以下の手順に従ってマシンを登録してください。

1. SystemProvisioning から該当マシンを削除する。
  2. DeploymentManager (HP-UX 版) のコンソールから該当マシンのプロパティ情報を変更する。
  3. SystemProvisioning に該当マシンを登録する。
-

### 2.8.1. DPM の Web コンソールを起動するには

DPM の Web コンソールを起動します。以下の手順に従って起動してください。

---

**注:** Embedded 版の Tomcat を他のアプリケーションで使用している場合、Web サーバ for DPM が使用する Tomcat とのポートが重複するため、DPM の Web コンソールが表示されません。ポートが重複しないように設定する必要があります。ポートの変更は以下の手順に従って変更してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
  2. サービス一覧から「Apache Tomcat」のサービスが停止していることを確認します。
  3. Tomcat をインストールしたフォルダ¥conf¥Server.xml をテキストエディタで開きます。既定値は (C:¥Program Files¥Apache Software Foundation¥Tomcat 6.0) です。また、Server.xml は事前にバックアップを取っておくことを推奨します。
  4. Server.xml 内の「8005」、「8080」、「8009」を任意の未使用ポート番号に変更します。それぞれ同じポート番号には設定しないでください。
  5. Server.xml を保存し、エディタを閉じてください。
  6. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
  7. サービス一覧から「Apache Tomcat」を選択し、[サービスの開始] をクリックします。
- 

1. Web ブラウザを起動します。
2. Web ブラウザのアドレス欄に以下の URL を入力します。  
http://ホスト名:ポート番号/DeploymentManager/Start.jsp

(例)

<http://localhost:8080/DeploymentManager/Start.jsp>

---

**注:** URL の "DeploymentManager/Start.jsp" の箇所は大文字、小文字を区別します。正しく入力してください。また、ホスト名に Windows で推奨されていない文字列 (半角英数字と“-“(ハイフン) 以外) が含まれる場合、ブラウザのアドレス欄には、IP アドレスを指定してください。ホスト名を指定すると起動に失敗する可能性があります。

---

3. DPM の Web コンソールが起動します。

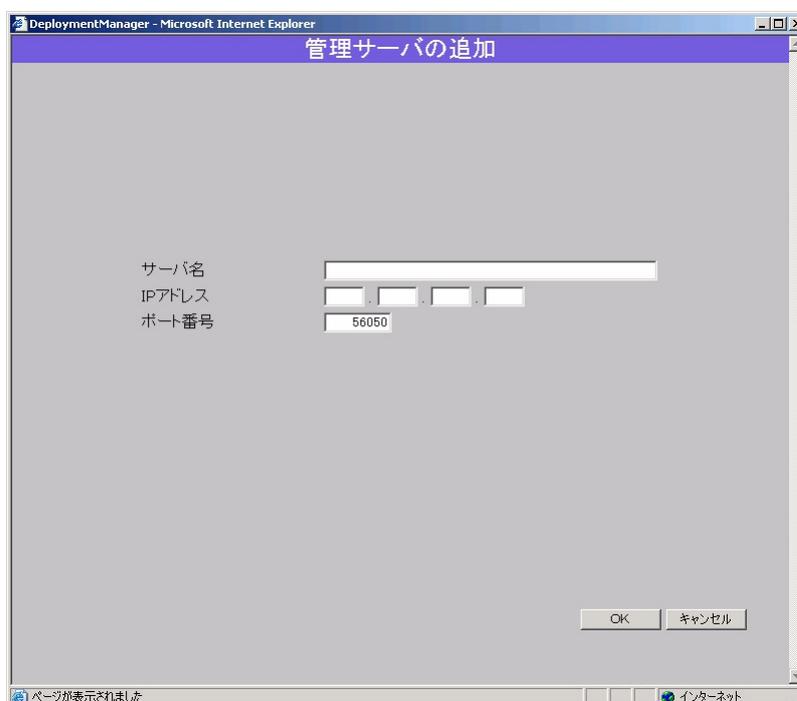
以上で DPM の Web コンソールの起動は完了です。

## 2.8.2. 管理サーバ for DPM を登録するには

管理サーバ for DPM の登録を行います。DPM の Web コンソールの初回起動時には、「管理サーバの追加」ウィンドウが表示されます。以下の手順に従って登録してください。

**注:** 初回起動時以降、管理サーバ for DPM を追加する場合の手順については、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「4.1 管理サーバの登録」を参照してください。

1. DPM の Web コンソールを起動します。
2. 「管理サーバの追加」ウィンドウが表示されます。



3. [サーバ名] テキストボックスに管理サーバ for DPM がインストールされているマシンのマシン名を入力します。
4. [IP アドレス] テキストボックスに管理サーバ for DPM がインストールされているマシンの IP アドレスを入力します。

**注:** ポート番号は管理サーバ for DPM で使用している番号と一致させる必要があります。管理サーバ for DPM で使用しているポート番号を変更しない場合は、既定値 (56050) を入力します。

5. [OK] をクリックします。

## 2 関連製品の事前設定

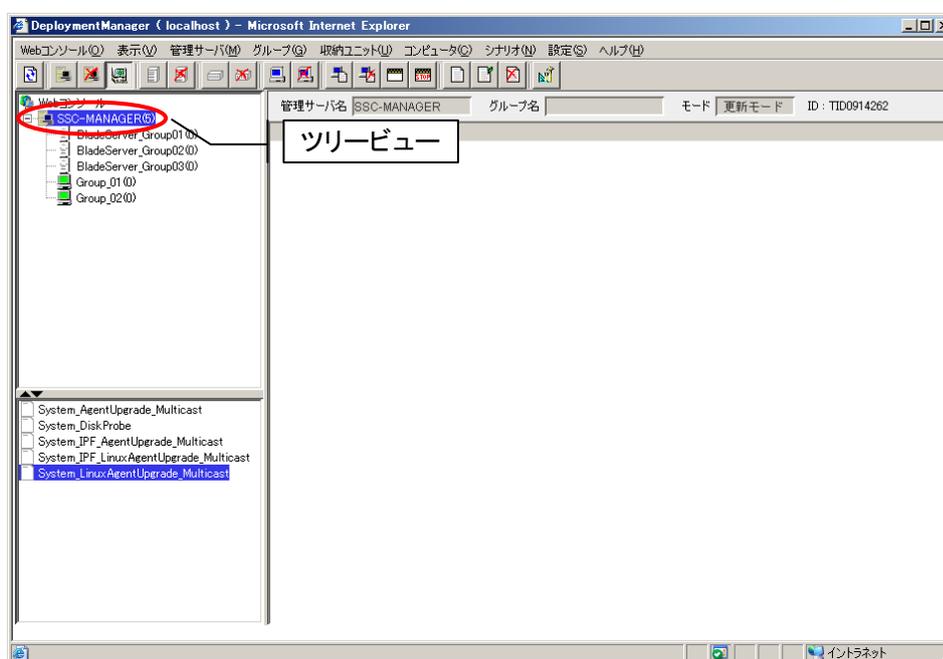
以上で管理サーバ for DPM の登録は完了です。

### 2.8.3. DPM に一般マシンを登録するには

DPM に一般マシンを登録します。以下の手順に従って DPM にマシンを登録してください。

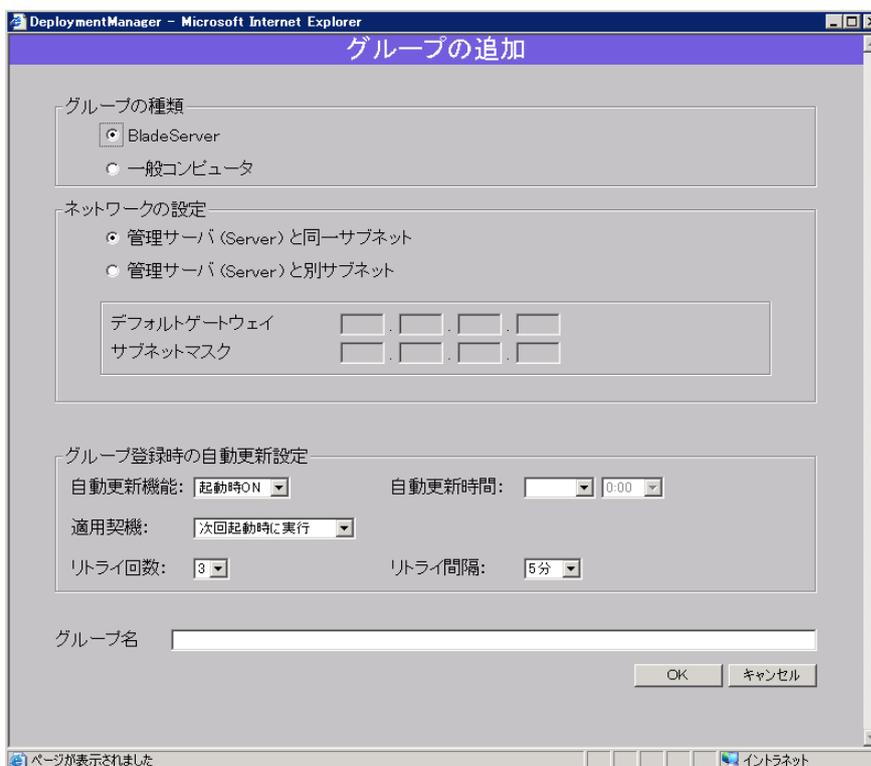
**関連情報:** 一般マシンの登録方法の詳細については、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「4.5 一般コンピュータの登録」を参照してください。

1. DPMのWebコンソールを起動します。DPMのWebコンソールの起動については、「2.8.1 DPMのWebコンソールを起動するには」を参照してください。
2. ツリービューに管理サーバ for DPM が表示されていることを確認してください。



3. メニューバーから  をクリックし、アクセスモードを [更新モード] に変更します。
4. ツリービュー上で右クリックし、[グループの追加] を選択します。登録するマシンのグループが既に存在する場合は、手順 7 へ進んでください。

5. 「グループの追加」ウィンドウが表示されます。マシンを登録するグループを作成するには、[グループの種類] グループボックスの [一般コンピュータ] を選択し、[グループ名] テキストボックスにグループ名を入力します。



**注:** 表示される設定値は実際のウィンドウと異なる場合があります。

6. [OK] をクリックします。続いて一般マシンの登録を行います。
7. 登録するマシンの電源を入れます。
8. しばらくすると、ツリービュー上に "新規コンピュータ" が追加されます。
9. "新規コンピュータ" をダブルクリックすると、電源をオンにしたマシンの "MAC アドレス" が表示されます。
10. "MAC アドレス" を右クリックし、[コンピュータの追加] を選択します。

11. 「コンピュータの追加」ウィンドウが表示されます。各項目を入力します。

The screenshot shows a web browser window titled "DeploymentManager - Microsoft Internet Explorer" with a sub-window titled "コンピュータの追加". The form contains the following fields and options:

- グループ名: Group\_01
- グループの種類: 一般コンピュータ
- コンピュータ名: pc-00-03-ff-00-65-11
- MACアドレス: 00 - 03 - ff - 00 - 65 - 11
- UUID: 63967A9E - 0EF3 - A143 - 9A4C - 07505BC16187
- シナリオ割当て許可
  - シナリオ名: [Dropdown]
  - シナリオ実行管理スケジュール
    - 一回のみ
    - 日単位
    - 週単位
    - 月単位
    - 2006年11月20日 時 分
  - クライアントからのシナリオ実行許可
    - クライアントパスワード: [Text Box]
- 電源管理スケジュール
  - 一回のみ
  - 曜日指定
  - 電源ON: 2006年11月20日 時 分
  - シャットダウン: 2006年11月20日 時 分
  - 強制的にシャットダウンする

Buttons: OK, キャンセル

12. [OK] をクリックします。

以上で DPM への一般マシンの登録は完了です。

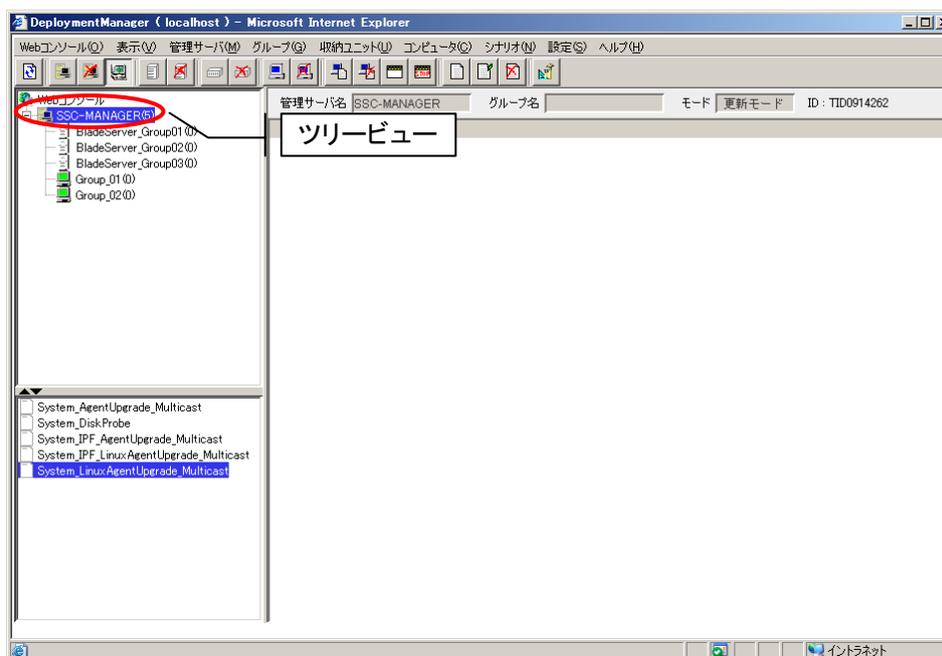
## 2.8.4. DPM に CPU ブレードを登録するには

DPM に CPU ブレードを登録します。以下の手順に従って登録してください。

### 関連情報:

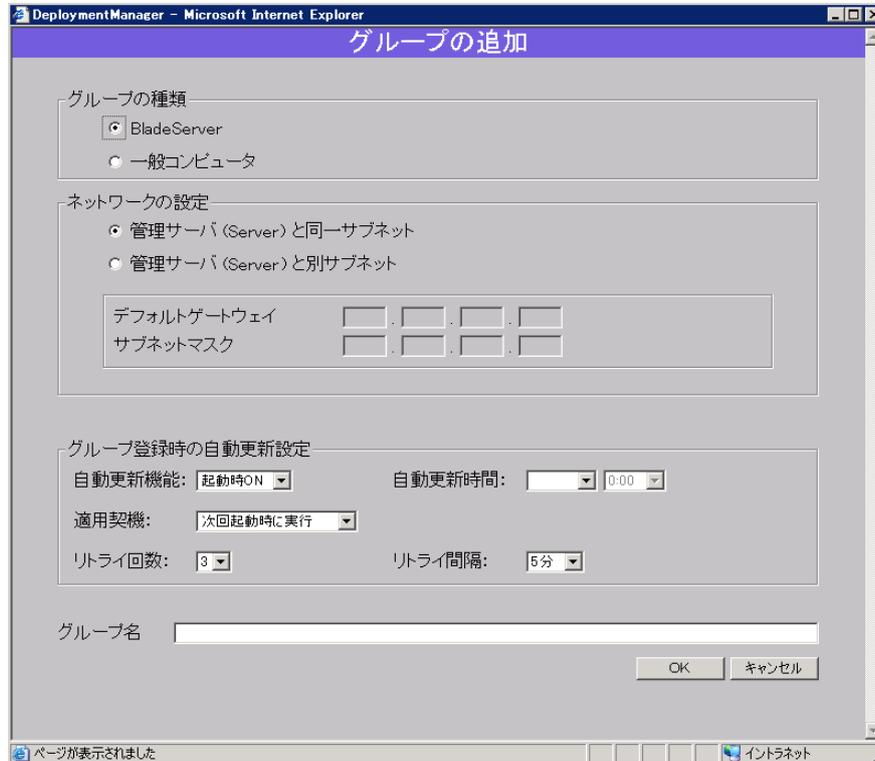
- ・ CPU ブレードの登録方法の詳細については、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「4.4 CPU ブレードの登録」を参照してください。
- ・ SIGMABLADE controllerを利用する場合は、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「5.1 SSC SIGMABLADE controller について」を参照してください。

1. DPMのWebコンソールを起動します。DPMのWebコンソールの起動については、「2.8.1 DPMのWebコンソールを起動するには」を参照してください。
2. ツリービューに管理サーバ for DPM が表示されていることを確認してください。



3. メニューバーから  をクリックし、アクセスモードを [更新モード] に変更します。
4. ツリービュー上で右クリックし、[グループの追加] を選択します。登録するCPUブレードのグループが既に存在する場合は、手順 7 へ進んでください。

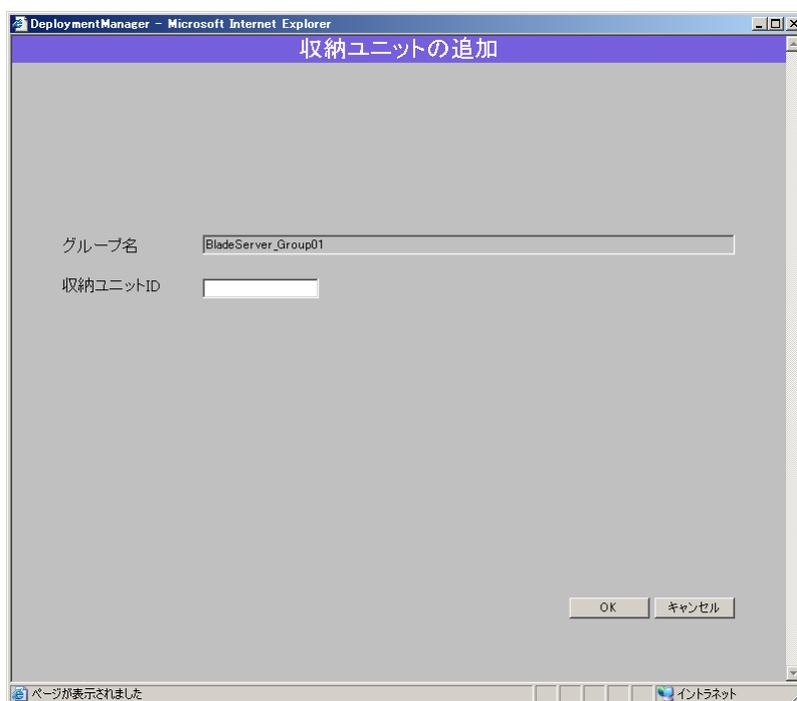
5. 「グループの追加」ウィンドウが表示されます。CPU ブレードを登録するグループを作成するには、[グループの種類] グループボックスの [BladeServer] を選択し、[グループ名] テキストボックスにグループ名を入力します。



**注：** 表示される設定値は実際のウィンドウと異なる場合があります。

6. [OK] をクリックします。続いて CPU ブレードが属する収納ユニットの登録を行います。
7. ツリービュー上で収納ユニットを追加したいグループを右クリックし、[収納ユニットの追加] を選択します。

8. 「収納ユニットの追加」ウィンドウが表示されます。[収納ユニット ID] を入力します。



9. [OK] をクリックします。続いて CPU ブレードの登録を行います。
10. CPU ブレードの電源を入れます。
11. しばらくすると、ツリービュー上に “新規コンピュータ” が追加されます。
12. “新規コンピュータ” をダブルクリックすると、電源をオンにした CPU ブレードの “MAC アドレス” が表示されます。
13. “MAC アドレス” を右クリックし、[コンピュータの追加] を選択します。

14. 「コンピュータの追加」ウィンドウが表示されます。必要な項目を入力します。

Deployment Manager - Microsoft Internet Explorer  
コンピュータの追加

グループ名: BladeServer\_Group01  
グループの種類: BladeServer  
コンピュータ名: pc-00-03-ff-00-65-11  
収納ユニットID: [ ] スロットID: [ ] スロット幅: [ ]  
MACアドレス: 00 - 03 - ff - 00 - 65 - 11  
UUID: 63967A9E - CEF3 - A143 - 9A4C - 07505BC16187

シナリオ割当て許可  
シナリオ名: [ ]

シナリオ実行管理スケジュール  
 一回のみ  日単位  週単位  月単位  
2006 年 11 月 20 日 時 分

クライアントからのシナリオ実行許可  
クライアントパスワード: [ ]

電源管理スケジュール  
 一回のみ  曜日指定  
 電源ON 2006 年 11 月 20 日 時 分  
 シャットダウン 2006 年 11 月 20 日 時 分  
 強制的にシャットダウンする

OK キャンセル

**注:** DPM に登録する CPU ブレードが SIGMABLADE controller でも管理されている場合、以下を確認してください。

- ・ SIGMABLADE controller を使用してマシンを管理する場合、マシンは SIGMABLADE controller と DPM の両方で管理されることになります。そのため、同一マシンが誤って別マシンとして SystemProvisioning に登録されないように注意が必要です。MAC アドレスに SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC の MAC アドレスが設定されていることを確認してください。設定されていない場合は、手動で登録してください。
- ・ MACアドレスの登録手順は、「6.2.5 SIGMABLADE controllerが認識している管理用NICについて」を参照してください。

15. [OK] をクリックします。

以上で DPM への CPU ブレードの登録は完了です。

## 2.8.5. 仮想マシンサーバまたは仮想マシンを DPM に登録するには

仮想マシンサーバまたは仮想マシンは、VirtualCenter または、XenEnterprise Pool Master といった仮想環境管理ソフトウェアで管理されるため、通常 DPM へ登録する必要はありません。ただし、以下の場合は仮想マシンサーバまたは、仮想マシンを DPM に登録してください。

- ◆ VM 最適配置機能や省電力機能などを使用する場合には、仮想マシンサーバを DPM に登録してください。
- ◆ 仮想マシンに対してアプリケーション、パッチなどのインストールを行う場合には、仮想マシンを DPM に登録してください。

登録手順は一般マシンと同様になります。「2.8.3 DPMに一般マシンを登録するには」を参照してください。

この場合、仮想マシンサーバもしくは、仮想マシンは、仮想環境管理ソフトウェアとDPMの両方で管理されることとなります。SigmaSystemCenter は、仮想環境管理ソフトウェアとDPMのそれぞれからマシン情報を収集します。同一マシンが誤って別マシンとしてSystemProvisioningに登録されないように、UUIDがDPMに登録されていることを確認してください。DPM へのマシン登録時に、「コンピュータの追加」ウィンドウを確認してUUIDが登録されていない場合には手動で入力してください。

## 2.9. DPM でマスタマシンを利用してシナリオを作成する

SystemProvisioning が管理対象マシンやグループへ配布する配布ソフトウェアの元となるリストアシナリオを作成する必要があります。リストアシナリオを作成するには、以下の流れに沿って DPM でマスタマシンを利用してシナリオの作成を行ってください。HP-UX サーバの場合は、DeploymentManager (HP-UX 版) を使用し、シナリオ作成を行います。「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド機能編」を参照し、シナリオ作成を行ってください。

### 1. マスタマシンの構築

元となるイメージ作成元マシンを作成する必要があります。このイメージ作成元マシンをマスタマシンと呼びます。マスタマシンは、OS のインストール、各種ドライバ、サービスパック / HotFix / Linux パッチファイルの適用やアプリケーションのインストールを行い、作成します。

マスタマシンの作成方法は、新規 OS をインストールして作成する場合と既存のコンピュータをマスタマシンにする場合があります。

また、ご利用の OS が Windows の場合と、Linux の場合で手順が異なります。

OSがWindowsで、新規OSをインストールしてマスタマシンを作成する場合は、「2.9.1 新規にOSをインストールしてマスタマシンを作成するには(Windows OS)」に進んでください。

OSがWindowsで、既存コンピュータをマスタマシンにする場合は、「2.9.2 既存マシンを利用してマスタマシンを作成するには (Windows OS)」に進んでください。

OSがLinuxで、新規OSをインストールしてマスタマシンを作成する場合は、「2.9.3 新規にOSをインストールしてマスタマシンを作成するには (Linux OS)」に進んでください。

OSがLinuxで、既存コンピュータをマスタマシンにする場合は、「2.9.4 既存マシンを利用してマスタマシンを作成するには (Linux OS)」に進んでください。

### 2. マスタマシンのバックアップの準備

マスタマシンの作成終了後、管理サーバ for DPM からマスタマシンのバックアップイメージを保存します。バックアップの採取方法は、単純なフルバックアップを行う方法と、Windows の場合は Sysprep (System Preparation Tool: OS イメージのディスク複製に利用するツール) を使用して行う方法、Linux の場合は個別設定情報を使用してバックアップを行う方法があります。設計に応じてバックアップ方法を選択してください。

「2.9.5 マスタマシンのバックアップに向け準備するには」では、Windows マシンで Sysprepを使用したバックアップ方法を記載します。

**3. バックアップ用シナリオファイルの作成**

バックアップを行うシナリオを作成します。このシナリオを実行すると、DPM にバックアップイメージが作成されます。

「2.9.6 バックアップ用シナリオファイルを作成するには」を参照してください。

**4. リストアシナリオの作成**

管理サーバに保存したバックアップイメージをリストアするためのシナリオを作成します。

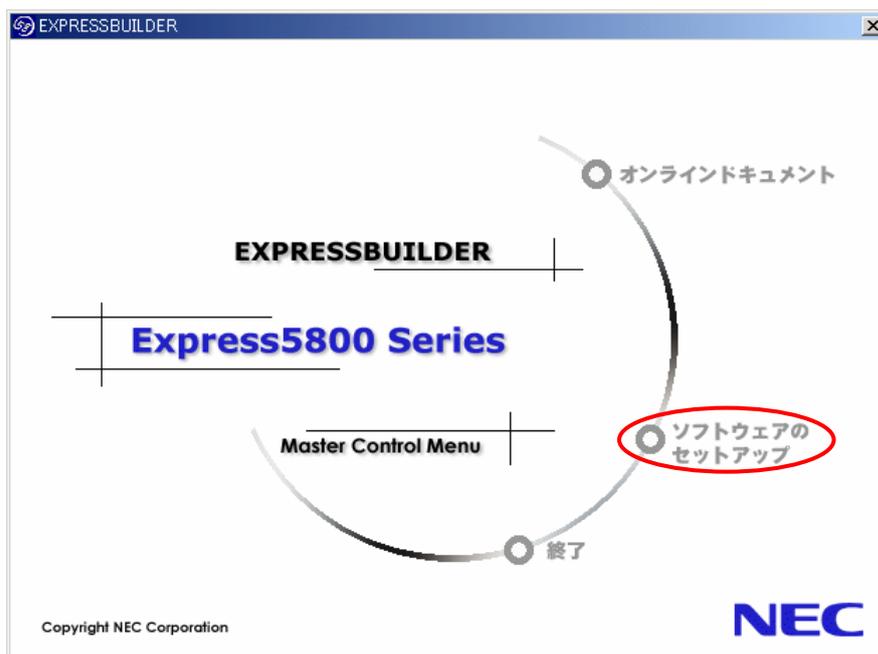
「2.9.7 リストア用シナリオファイルを作成するには」を参照してください。

このリストアシナリオを SystemProvisioning の配布ソフトウェアとして登録できます。  
実際の運用時に配布ソフトウェアを作成する際もこの手順となります。

## 2.9.1. 新規に OS をインストールしてマスタマシンを作成するには (Windows OS)

マシンへ新規に OS をインストールし、マスタマシンを作成します。以下の手順に従って作成してください。

1. EXPRESSBUILDER から必要モジュールの登録  
マシンに添付されている EXPRESSBUILDER からアップデートモジュールおよび ESMPRO/ServerAgent を登録します。
  1. DPMのWebコンソールからシナリオ実行中のマシンが存在しないことを確認してください。
  2. マシンに添付されている EXPRESSBUILDER を起動します。
  3. EXPRESSBUILDER の起動画面が表示されます。[ソフトウェアのセットアップ] を選択します。



4. [アップデートモジュールの DPM への登録] を選択し、アップデートモジュールを登録します。
5. EXPRESSBUILDER の起動画面で、[ソフトウェアのセットアップ] を選択します。
6. [ESMPRO] を選択します。
7. 「ESMPRO セットアップ」画面が表示されます。[DeploymentManager への登録] をクリックします。

8. [ESMPRO/ServerAgent] を選択し、ESMPRO/ServerAgent を DPM に登録します。



## 2. DPM を利用した OS のインストール

DPM のイメージビルダーで OS イメージの登録、および Windows 用のセットアップパラメータファイルの作成を行います。必要に応じて、HotFix、その他アップデートなどのイメージも登録してください。

---

**関連情報:** シナリオファイルの作成の詳細については、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「3.3 シナリオファイルの作成」を参照してください。

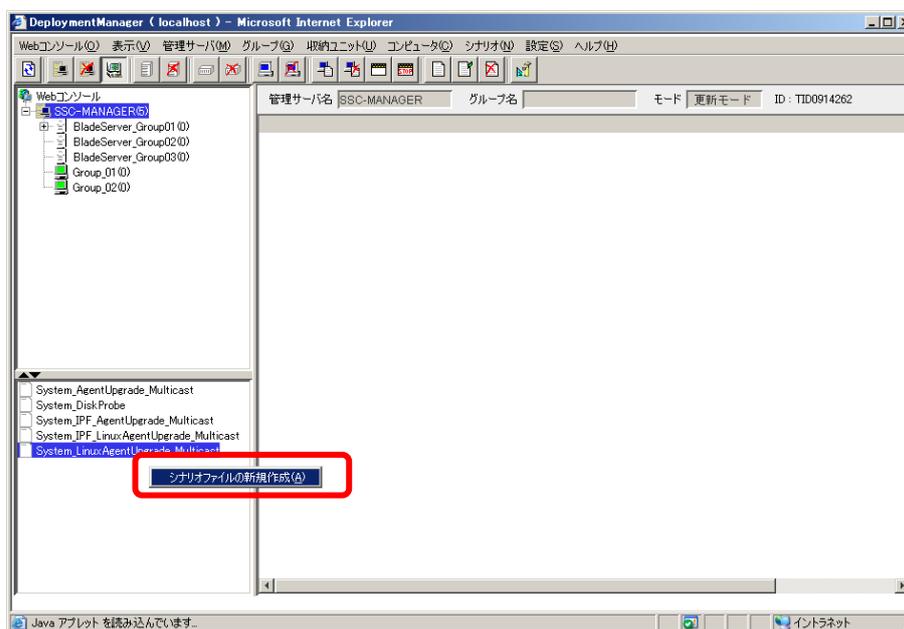
---

1. DPM の Web コンソールを起動します。
2. メニューバーから  をクリックし、アクセスモードを [更新モード] に変更します。

## 2 関連製品の事前設定

---

3. シナリオ名を右クリックし、[シナリオファイルの新規作成] を選択します。



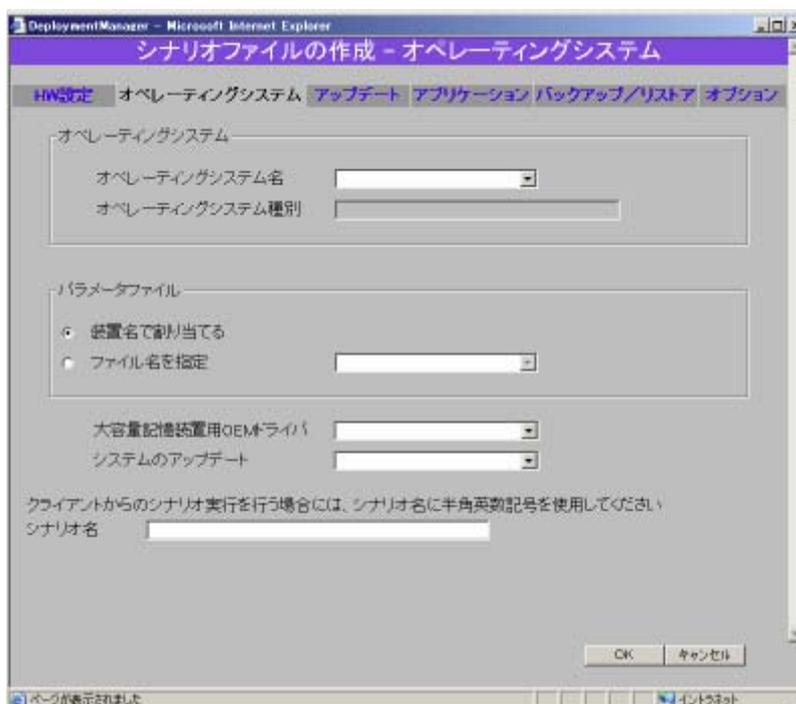
4. 「シナリオファイルの作成」ウィンドウが表示されます。AutoRAID の設定や、オフライン保守ユーティリティの設定を行う場合は、[HW 設定] タブを選択し、設定してください。

---

**関連情報:** AutoRAID の設定や、オフライン保守ユーティリティの設定方法については、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「6.1 BIOS/ファームウェアのアップデート」を参照してください。

---

5. [オペレーティングシステム] タブを選択し、[オペレーティングシステム名] プルダウンボックスから登録した OS イメージを選択し、各項目を選択 / 入力します。



6. [OK] をクリックします。
7. シナリオ実行時のオプションを設定する場合は、[オプション] タブを選択し、各項目を入力します。
8. [シナリオ名] を入力します。
9. [OK] をクリックします。  
システムのアップデートが選択されていない場合、システムのアップデート推奨の確認メッセージが表示されます。システムのアップデートが必要な場合は、[OK] をクリックします。
10. シナリオファイルの作成は、以上で完了です。DPM の Web コンソールのシナリオビューに作成したシナリオファイルが追加されるのを確認してください。

手順 1 で DPM に登録したアップデートモジュール、および ESM PRO/ServerAgent もインストールシナリオに追加する必要があります。

作成したインストールシナリオをマシンに割り当て、シナリオを実行することで、OS インストールと同時に、必要なソフトウェアがマシンにインストールされます。

### 3. SystemMonitor 性能監視の設定

SystemMonitor 性能監視を利用する場合は、以下の設定を行ってください。

1. 性能監視の監視対象にするすべてのマシンに、接続用のユーザアカウントを用意します。マスタマシンに、ユーザアカウントを作成します。ユーザアカウントの作成方法については、「2.6.1 監視対象マシンのユーザアカウント」を参照してください。
  2. マスタマシンの設定を変更します。OSによって、作業が異なります。
- OS が Windows 2000 の場合  
既定の設定では、性能情報カテゴリ「LogicalDisk」のデータ収集を行うことができません。次のコマンドをマスタマシン上で実行し、設定を変更します。

```
DISKPERF -Y
```

-Y	システムが再起動した際に、システムがすべてのディスクパフォーマンスカウンタを開始するように設定します。
----	---

- OS が Windows XP の場合  
既定の設定では、性能情報のデータ収集を行うことができません。マスタマシンのローカルセキュリティ設定を変更してください。変更方法については、「SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド」の「1.7 監視対象マシンへの接続」を参照してください。

以上で OS の新規インストールを伴うマスタマシンの作成 (Windows OS) は完了です。

## 2.9.2. 既存マシンを利用してマスタマシンを作成するには (Windows OS)

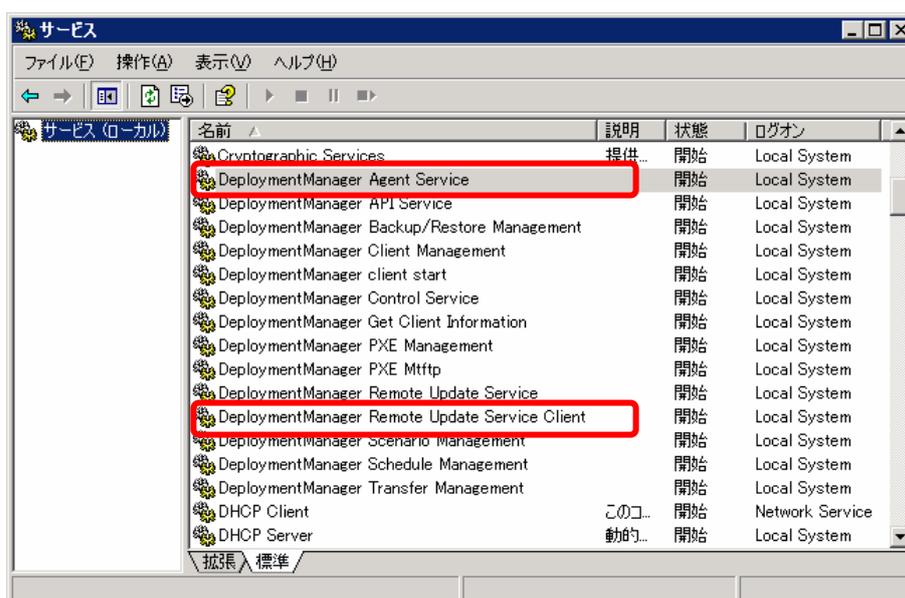
既存マシンを利用してマスタマシンを作成します。以下の手順に従って作成してください。

1. EXPRESSBUILDER から必要モジュールの登録  
マシンに添付されている EXPRESSBUILDER からアップデートモジュールおよび ESMPRO/ServerAgent を登録します。
  1. マシンに添付されている EXPRESSBUILDER を起動します。
  2. EXPRESSBUILDERの起動画面が表示されます。[ソフトウェアのセットアップ] を選択します。EXPRESSBUILDERの起動画面に関しては、「2.9.1 新規にOSをインストールしてマスタマシンを作成するには(Windows OS)」内、「1 EXPRESSBUILDERから必要モジュールの登録」の手順 3 を参照してください。
  3. [アップデートモジュールの DPM への登録] を選択し、アップデートモジュールを登録します。
  4. EXPRESSBUILDER の起動画面で、[ソフトウェアのセットアップ] を選択します。
  5. [ESMPRO] を選択します。
  6. 「ESMPRO セットアップ」画面が表示されます。[DeploymentManager への登録] をクリックします。
  7. 「ESMPROセットアップ」画面に関しては、「2.9.1 新規にOSをインストールしてマスタマシンを作成するには(Windows OS)」内、「1 EXPRESSBUILDERから必要モジュールの登録」の手順 8 を参照してください。
  8. [ESMPRO/ServerAgent] を選択すると、ESMPRO/ServerAgent が DPM に登録されます。

### 2. クライアントサービス for DPM のインストール確認

クライアントサービス for DPM がインストールされていることを確認します。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービスに [DeploymentManager Agent Service]、[DeploymentManager Remote Update Service Client] が登録されていることを確認してください。登録されている場合は、クライアントサービス for DPM はインストール済みです。



インストールされていない場合は、SigmaSystemCenter の製品 CD-R からクライアントサービス for DPM をインストールしてください。インストール手順については、「SigmaSystemCenter インストールガイド」を参照してください。

### 3. SystemMonitor 性能監視の設定

SystemMonitor 性能監視を利用する場合は、以下の設定を追加してください。

1. 性能監視の監視対象とするすべてのマシンに、接続用のユーザアカウントを用意します。マスタマシンに、ユーザアカウントを作成します。ユーザアカウントの作成方法については、「2.6.1 監視対象マシンのユーザアカウント」を参照してください。

2. マスタマシンの設定を変更します。OS によって、作業が異なります。

- OS が Windows 2000 の場合

既定の設定では、性能情報カテゴリ「LogicalDisk」のデータ収集を行うことができません。次のコマンドをマスタマシン上で実行し、設定を変更します。

```
DISKPERF -Y
```

-Y	システムが再起動した際に、システムがすべてのディスクパフォーマンスカウンタを開始するように設定します。
----	---

- OS が Windows XP の場合

既定の設定では、性能情報のデータ収集を行うことができません。マスタマシンのローカルセキュリティ設定を変更してください。変更方法については、「SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド」の「1.7 監視対象マシンへの接続」を参照してください。

以上で既存マシンを使用したマスタマシンの作成 (Windows OS) は完了です。

### 2.9.3. 新規に OS をインストールしてマスタマシンを作成するには (Linux OS)

マシンへ新規に OS をインストールし、マスタマシンを作成します。以下の手順に従って作成してください。

**注:** Linux マシンを管理対象マシンとして管理する場合、必ず ESMPRO/ServerAgent がインストールされている必要があります。

装置添付の EXPRESSBUILDER 媒体のレーベルに "Version 5.xx-xxx.xx" (xxx は任意の文字列) と記載されている装置の場合は、EXPRESSBUILDER 媒体から ESMPRO/ServerAgent (Linux 版) をインストールしてください。

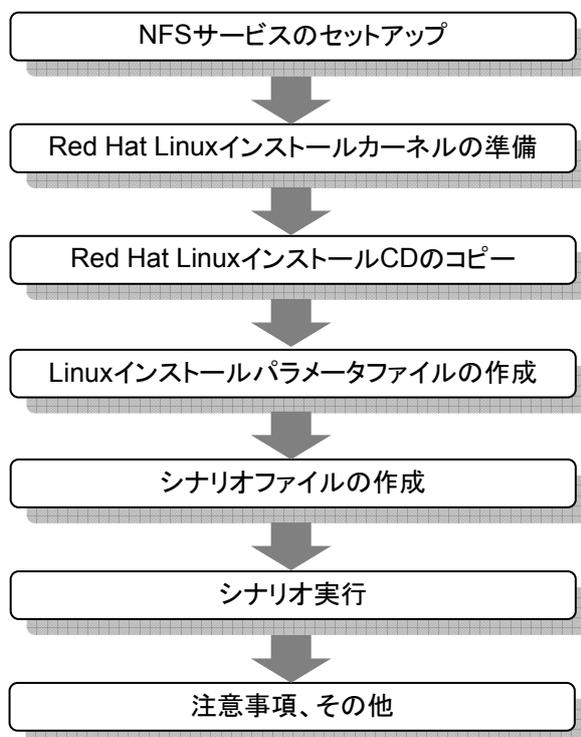
レーベル記載例: Version 5.10-002.02

上記以外の装置の場合は、以下の NEC8 番街のホームページから、Linux のカーネルバージョンとハードウェアに対応したサーバ管理用ドライバモジュールと ESMPRO/ServerAgent をダウンロードして、インストールしてください。

<http://www.express.nec.co.jp/linux/download/esmpro/index.html>

#### 1. DPM を利用した Linux OS のインストール

DPM を利用して Linux OS のインストールをします。インストールの流れは、以下のようになります。



Linux OS インストール方法、および詳細については、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「2.2 OS クリアインストール (Linux)」を参照してください。

## 2. ESMPRO/ServerAgent の設定

ESMPRO/ServerManager からリモートシャットダウンおよびリブートの指示を受け付けられるように設定します。

1. root 権限のあるユーザでログインします。
2. コントロールパネル (/opt/nec/esmpro\_sa/bin/ESMagntconf) を起動します。  

```
# /opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMagntconf
```
3. コントロールパネル (ESMagntconf) の全般を選択します。
4. 「全般プロパティ」画面が表示されます。[マネージャからの SNMP での設定を許可する] および [マネージャからのリモートシャットダウン/リブートを許可する] のチェックボックスが "\*" となっていることを確認してください。" " の場合は、**Space** キーを押して "\*" に変更してください。

## 3. ネットワークの設定

/opt/nec/setup/necnetsetup コマンドを利用して以下の項目を設定します。

- ホスト名
- ドメイン名
- IP アドレス
- サブネットマスク
- Gateway の IP アドレス
- DNS ネームサーバ

## 4. SystemMonitor 性能監視の設定

SystemMonitor 性能監視を利用する場合は、さらに以下を設定する必要があります。

1. 性能監視の監視対象とするすべてのマシンに、接続用のユーザアカウント名を用意します。ユーザアカウントの作成方法については、「2.6.1 監視対象マシンのユーザアカウント」を参照してください。
2. telnet を使用して接続する場合は、各監視対象マシンに telnet サーバをインストールし、サービスを有効にします。性能情報サービスから監視対象マシンへアクセスするために必要です。また、ファイアウォールが設定されている場合は telnet をファイアウォールの対象外にしてください。
3. SSH を使用して接続する場合は、SSH を有効にします。

以上で OS 新規インストールを伴うマスタマシンの作成 (Linux OS) は完了です。

### 2.9.4. 既存マシンを利用してマスタマシンを作成するには (Linux OS)

既存マシンを利用してマスタマシンを作成します。以下の手順に従って作成してください。

---

**注:** Linux マシンを管理対象マシンとして管理する場合、必ず ESMPRO/ServerAgent をインストールされている必要があります。

装置添付の EXPRESSBUILDER 媒体のレーベルに "Version 5.xx-xxx.xx" (xxx は任意の文字列) と記載されている装置の場合は、EXPRESSBUILDER 媒体から ESMPRO/ServerAgent (Linux 版) をインストールしてください。

レーベル記載例: Version 5.10-002.02

上記以外の装置の場合は、以下の NEC8 番街のホームページから、Linux のカーネルバージョンとハードウェアに対応したサーバマネージメント用ドライバモジュールと ESMPRO/ServerAgent をダウンロードして、インストールしてください。

<http://www.express.nec.co.jp/linux/dload/esmpro/index.html>

---

#### 1. ESMPRO/ServerAgent の設定

ESMPRO/ServerManager からリモートシャットダウン / リブートの指示を受け付けられるように設定します。

1. root 権限のあるユーザでログインします。
2. コントロールパネル (/opt/nec/esmpro\_sa/bin/ESMagntconf) を起動します。

```
# /opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMagntconf
```
3. コントロールパネル (ESMagntconf) の全般を選択します。
4. 「全般プロパティ」画面が表示されます。[マネージャからの SNMP での設定を許可する] および [マネージャからのリモートシャットダウン/リブートを許可する] のチェックボックスが "\*" となっていることを確認してください。" " の場合は、**Space** キーを押して "\*" に変更してください。

#### 2. ネットワークの設定

/opt/nec/setup/necnetsetup コマンドを利用して以下の項目を設定します。

- ホスト名
- ドメイン名
- IP アドレス
- サブネットマスク
- Gateway の IP アドレス
- DNS ネームサーバ

### 3. SystemMonitor 性能監視の設定

SystemMonitor 性能監視を利用する場合は、さらに以下の設定を追加します。

1. 性能監視の監視対象とするすべてのマシンに、接続用のユーザアカウント名を用意します。ユーザアカウントの作成方法については、「2.6.1 監視対象マシンのユーザアカウント」を参照してください。
2. telnet を使用して接続する場合は、各監視対象マシンに telnet サーバをインストールし、サービスを有効にします。性能情報サービスから監視対象マシンへアクセスするために必要です。また、ファイアウォールが設定されている場合は telnet をファイアウォールの対象外にしてください。
3. SSH を使用して接続する場合は、SSH を有効にします。

以上で既存マシンを使用したマスタマシンの作成 (Linux OS) は完了です。

## 2.9.5. マスタマシンのバックアップに向け準備するには

本節では、Windows マシンで Sysprep を使用したバックアップ方法を記載します。

- ◆ フルバックアップ形式によるバックアップ  
マスタマシン用のパラメータファイルを作成後、「2.9.6 バックアップ用シナリオファイルを作成するには」に進んでください。
- ◆ 展開形式によるバックアップ  
詳細は「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「1. ディスク複製 OS インストール」を参照してください。

マスタマシンのバックアップの準備は Windows 版の手順を例に説明します。

1. ワークグループに参加
2. Administrator ユーザの権限でパスワードを設定しない

---

**注:** Windows Server 2008、Windows Vista の場合、Administrator アカウントを有効にし、Administrator アカウントにログインした状態で以下の作業を行ってください。ディスク複製終了後は、Administrator アカウントのログイン画面となります。

---

3. IP アドレスを DHCP サーバから取得
4. Sysprep フォルダの作成
  1. エクスプローラなどから、SigmaSystemCenter の製品 CD-R 内の以下のファイルを実行します。

インストール CD-R:¥DPM¥TOOLS¥SYSPREP¥Windows¥  
COPYSYSPREP.VBS

---

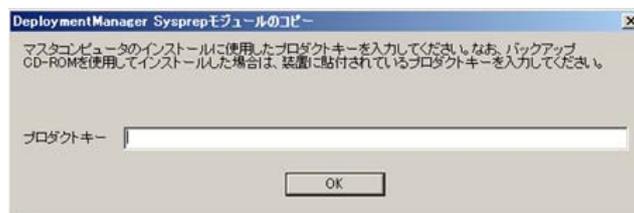
**注:** OS が起動しているドライブに Sysprep フォルダが存在する場合は、上書きされます。

---

2. [DeploymentManager Sysprep モジュールのコピー] 画面が表示されます。[OK] をクリックします。マスタマシンの OS が起動しているドライブに [Sysprep] というフォルダが作成されます。

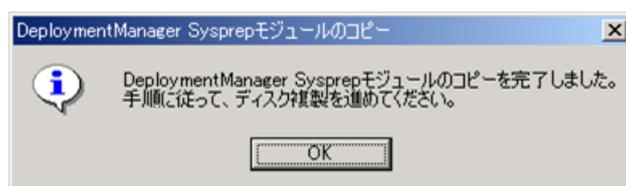


3. [プロダクトキー] テキストボックスにマスタマシンのセットアップに使用したプロダクトキーを入力し、[OK] をクリックします。Windows Server 2008、Windows Vista の場合は、手順 4 へ進んでください。



**注:** バックアップ CD-R をご使用の場合は、装置に貼付されているプロダクトキーを入力してください。

4. インストール CD-R からディスク複製に必要なファイルをコピーします。ファイルのコピーが完了するとダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。



5. Microsoft Sysprep をコピー  
Windows OS の (CD-R) ディスクの ¥SUPPORT¥TOOLS¥DEPLOY.CAB から Sysprep.exe と Setupcl.exe を手順 4 で作成した Sysprep フォルダにコピーします。Windows Server 2008、Windows Vista の場合は、本手順は必要ありません。手順 7 へ進んでください。
6. Microsoft ネットワーク設定コマンドをコピー  
Windows OS の (CD-R) ディスクの ¥SUPPORT¥TOOLS¥SUPPORT.CAB から Netdom.exe を手順 4 で作成した ¥Sysprep¥i386¥\$OEM\$¥\$¥SYSTEM32 にコピーします。
7. 接続するマシン情報を編集  
手順 4 で作成した Sysprep フォルダ配下の SERVER.INI ファイルを編集します。以下の例のように、下線部のみ管理サーバ for DPM をインストールした管理サーバの IP アドレスに変更します。

```
ServerIP=192.168.0.1
```

**注:** 管理サーバの IP アドレス以外の値は変更しないでください。

### 8. 管理サーバでセットアップパラメータファイルを作成

イメージビルダーから作成します。「2.9.1 新規にOSをインストールしてマスタマシンを作成するには(Windows OS)」で作成したセットアップパラメータファイルを使用することもできます。

セットアップパラメータファイルの作成方法は、「DeploymentManager ユーザーズガイド 基本操作編」の「2.1.2 セットアップパラメータの作成」を参照してください。

### 9. Sysprep.bat を実行

1. 手順 4 で作成したSysprepフォルダ配下のSysprep.batを実行します。実行後、コマンドプロンプトに表示される指示に従います。

---

#### 注:

- ・ 同じフォルダに Sysprep.exe がありますが、実行しないでください。
  - ・ 起動しているアプリケーション、エクスプローラなどはすべて終了させてください。
- 

2. Sysprep 実行後、自動的に電源がオフになります。

再起動した場合、POST 画面が表示されたら DHCP による IP アドレスを取得する直前で POWER スイッチを押して電源をオフにしてください。

### 10. 管理サーバで、ディスク複製用パラメータファイルを作成

手順 8 で作成したセットアップパラメータファイルを元に、イメージビルダーでディスク複製用パラメータファイルを作成します。マスタマシンに対応するパラメータファイルのIPアドレスの設定は、[IPアドレスを自動的に取得する] を選択してください。

ディスク複製用パラメータファイルの作成方法は、「DeploymentManager ユーザーズガイド 基本操作編」の「1.1.3 マスタコンピュータ用ディスク複製用情報ファイルの準備」を参照してください。

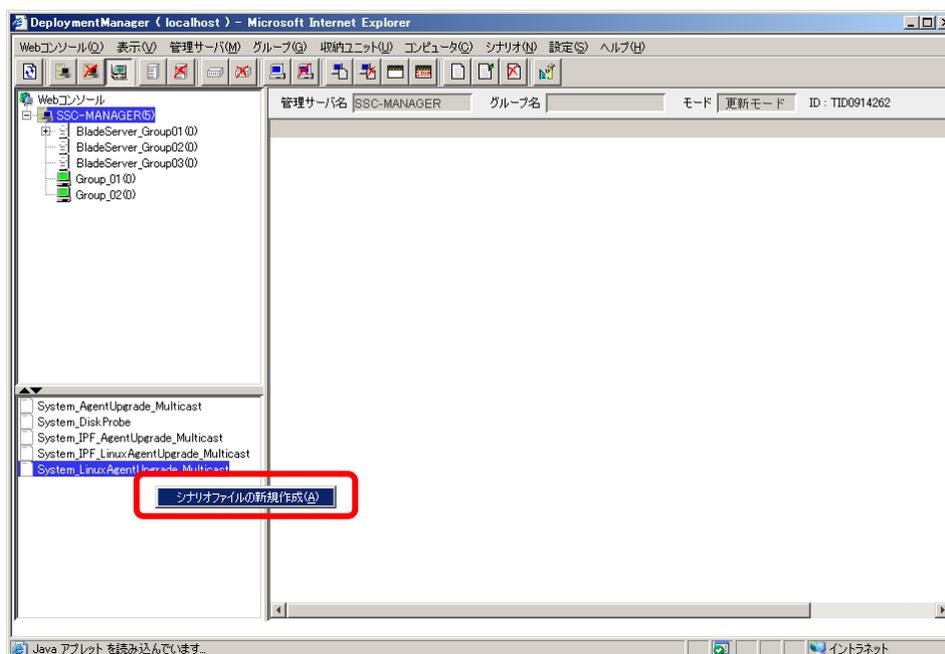
以上でマスタマシンのバックアップに向けた準備は完了です。

## 2.9.6. バックアップ用シナリオファイルを作成するには

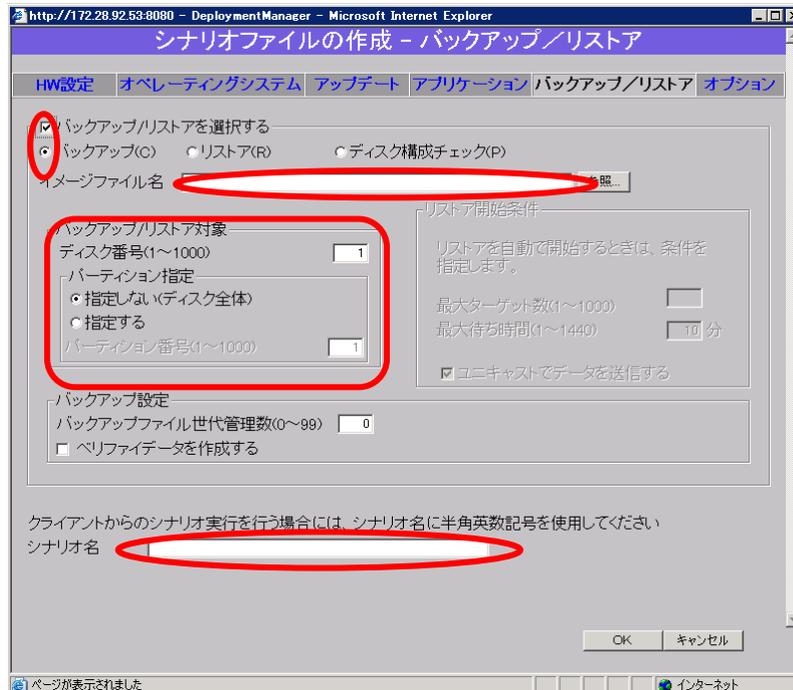
バックアップのシナリオファイルを作成します。以下の手順に従って作成してください。

**注:** DPM でバックアップ / リストアを行う前に、必ずディスクビューアを使用して、対象のディスク番号を確認してください。ディスクビューアの詳細は、「DeploymentManager ユーザーズガイド応用編」の「4. ディスク構成チェック」を参照してください。

1. DPM の Web コンソールを起動します。
2. メニューバーから  をクリックし、アクセスモードを [更新モード] に変更します。
3. シナリオ名を右クリックし、[シナリオファイルの新規作成] を選択します。



4. 「シナリオファイルの作成」ウィンドウが表示されます。[バックアップ/リストア] タブを選択します。

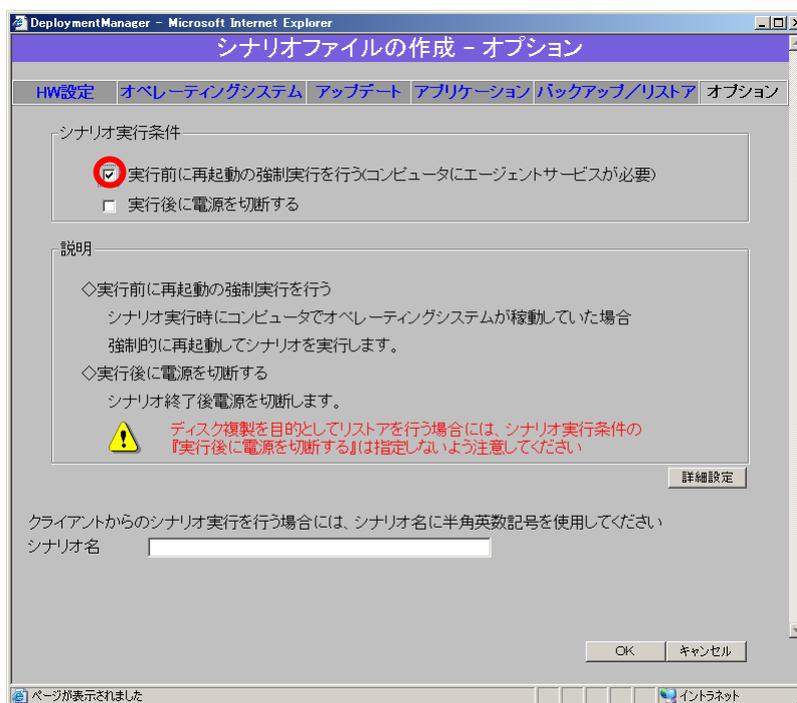


5. [バックアップ/リストアを選択する] チェックボックスをオンにし、[バックアップ(C)] を選択します。
6. [バックアップ/リストア対象] グループボックスの [ディスク番号] テキストボックスにディスクビューアで取得したディスク番号を入力します。

**関連情報:** ディスクビューアの詳細は、「DeploymentManager ユーザーズガイド応用編」の「4. ディスク構成チェック」を参照してください。

7. [参照] をクリックし、任意のフォルダに移動し、任意のファイルを選択します。
8. [シナリオ名] テキストボックスには任意の名前を入力します。

## 9. [オプション] タブを選択します。



10. [シナリオ実行条件] グループボックス内の [実行前に再起動の強制実行を行う (コンピュータにエージェントサービスが必要)] チェックボックスをオンにします。

11. [OK] をクリックします。

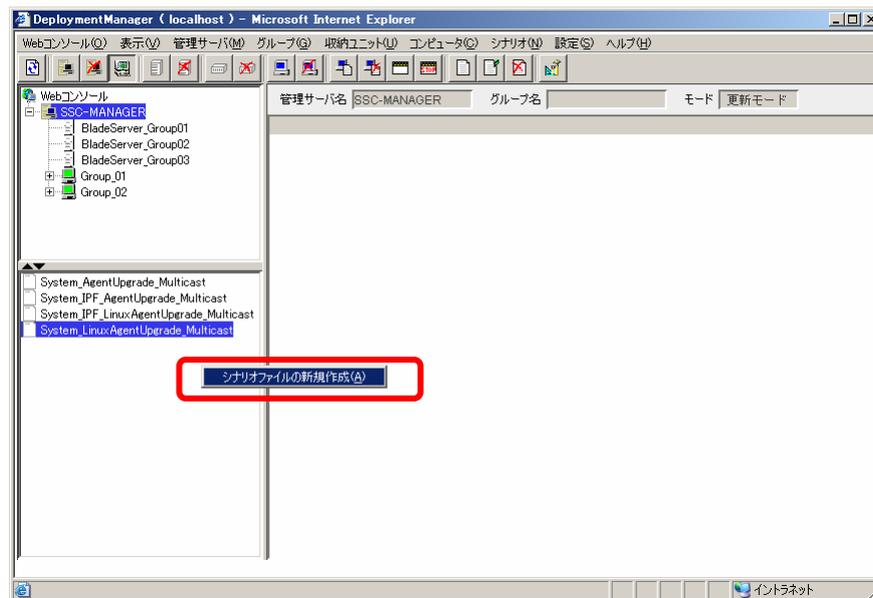
以上で、バックアップのシナリオの作成は完了です。

### 2.9.7. リストア用シナリオファイルを作成するには

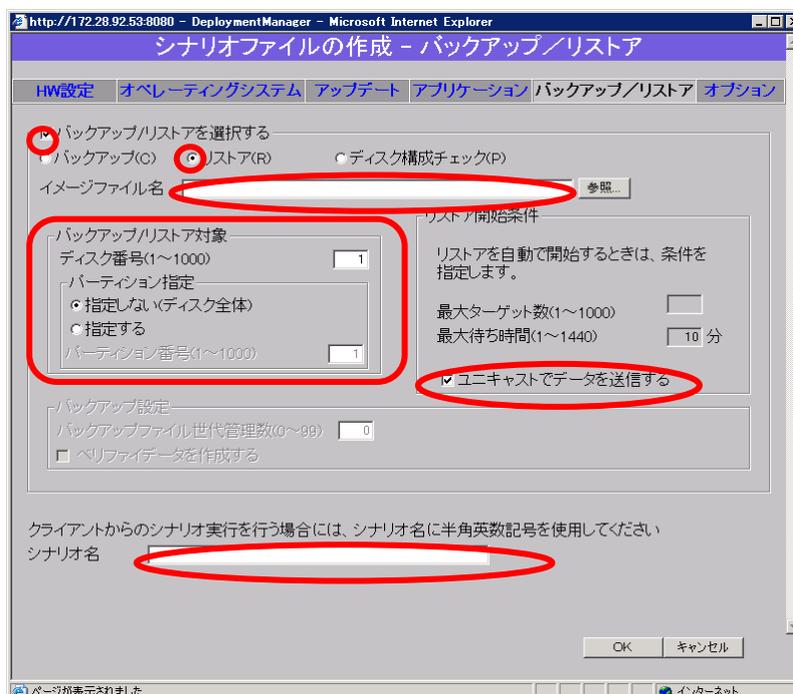
Windows OS と Linux OS のリストア用シナリオファイルを作成します。以下の手順に従って作成してください。

**注:** DPM でバックアップ/リストアを行う前に、必ずディスクビューアを使用して、対象のディスク番号を確認してください。ディスクビューアの詳細は、「DeploymentManager ユーザーズガイド応用編」の「4 ディスク構成チェック」を参照してください。

1. DPM の Web コンソールを起動します。
2. メニューバーから  をクリックし、DPM のアクセスモードを [更新モード] に変更します。
3. シナリオ名を右クリックし、[シナリオファイルの新規作成] を選択します。



- 「シナリオファイルの作成」ウィンドウが表示されます。[バックアップ／リストア] タブを選択します。

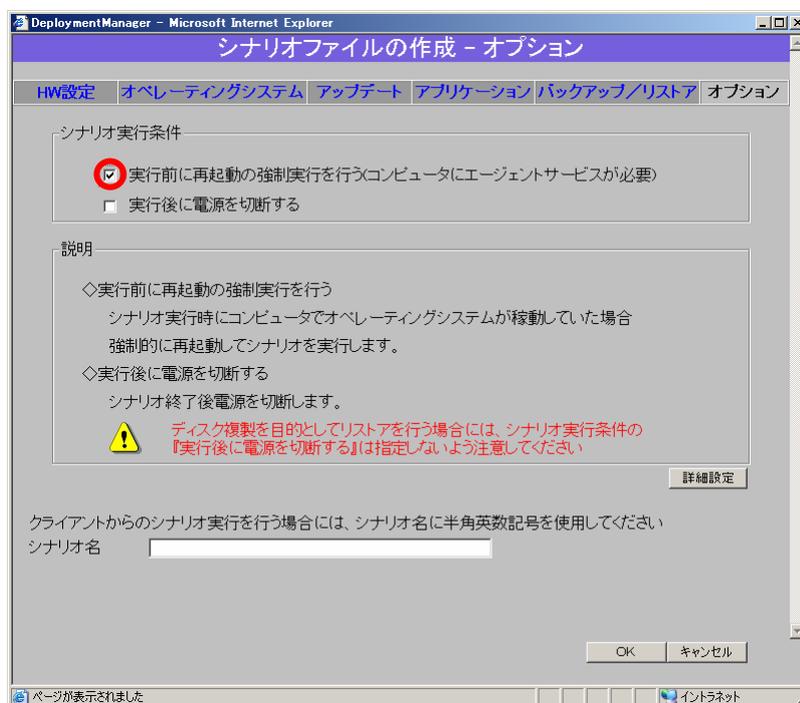


- [バックアップ / リストアを選択する] チェックボックスをオンにし、[リストア(R)] を選択します。
- [バックアップ / リストア対象] グループボックスの [ディスク番号] テキストボックスや [パーティション番号] テキストボックスに、ディスクビューアで取得したディスク番号およびパーティション番号を指定します。

**関連情報:** ディスクビューアの詳細は、「DeploymentManager ユーザーズガイド応用編」の「4. ディスク構成チェック」を参照してください。

- [参照] をクリックし、任意のフォルダに移動し、バックアップシナリオで指定したファイル名を選択します。
- [リストア開始条件] グループボックス内の [ユニキャストでデータを送信する] チェックボックスをオンにします。
- [シナリオ名] テキストボックスに任意の名前を入力します。
- [オプション] タブを選択します。

11. [シナリオ実行条件] グループボックス内の [実行前に再起動の強制実行を行う (コンピュータにエージェントサービスが必要)] チェックボックスをオンにします。



12. [OK] をクリックします。

以上で、リストアのシナリオの作成は完了です。

## 2.10. VMware を利用するための事前設定を行う

VMware を利用する場合、事前に VMware 環境の設定を行う必要があります。以下の手順の流れに沿って各設定を行ってください。

### 2.10.1. VMware 環境を構築する

VMware 環境の構築を行います。以下の手順の流れに沿って構築してください。

---

**関連情報:** 各設定の詳細については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. VirtualCenter の以下のコンポーネントのインストールと設定  
Server コンポーネント (VirtualCenter Management Server)  
Client コンポーネント (Virtual Infrastructure Client)
2. VMware ESX Server のインストールと設定
3. Virtual Infrastructure Client の起動とログイン
4. DataCenter の設定
5. ESX Server の登録

以上が VMware 環境の構築手順の流れです。

## 2.11. VirtualCenter でマスタ VM を利用してテンプレートを作成する

既存の仮想マシンと同じ構成のテンプレートと、その元となるマスタ VM を作成します。以下の手順の流れに沿って作成してください。

また、テンプレートはSystemProvisioningからも作成できます。SystemProvisioningからテンプレートを作成する方法については、「4.1.2 SystemProvisioningからテンプレートを作成するには」を参照してください。

### 2.11.1. VirtualCenter でマスタ VM を作成するには

Virtual Infrastructure Client の管理画面上で、SystemProvisioning で管理する仮想マシンの元となる、マスタ VM を作成します。以下の手順に従って作成してください。

---

**関連情報:** VirtualCenter でのマスタ VM の作成については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. Virtual Infrastructure Client を起動し、ログインします。
2. 使用する仮想マシンに対応した CPU 数、メモリ容量、ディスク容量 / ディスクの数、NIC の枚数を指定して、仮想マシンを作成します。
3. 使用する仮想マシンに対応した OS をインストールします。
4. VMwareTools をインストールします。
5. 使用する仮想マシンに対応したアプリケーションをインストールします。  
SystemProvisioning における仮想マシンの作成は、マスタ VM を元に作成したテンプレートから作成しますので、使用する仮想マシンの構成に合わせて、必要な種類のマスタ VM を作成します。

以上で VirtualCenter でのマスタ VM 作成は完了です。

## 2.11.2. VirtualCenter でテンプレートを作成するには

Virtual Infrastructure Client の管理画面上で、SystemProvisioning で管理するテンプレートを作成します。以下の手順に従って作成してください。

---

**関連情報:** VirtualCenter でのテンプレートの作成については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. Virtual Infrastructure Client を起動し、ログインします。
2. インベントリパネルを表示します。
3. 仮想マシンを選択します。
4. 仮想マシンを電源オフにします。
5. テンプレートに変換します。

以上で VirtualCenter でのテンプレート作成は完了です。

## 2.12. Xen を利用するための事前設定を行う

Xen を利用する場合、事前に Xen 環境の設定を行う必要があります。以下の手順の流れに沿って各設定を行ってください。

### 2.12.1. Xen 環境を構築する

Xen 環境の構築を行います。以下の手順の流れに沿って構築してください。

---

**関連情報:** 各設定の詳細については、Citrix 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. Xen Server のインストールと設定
2. XenCenter のインストールと設定
3. XenCenter の起動とログイン
4. Pool の設定
5. Xen Server の登録

以上が Xen 環境の構築手順の流れです。

## 2.13. XenCenter でマスタ VM を利用してテンプレートを作成する

既存の仮想マシンと同じ構成のテンプレートと、その元となるマスタ VM を作成します。以下の手順の流れに沿って作成してください。

また、テンプレートはSystemProvisioningからも作成できます。SystemProvisioningからテンプレートを作成する方法については、「4.1.2 SystemProvisioningからテンプレートを作成するには」を参照してください。

### 2.13.1. XenCenter でマスタ VM を作成するには

XenCenter の管理画面上で、SystemProvisioning で管理する仮想マシンの元となる、マスタ VM を作成します。以下の手順に従って作成してください。

---

**関連情報:** XenCenter でのマスタ VM の作成については、Citrix 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. XenCenter を起動し、ログインします。
2. VM 新規作成機能を選択し、使用する仮想マシンに対応した CPU 数、メモリ容量、ディスク容量 / ディスクの数、NIC の枚数を指定して、仮想マシンを作成します。
3. 使用する仮想マシンに対応した OS をインストールします。  
Windows VM を作成する場合、ユーザ用 Windows OS をインストールしてください。
4. XenSource Tools をインストールします。
5. 使用する仮想マシンに対応したアプリケーションをインストールします。  
SystemProvisioning における仮想マシンの作成は、マスタ VM を元に作成したテンプレートから作成します。使用する仮想マシンの構成に合わせて、必要な種類のマスタ VM を作成します。

以上で XenCenter でのマスタ VM 作成は完了です。

### 2.13.2. XenCenter でテンプレートを作成するには

XenCenter の管理画面上で、SystemProvisioning で管理するテンプレートを作成します。  
以下の手順に従って作成してください。

---

**関連情報:** XenCenterでのテンプレートの作成については、Citrix社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. XenCenter を起動し、ログインします。
2. 仮想マシンを選択します。
3. 仮想マシンを電源オフにします。
4. テンプレートに変換します。

以上で XenCenter でのテンプレート作成は完了です。

# セクション II SigmaSystemCenter の運用を開始する

このセクションでは、関連製品のSigmaSystemCenterへの登録およびSigmaSystemCenterでのマシン運用時の操作について記載します。

- 3 SigmaSystemCenterへリソースを登録する
- 4 仮想マシンに対する操作
- 5 マシンを運用するための操作



# 3. SigmaSystemCenter へリソースを登録する

本章では、SystemProvisioning へ関連製品を追加し、リソースを登録する手順について記載します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 3.1 SigmaSystemCenterへのリソースの登録 ..... 96
- 3.2 サブシステムを追加する ..... 96
- 3.3 スイッチを登録する ..... 107
- 3.4 ロードバランサを登録する ..... 110
- 3.5 ストレージを登録する ..... 112
- 3.6 ポリシーを作成する ..... 114
- 3.7 ローカルスクリプトを登録する ..... 120
- 3.8 マシンを登録する ..... 121
- 3.9 マシンプロパティを設定するには ..... 124

## 3.1. SigmaSystemCenter へのリソースの登録

SigmaSystemCenter で運用を開始するには、利用するリソースを SystemProvisioning へ登録する必要があります。

SystemProvisioning へリソースを登録するには、DPM や NetvisorPro といった各関連製品をサブシステムに追加し、その後サブシステムが管理するマシンやスイッチといったリソースを SystemProvisioning の管理対象として登録する手順となります。

## 3.2. サブシステムを追加する

サブシステムを追加します。本節の手順に従って、利用する関連製品をサブシステムに追加してください。

SigmaSystemCenter は、VirtualCenter または、XenEnterprise Pool Master といった仮想環境管理ソフトウェア、DPM、SIGMABLADE controller といった 3 種類のサブシステムから管理対象マシンの情報を収集し利用します。同一のマシンが複数のサブシステムから管理されている場合、それぞれのサブシステムからマシンの情報を収集します。そのため、同一マシンが誤って別マシンとして SystemProvisioning に登録されることがないように注意が必要です。

- ◆ サブシステムの登録は、本節に記載されている順番に行います。
- ◆ 「サブシステム追加」ウィンドウでサブシステムを選択し、[OK] をクリックすると、選択したサブシステムに対して情報の収集を行います。情報収集が完了したことを確認してから、次のサブシステムの登録を行ってください。
- ◆ サブシステムから収集されたマシンの情報は、[リソース] ビューから確認できます。

---

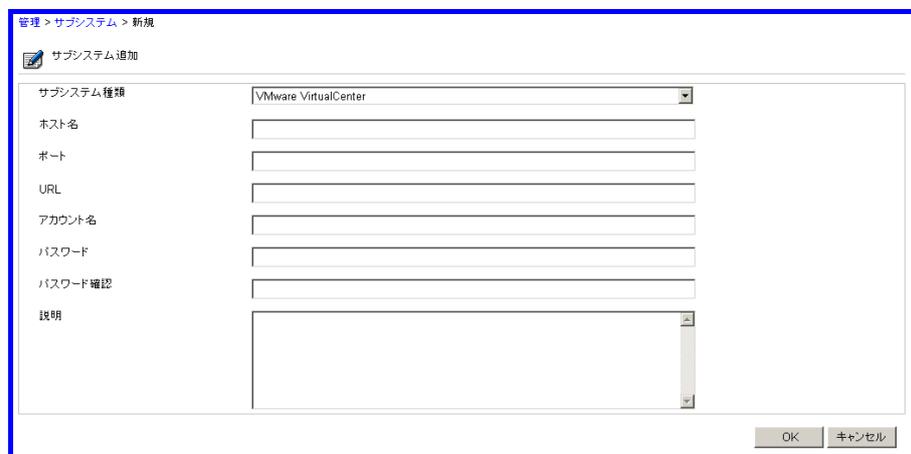
**注:** 利用する関連製品をサブシステムに追加する前にライセンスを登録してください。ライセンスの登録については、「1.4 ライセンスキーを登録する」を参照してください。

---

### 3.2.1. VMware VirtualCenter をサブシステムに追加するには

VMware VirtualCenter をサブシステムに追加します。VMware VirtualCenter をサブシステムに追加すると、VMware VirtualCenter に登録されている ESX Server が自動的にサブシステムに追加されます。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [サブシステム追加] をクリックします。メインウィンドウに「サブシステム追加」が表示されます。



4. [サブシステム種類] プルダウンボックスから [VMware VirtualCenter] を選択します。
5. [ホスト名] テキストボックスに VMware VirtualCenter をインストールしたサーバのホスト名もしくは、IP アドレスを入力します。

---

**注:** [URL] テキストボックスを入力する場合、自動生成されるため [ホスト名] テキストボックスの入力は省略できます。

---

6. [ポート] テキストボックスに VMware VirtualCenter とアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値が登録されます。

---

**注:** ポート番号の既定値は (443) です。

---

7. [URL] テキストボックスに VMware VirtualCenter の URL を入力します。

---

**注:** [ホスト名] テキストボックスを入力する場合、自動生成されるため [URL] テキストボックスの入力は省略できます。

---

8. [アカウント名] テキストボックスに VMware VirtualCenter のアカウント名を入力します。

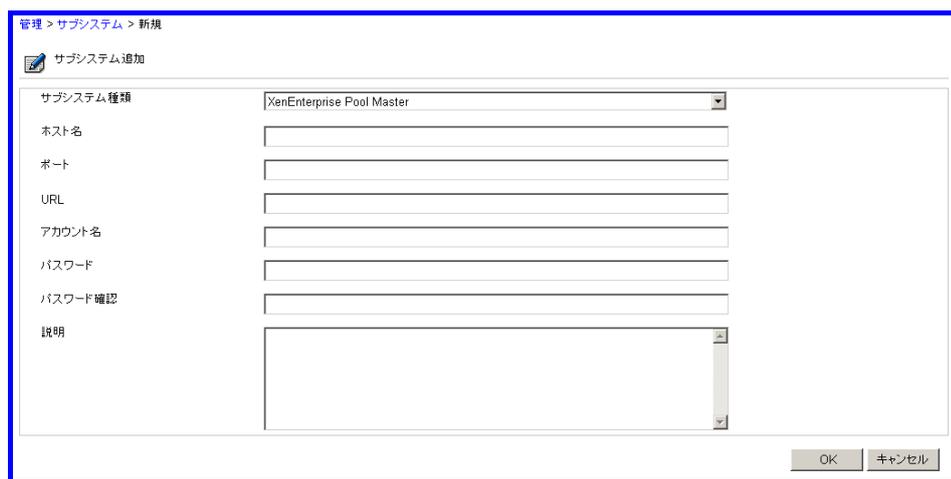
9. [パスワード] テキストボックスおよび [パスワード確認] テキストボックスに VMware VirtualCenter のパスワードを入力します。
10. [OK] をクリックします。

以上で VMware VirtualCenter のサブシステム追加は完了です。

#### 3.2.2. XenEnterprise Pool Master をサブシステムに追加するには

XenEnterprise Pool Master をサブシステムに追加します。XenEnterprise Pool Master をサブシステムに追加すると、Pool に登録されている Xen Server が自動的にサブシステムに追加されます。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [サブシステム追加] をクリックします。メインウィンドウに「サブシステム追加」が表示されます。



4. [サブシステム種類] プルダウンボックスから [XenEnterprise Pool Master] を選択します。
5. [ホスト名] テキストボックスに XenEnterprise Pool Master を構築したサーバのホスト名もしくは、IP アドレスを入力します。
6. [ポート] テキストボックスに XenEnterprise Pool Master とアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値が登録されます。

---

**注:** ポート番号の既定値は (443) です。

---

7. [URL] に XenEnterprise Pool Master の URL を入力します。

**注:** [ホスト名] と [ポート] の組み合わせ、または [URL] のうちいずれかを指定してください。

---

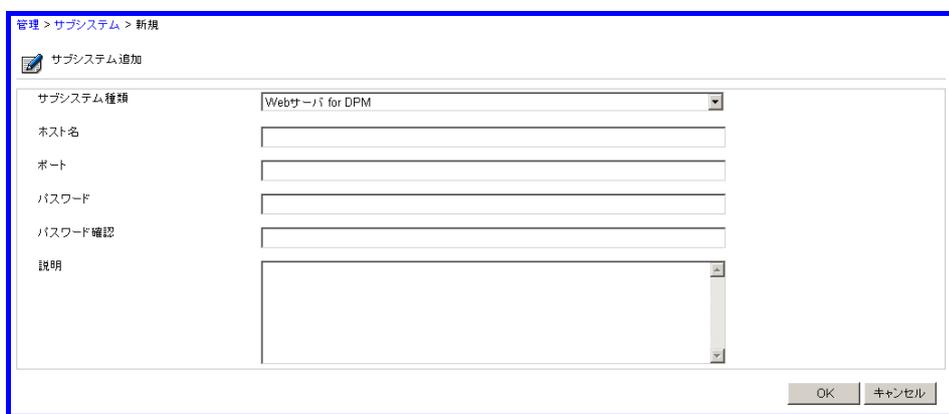
8. [アカウント名] テキストボックスに XenEnterprise Pool Master のアカウント名を入力します。
9. [パスワード] テキストボックスおよび [パスワード確認] テキストボックスに XenEnterprise Pool Master のパスワードを入力します。
10. [OK] をクリックします。

以上で XenEnterprise Pool Master のサブシステム追加は完了です。

### 3.2.3. DPM (Windows / Linux) をサブシステムに追加するには

DPM (Windows / Linux) をサブシステムに追加するには、Web サーバ for DPM をサブシステムに追加します。Web サーバ for DPM をサブシステムに追加すると、Web サーバ for DPM に登録されている管理サーバ for DPM が自動的にサブシステムに追加されます。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [サブシステム追加] をクリックします。メインウィンドウに「サブシステム追加」が表示されます。



4. [サブシステム種類] プルダウンボックスから [Web サーバ for DPM] を選択します。
5. [ホスト名] テキストボックスに Web サーバ for DPM をインストールしたサーバのホスト名もしくは IP アドレスを入力します。
6. [ポート] テキストボックスに Web サーバ for DPM とアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値が登録されます。

---

**注:** ポート番号の既定値は (8080) です。

---

7. [パスワード] テキストボックスおよび [パスワード確認] テキストボックスに Web サーバ for DPM に登録されている管理サーバ for DPM の管理者パスワードを入力します。

---

**注:** Web サーバ for DPM に複数の管理サーバ for DPM が登録されている場合、すべての管理サーバ for DPM でパスワードを統一する必要があります。

---

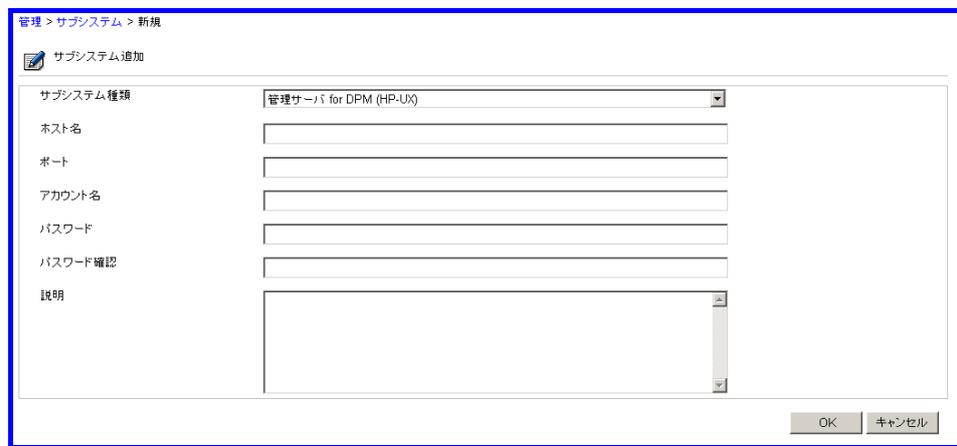
8. [OK] をクリックします。

以上で DPM (Windows / Linux) のサブシステム追加は完了です。

### 3.2.4. DPM (HP-UX) をサブシステムに追加するには

管理サーバ for DPM (HP-UX) をサブシステムに追加します。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [サブシステム追加] をクリックします。メインウィンドウに「サブシステム追加」が表示されます。



4. [サブシステム種類] プルダウンボックスから [管理サーバ for DPM (HP-UX)] を選択します。
5. [ホスト名] テキストボックスに管理サーバ for DPM (HP-UX) をインストールしたサーバのホスト名もしくは、IP アドレスを入力します。
6. [ポート] テキストボックスに管理サーバ for DPM (HP-UX) とアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値が登録されます。

---

注：ポート番号の既定値は (15416) です。

---

7. [アカウント名] テキストボックスに管理サーバ for DPM (HP-UX) のアカウント名を入力します。
8. [パスワード] テキストボックスおよび [パスワード確認] テキストボックスに管理サーバ for DPM (HP-UX) のパスワードを入力します。
9. [OK] をクリックします。

以上で DPM (HP-UX) のサブシステム追加は完了です。

### 3.2.5. SIGMABLADE controller をサブシステムに追加するには

SIGMABLADE controller をサブシステムに追加します。以下の手順に従って追加してください。

**注:**

- ・ SystemProvisioning と管理サーバ for DPM を同一マシン上で運用するなどの理由で、事前に手動で SIGMABLADE controller サーバの登録を SIGMABLADE controller クライアントに対して行っている場合は、サブシステム追加の際に指定する「ホスト名、ポート番号」を、クライアントに登録済みの SIGMABLADE controller サーバの情報と一致させてください。異なっている場合、クライアントに同じ SIGMABLADE controller サーバが重複して登録されるため、他のソフトウェアによる SIGMABLADE controller を利用した制御が正常に動作しなくなる可能性があります。
- ・ SIGMABLADE controller で管理されている SIGMABLADE マシンが、DPM や仮想環境管理ソフトウェアなど他のサブシステムでも管理されている場合、同一マシンが誤って別マシンとして SystemProvisioning に登録されることがないように注意が必要です。SIGMABLADE controller をサブシステムとして登録する前に SystemProvisioning で管理しているマシンの情報を確認してください。DPM または、仮想環境管理ソフトウェアが既にサブシステムとして登録済みの場合、それらサブシステムが管理しているマシン情報は、SystemProvisioning のデータベースに反映されています。SystemProvisioning に登録されているマシンの中から、SIGMABLADE controller で管理されている SIGMABLADE マシンを特定し、該当するマシンに SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC の MAC アドレスが設定されていることを確認してください。SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC の MAC アドレスの確認手順については、「6.2.5 SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC について」を参照してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [サブシステム追加] をクリックします。メインウィンドウに「サブシステム追加」が表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled "サブシステム追加" (Add Subsystem) within the "管理 > サブシステム > 新規" (Management > Subsystem > New) context. The dialog contains the following elements:

- サブシステム種類** (Subsystem Type): A dropdown menu with "SIGMABLADE controller" selected.
- ホスト名** (Host Name): An empty text input field.
- ポート** (Port): An empty text input field.
- 説明** (Description): A large empty text area.
- Buttons:** "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons at the bottom right.

4. [サブシステム種類] プルダウンボックスから [SIGMABLADE controller] を選択します。

5. [ホスト名] テキストボックスに SIGMABLADE controller をインストールしたサーバのホスト名もしくは、IP アドレスを入力します。
6. [ポート] テキストボックスに SIGMABLADE controller とアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値が登録されます。

---

注: ポート番号の既定値は (26320) です。

---

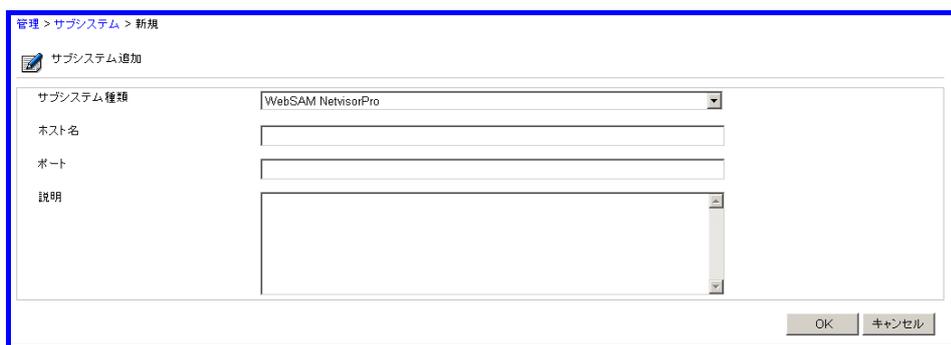
7. [OK] をクリックします。

以上で SIGMABLADE controller のサブシステム追加は完了です。

### 3.2.6. NetvisorPro をサブシステムに追加するには

NetvisorPro をサブシステムに追加します。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [サブシステム追加] をクリックします。メインウィンドウに「サブシステム追加」が表示されます。



4. [サブシステム種類] プルダウンボックスから [WebSAM NetvisorPro] を選択します。
5. [ホスト名] テキストボックスに NetvisorPro をインストールしたサーバのホスト名もしくは、IP アドレスを入力します。
6. [ポート] テキストボックスに NetvisorPro とアクセスするポート番号を入力します。

---

**注:** ポート番号の既定値は (52727) です。

---

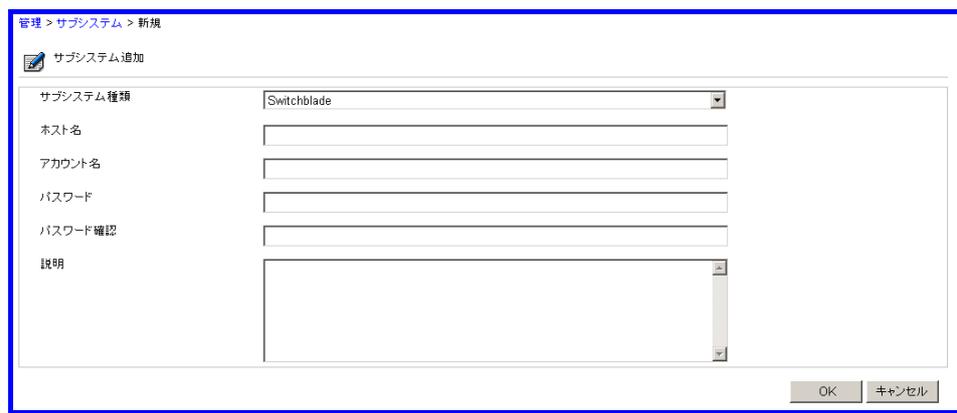
7. [OK] をクリックします。

以上で NetvisorPro のサブシステム追加は完了です。

### 3.2.7. スイッチブレードをサブシステムに追加するには

スイッチブレードをサブシステムに追加します。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [サブシステム追加] をクリックします。メインウィンドウに「サブシステム追加」が表示されます。



4. [サブシステム種類] プルダウンボックスから [Switchblade] を選択します。
5. [ホスト名] テキストボックスにスイッチブレードの IP アドレスを入力します。
6. [アカウント名] テキストボックスにスイッチブレードのアカウント名を入力します。
7. [パスワード] テキストボックスおよび [パスワード確認] テキストボックスにスイッチブレードのパスワードを入力します。
8. [OK] をクリックします。

以上でスイッチブレードのサブシステム追加は完了です。

### 3.2.8. ストレージ管理サーバをサブシステムに追加するには

ストレージ管理サーバをサブシステムに追加します。以下の手順に従って追加してください。

**注:** SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードインストールを行った場合、以前のバージョンに設定した CLARiX および Symmetrix の情報は引き継がれません。CLARiX および Symmetrix をサブシステムとして追加する必要があります。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [サブシステム追加] をクリックします。メインウィンドウに「サブシステム追加」が表示されます。



4. [サブシステム種類] プルダウンボックスからストレージの種類に従って [iStorage Manager]、[EMC CLARiX]、[EMC Symmetrix] のいずれかを選択します。
5. [ホスト名] テキストボックスにストレージ管理サーバのホスト名もしくは、IP アドレスを入力します。
6. [OK] をクリックします。

以上でストレージ管理サーバのサブシステム追加は完了です。

## 3.3. スイッチを登録する

SystemProvisioning で管理するスイッチおよびスイッチブレードの登録を行い、VLAN グループを追加します。

**注:** NetvisorPro でスイッチもしくは、スイッチブレードの設定を変更したときは、必ず SystemProvisioning の [操作] メニューより [スイッチ情報収集] を行ってください。

### 3.3.1. スイッチを登録するには

スイッチを SystemProvisioning の管理対象として登録します。以下の手順に従って登録してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーから [ネットワークデバイス] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [スイッチ登録] をクリックします。
4. メインウィンドウに「スイッチ登録」が表示されます。



5. [ネットワークデバイス一覧] グループボックスに表示される、サブシステムに追加されている NetvisorPro が管理するスイッチの一覧から、SystemProvisioning で管理対象とするスイッチのチェックボックスをオンにします。
6. [OK] をクリックします。

以上でスイッチの登録は完了です。

### 3.3.2. スイッチブレードを登録するには

スイッチブレードを SystemProvisioning の管理対象として登録します。以下の手順に従って登録してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーから [ネットワークデバイス] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [スイッチブレード登録] をクリックします。
4. メインウィンドウに「スイッチブレード登録」が表示されます。



5. [ネットワークデバイス一覧] グループボックスに表示される、サブシステムに追加されているスイッチブレードが管理するスイッチブレードの一覧から、SystemProvisioning で管理対象とするスイッチブレードのチェックボックスをオンにします。
6. [OK] をクリックします。

以上でスイッチブレードの登録は完了です。

### 3.3.3. VLAN を追加するには

スイッチ、スイッチブレードに VLAN の追加と、スイッチ間を接続するポート、外部ネットワークに接続するポートを VLAN に追加します。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーから VLAN を追加するスイッチまたは、スイッチブレードのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [VLAN 追加] をクリックします。
4. メインウィンドウに「VLAN 追加」が表示されます。

システムリソース > ネットワークデバイス > SWB-173 > 新規

VLAN追加

名前	VLAN10
VLAN ID	10
説明	

ポート一覧

	ポート
<input type="checkbox"/>	lan1
<input type="checkbox"/>	lan2
<input checked="" type="checkbox"/>	lan3

OK キャンセル

5. [名前] テキストボックスに VLAN 名を入力します。
6. [VLAN ID] テキストボックスに VLAN ID を入力します。
7. [ポート一覧] グループボックスからポートを選択します。
8. [OK] をクリックします。

以上で VLAN の追加は完了です。

## 3.4. ロードバランサを登録する

SystemProvisioning で管理するロードバランサの登録を行い、ロードバランサグループを追加します。

**注:** NetvisorPro でロードバランサの設定を変更したときは、必ず SystemProvisioning の [操作] メニューより [ロードバランサ情報収集] を行ってください。

### 3.4.1. ロードバランサを登録するには

ロードバランサを SystemProvisioning の管理対象として登録します。以下の手順に従って登録してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーから [ネットワークデバイス] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [ロードバランサ登録] をクリックします。
4. メインウィンドウに「ロードバランサ登録」が表示されます。



5. [ネットワークデバイス一覧] グループボックスに表示される、サブシステムに追加されている NetvisorPro が管理するロードバランサの一覧から、SystemProvisioning で管理対象とするロードバランサのチェックボックスをオンにします。
6. [OK] をクリックします。

以上でロードバランサの登録は完了です。

### 3.4.2. ロードバランサグループを追加するには

ロードバランサグループの追加を行います。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーからロードバランサグループを追加するロードバランサのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [ロードバランサグループ追加] をクリックします。
4. メインウィンドウに「ロードバランサグループ追加」が表示されます。

システムリソース > ネットワークデバイス > LB-172 > 新規

ロードバランサグループ追加

名前 VS2

説明

**仮想サーバ**

IPアドレス 192.168.20.29

ポート番号 8080

負荷分散方式 Weight

セッション管理方式 Cookie

クッキー test-data

プロトコル TCP UDP

**リアルサーバ**

ネットワークアドレス 192.168.1.0

サブネットマスク 255.255.255.0

ポート番号 8080

重み 100

OK キャンセル

5. [名前] テキストボックスに、ロードバランサグループ名を入力します。
6. [仮想サーバ] グループボックスの各項目を選択 / 入力します。
7. [リアルサーバ] グループボックスの各項目を入力します。

**注:** ロードバランサ制御を行うには、グループプロパティの [ホスト] タブも合わせて設定する必要があります。両方の設定がされていない場合、ロードバランサ制御は行われません。グループプロパティの [ホスト] タブの設定については、「5.4.3 [ホスト] タブを設定するには」を参照してください。

8. [OK] をクリックします。

以上でロードバランサグループの追加は完了です。

セクション II SigmaSystemCenterの運用を開始する

## 3.5. ストレージを登録する

SystemProvisioning で管理するストレージの登録を行います。

**注:**

- ・ ストレージ管理ソフトウェアでストレージの設定を変更したときは、必ず SystemProvisioning の [操作] メニューより [ストレージ収集] を行ってください。
- ・ SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードインストールを行った場合、以前のバージョンに設定した CLARiX および Symmetrix の情報は引き継がれません。CLARiX および Symmetrix の設定を行う必要があります。

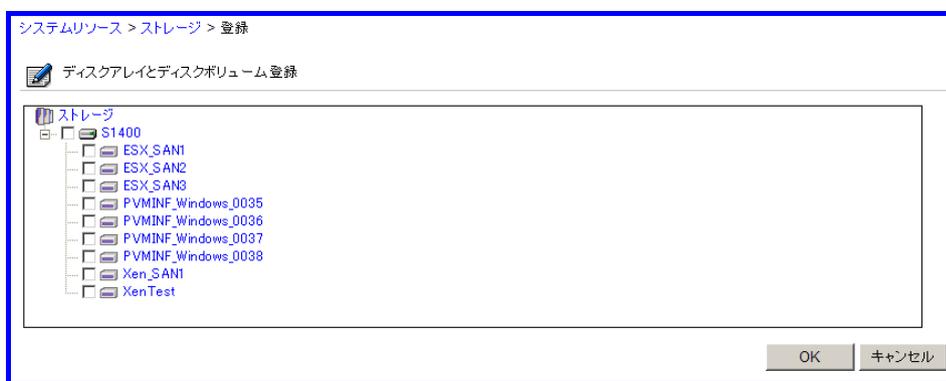
### 3.5.1. ディスクアレイとディスクボリュームを登録するには

ディスクアレイとディスクボリュームを SystemProvisioning の管理対象として登録します。以下の手順に従って登録してください。

**注:**

- ・ SigmaSystemCenter が収集できるストレージのディスクボリューム情報の最大数は、3000 です。
- ・ iStorage、CLARiX、Symmetrix に定義されているディスクボリュームの合計値は、3000 を超えてはいけません。
- ・ CLARiX、Symmetrix の場合は、接続パス数の倍数がディスクボリュームの合計値に含まれます。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーから [ストレージ] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [ディスクアレイとディスクボリューム登録] をクリックします。
4. メインウィンドウに「ディスクアレイとディスクボリューム登録」が表示されます。



5. サブシステムに登録されているストレージ管理ソフトウェアが管理するディスクアレイとディスクボリュームのツリーから、SystemProvisioning で管理対象とするディスクアレイまたは、ディスクボリュームのチェックボックスをオンにします。
6. [OK] をクリックします。

以上でディスクアレイとディスクボリュームの登録は完了です。

### 3.5.2. 共有ディスクの設定

共有ディスクの設定を行います。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーから [ストレージ] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに「ディスクボリューム一覧」が表示されます。

名前	ディスクアレイ名	番号	共有状態	使用状況
ESX_SAN1	S1400	0	非共有	未使用
PVMINF_Windows	S1400	53	非共有	未使用
Xen_SAN1	S1400	60	非共有	未使用

4. [ディスクボリューム一覧] グループボックスから共有にするディスクボリュームのチェックボックスをオンにします。
5. [ディスクボリューム一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [共有] をクリックします。
6. 確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

以上で共有ディスクの設定は完了です。

## 3.6. ポリシーを作成する

ESMPRO/ServerManager、VirtualCenter、および SystemMonitor 性能監視が検出した障害イベントに対して、どのような処理を自動実行し、復旧するかなどを各グループに対して設定できます。この設定をポリシーと呼びます。

ポリシーの使用方法は、以下の 3 種類があります。

- ◆ SigmaSystemCenter にあらかじめ設定されている標準ポリシーを使用する  
標準ポリシーは以下の 3 種類があります。
  - 標準ポリシー  
標準ポリシーのテンプレートです。
  - 標準ポリシー (仮想マシンサーバ)  
仮想マシンサーバ用の標準ポリシーのテンプレートです。
  - 標準ポリシー (仮想マシンサーバ 省電力)  
仮想マシンサーバ用の省電力運用を想定した標準ポリシーのテンプレートです。
- ◆ 新規にポリシーを作成して使用する
- ◆ 標準ポリシーを元に複製を作成し、設定を変更して使用する

以下は、新規にポリシーを作成する手順および標準ポリシーを元にポリシー設定を変更した新たなポリシー (複製) を作成する手順について説明します。

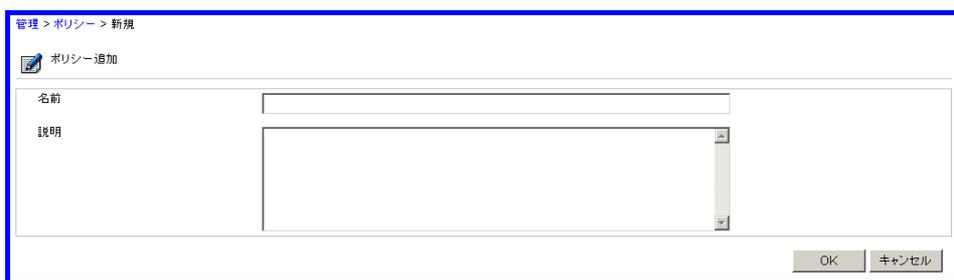
新規にポリシーを作成する場合、「3.6.1 新規にポリシーを作成するには」を参照してポリシーを作成した後、「3.6.3 ポリシープロパティを設定するには」から「3.6.4 ポリシー監視イベントの対応処置詳細を設定するには」を参照して監視イベントおよび対応処置を設定してください。

標準ポリシーの設定を変更し、新たなポリシー (複製) を作成する場合、「3.6.2 標準ポリシーを複製するには」を参照して標準ポリシーを複製した後、「3.6.3 ポリシープロパティを設定するには」から「3.6.4 ポリシー監視イベントの対応処置詳細を設定するには」を参照して監視イベントおよび対応処置を設定してください。

### 3.6.1. 新規にポリシーを作成するには

新規にポリシーを作成します。以下の手順に従って作成してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [ポリシー] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [ポリシー追加] をクリックします。
4. メインウィンドウに「ポリシー追加」が表示されます。



5. [名前] テキストボックスにポリシー名を入力します。
6. [OK] をクリックします。

以上でポリシーの作成は完了です。

### 3.6.2. 標準ポリシーを複製するには

標準で提供している “標準ポリシー”、“標準ポリシー (仮想マシンサーバ)” および “標準ポリシー (省電力) 複製” を複製して利用することができます。以下の手順に従って標準ポリシーの複製を作成してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [ポリシー] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [標準ポリシー複製]、[標準ポリシー (仮想マシンサーバ) 複製]、もしくは [標準ポリシー (省電力) 複製] をクリックします。
4. 確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。
5. 「ポリシー一覧」に複製したポリシーが追加されます。



6. 複製したポリシーの [編集] アイコンをクリックします。メインウィンドウに「ポリシープロパティ設定」が表示されます。



7. [名前] テキストボックスにポリシー名を入力し、名前を変更します。
8. [適用] をクリックします。

以上で標準ポリシーの複製は完了です。

### 3.6.3. ポリシープロパティを設定するには

作成されたポリシーのプロパティ設定を行います。ここではポリシーの監視イベントやイベントに対する復旧処理（アクション）を設定することができます。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [ポリシー] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにポリシーの詳細情報が表示されます。[ポリシー一覧] グループボックスから編集するポリシーの [編集] アイコンをクリックします。
4. メインウィンドウに「ポリシープロパティ設定」が表示されます。



5. ポリシー名を変更する場合、[名前] テキストボックスにポリシー名を入力します。
6. マシンのアクセス不可能障害や CPU 負荷障害の検出に関しては、障害の発生から障害の回復までが短時間に連続して発生した場合、障害イベントを受信してから対応する回復イベントの発生を待ち合わせる待機時間を設定し、イベントを抑制する機能を使用します。  
待機時間の設定は、[抑制設定] グループボックスの抑制する障害イベントのチェックボックスをオンにし、テキストボックスに時間を入力します。  
なお、この抑制設定は、該当する [監視イベント] タブの [イベントに対する対応処置] グループボックスから設定する「対応処置詳細設定」にて、該当するイベント区分の一括設定に反映されます。
7. [監視イベント] タブを選択します。

8. [イベントに対する対応処置一覧] グループボックスに対応処置を追加します。



**関連情報:** イベントに対する処置の追加、編集をする場合は、「3.6.4 ポリシー監視イベントの対応処置詳細を設定するには」を参照してください。

9. [戻る] をクリックし、[全般] タブの [適用] をクリックします。

以上でポリシープロパティの設定は完了です。

#### 3.6.4. ポリシー監視イベントの対応処置詳細を設定するには

監視イベントの対応処置を設定します。各監視イベントに対して復旧処理（アクション）を設定することができます。以下の手順に従って設定してください。

1. メインウィンドウに「ポリシープロパティ設定」の [監視イベント] タブを表示します。手順については、前述の「3.6.3 ポリシープロパティを設定するには」を参照してください。
2. [イベントに対する対応処置一覧] グループボックスから、[アクション] メニューの [追加] もしくは、編集するイベント一覧の [編集] アイコンをクリックします。

3. メインウィンドウに「対応処置詳細設定」が表示されます。

4. [名前] テキストボックスに対応処置名を入力します。
5. [イベント区分] プルダウンボックスから監視イベントの区分を選択します。
6. [通報元] プルダウンボックスからイベント提供元を選択します。
7. [イベント] プルダウンボックスから監視するイベントを選択します。
8. イベント名を変更する場合、[イベント名] テキストボックスにイベント名を入力します。
9. [区分全てのイベントを対象とする] チェックボックスをオンにすると、イベント区分に該当する通報元およびイベントがまとめて選択されます。なお、選択している [イベント区分] プルダウンボックスが、ポリシープロパティの [全般] タブで抑制設定を行ったイベント区分に該当する場合には、その抑制情報 (待機時間など) が反映されます。
10. [イベントに対する対応処置一覧] グループボックスから、イベントに対応するアクションを設定します。[アクション] プルダウンボックスからアクションを選択します。
11. アクションの順番を変更する場合、アクションのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックすると順番を移動します。

**注:**

- ・ 復旧処理の実行は、[アクション] プルダウンボックスに登録された順番で実行されません。復旧処理の実行順に並べ替えてください。
- ・ [アクション] プルダウンボックスを空白にすると、設定したアクションを無効にすることができます。

12. [OK] をクリックします。

以上でポリシー監視イベントの対応処置詳細設定は完了です。

セクション II SigmaSystemCenterの運用を開始する

## 3.7. ローカルスクリプトを登録する

SystemProvisioning で使用するローカルスクリプトの登録を行います。

### 3.7.1. ローカルスクリプトを追加するには

ローカルスクリプトを追加します。以下の手順に従って追加してください。

1. ローカルスクリプト (.bat ファイル) を以下のフォルダに格納します。  
SystemProvisioning インストールフォルダ¥Script

---

注: 既定値は (C:¥Program Files¥NEC¥PVM¥Script) です。

---

2. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
3. [操作] メニューから [収集] をクリックします。
4. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
5. [システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] アイコンをクリックします。追加されたローカルスクリプトを確認します。

以上でローカルスクリプトの登録は完了です。

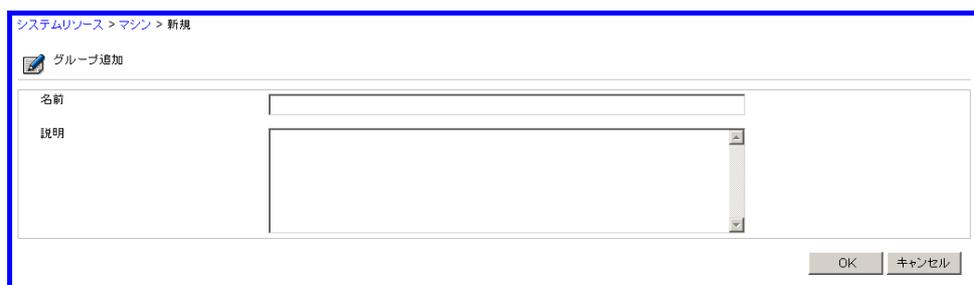
## 3.8. マシンを登録する

SystemProvisioning で管理対象とするマシンの登録を行います。リソースグループを追加することにより、リソースグループ単位にマシン进行分类して表示することができます。

### 3.8.1. リソースグループを追加するには

リソースグループを追加します。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーから [マシン] アイコンもしくは、リソースグループを追加するグループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [グループ追加] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループ追加」が表示されます。



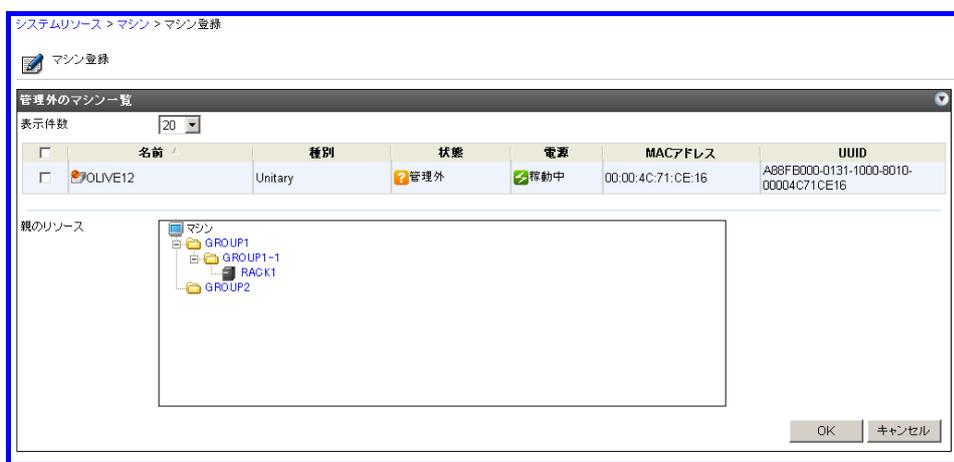
5. [名前] テキストボックスにリソースグループ名を入力します。
6. [OK] をクリックします。

以上でリソースグループの追加は完了です。

### 3.8.2. マシンを登録するには

マシンを SystemProvisioning の管理対象として登録します。以下の手順に従って登録してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーから [マシン] アイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [マシン登録] をクリックします。
4. メインウィンドウに「マシン登録」が表示されます。



5. サブシステムに追加されている DPM、ESX Server、Xen Server、SIGMABLADE controller に登録されているマシンの一覧が、[管理外のマシン一覧] グループボックスに表示されます。[管理外のマシン一覧] グループボックスから、SystemProvisioning で管理対象とするマシンのチェックボックスをオンにします。
6. [親のリソース] ツリーからリソースグループまたは、ラックを選択します。
7. [OK] をクリックします。

---

**注:**

・ DeploymentManager (HP-UX 版) コンソールからの HP-UX サーバ登録時に LAN コンソールからの検索方式で自動登録を行った場合、SystemProvisioning に登録されるマシンの NIC 番号が誤って登録され、SystemProvisioning からのソフトウェア配布処理が失敗する場合があります。

この問題は LAN コンソールからの検索方式で自動作成されるマシンのプロパティ情報の管理用 LAN の MAC アドレスがクライアントの設定内容と異なる場合に発生します。

この問題を回避するためには、DeploymentManager (HP-UX 版) のコンソールからマシンのプロパティ情報の管理用 LAN の MAC アドレスを、クライアントで設定した管理用 LAN の MAC アドレス情報に合わせる必要があります。

マシンのプロパティ情報の変更方法については、「DeploymentManager (HP-UX 版) 操作マニュアル」の「3.2. コンピュータの登録」の「NX7000/NX7700i コンピュータの変更」を参照してください。クライアントの設定については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「2.5 DeploymentManager クライアントのセットアップ」を参照してください。

・ マシンのプロパティ情報が誤った状態で SystemProvisioning にマシン登録されてしまった場合は、以下の手順に従ってマシンを登録してください。

1. SystemProvisioning から該当マシンを削除する。
  2. DeploymentManager (HP-UX 版) のコンソールから該当マシンのプロパティ情報を変更する。
  3. SystemProvisioning に該当マシンを登録する。
- 

以上でマシンの登録は完了です。

## 3.9. マシンプロパティを設定するには

管理対象マシンのプロパティ設定を行います。マシンプロパティでは、マシン固有の情報を設定します。以下の手順に従って設定を行ってください。

ただし、マシンの種別が仮想マシンの場合、[ネットワーク] タブ、[ストレージ] タブは表示されません。

### 3.9.1. [全般] タブを設定するには

マシンプロパティの [全般] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーからプロパティ設定を行うマシンのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「マシンプロパティ設定」が表示されます。
5. [全般] タブを選択します。

システムリソース > マシン > Group1 > OLIVE12

マシンプロパティ設定

全般 | ネットワーク | ストレージ | ソフトウェア | 配布済みソフトウェア

マシン名: OLIVE12

モデル名:

UUID: A88F8000-0181-1000-8010-00004071CE16

種別: Unitary

スロット番号: 0

ロケーション:

タグ:

説明:

モデル名の自動更新

適用 | キャンセル

6. 共通プールを使用する場合、[モデル名] テキストボックスにモデル名を入力します。

---

**関連情報:** 共通プールについては、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」の「1.1.6 プールマシンとは」を参照してください。

---

7. [ロケーション] テキストボックスにロケーションを入力します。
8. [タグ] テキストボックスにタグ (キーワード) を入力します。
9. モデル名の自動更新を禁止する場合、[モデル名の自動更新] テキストボックスをオフにします。

10. [適用] をクリックします。

以上でマシンプロパティの [全般] タブの設定は完了です。

### 3.9.2. [ネットワーク] タブを設定するには

マシンプロパティの [ネットワーク] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーからプロパティ設定を行うマシンのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「マシンプロパティ設定」が表示されます。
5. [ネットワーク] タブを選択します。
6. [NIC 一覧] グループボックスにNICを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
7. [NIC 一覧] グループボックスの下部に、[NIC 設定] グループボックスが表示されます。



8. [NIC 番号] プルダウンボックスから NIC 番号を選択します。
9. [MAC アドレス] テキストボックスに MAC アドレスを入力します。
10. [スイッチ] プルダウンボックスからスイッチを選択します。
11. [ポート] プルダウンボックスから接続するポートを選択します。
12. [OK] をクリックします。[NIC 一覧] グループボックスに NIC が追加されます。
13. [戻る] をクリックすると、メインウィンドウはマシンの詳細情報に戻ります。

**注:** NetvisorProが管理するスイッチのVLAN制御を行うには、グループプロパティの [VLAN設定] タブも合わせて設定する必要があります。両方の設定がされていない場合、VLAN制御は行われません。スイッチブレードのVLAN制御を行う場合は、収集機能にて自動的に [ネットワーク] タブが設定されるため、グループプロパティの [VLAN] タブの設定のみが必要になります。グループプロパティの [VLAN設定] タブの設定については、「5.4.5 [VLAN設定] タブ設定するには」を参照してください。

以上でマシンプロパティの [ネットワーク] タブの設定は完了です。

### 3.9.3. [ストレージ] タブを設定するには

マシンプロパティの [ストレージ] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーからプロパティ設定を行うマシンのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「マシンプロパティ設定」が表示されます。
5. [ストレージ] タブを選択します。
6. [ストレージ情報] グループボックスにストレージ情報を追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
7. [ストレージ情報] グループボックスの下部に、[HBA 設定] グループボックスが表示されます。



8. [HBA 番号] テキストボックスに HBA 番号を入力します。
9. [アドレス] プルダウンボックスからアドレスを選択します。
10. [OK] をクリックします。[ストレージ情報] グループボックスにストレージ情報が追加されます。
11. [戻る] をクリックすると、メインウィンドウはマシンの詳細情報に戻ります。

**注:** ストレージ制御を行うには、ホスト設定の [ストレージ] タブも合わせて設定する必要があります。両方が設定されていない場合、ストレージ制御は行われません。ホスト設定の [ストレージ] タブの設定については、「5.8.3 [ストレージ] タブを設定するには」を参照してください。

以上でマシンプロパティの [ストレージ] タブの設定は完了です。

### 3.9.4. [ソフトウェア] タブを設定するには

マシンプロパティの [ソフトウェア] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーからプロパティ設定を行うマシンのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「マシンプロパティ設定」が表示されます。
5. [ソフトウェア] タブを選択します。
6. [ソフトウェア一覧] グループボックスの [ソフトウェアの種類] プルダウンボックスからソフトウェアを配布するタイミングを選択します。選択すると、既に登録されているソフトウェアが一覧に表示されます。
7. ソフトウェアの配布順序を入れ替える場合、順序を入れ替えるソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックします。
8. [ソフトウェア一覧] グループボックスに配布するソフトウェアを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
9. [ソフトウェア一覧] グループボックスの下部に、[ソフトウェア追加] グループボックスが表示されます。



10. [ソフトウェア追加] グループボックスから、配布するソフトウェアのチェックボックスをオンにします。
11. [OK] をクリックします。[ソフトウェア一覧] グループボックスにソフトウェアが追加されます。
12. ソフトウェアの配布順序を入れ替える場合、順序を入れ替えるソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックします。
13. [適用] をクリックします。

以上でマシンプロパティの [ソフトウェア] タブの設定は完了です。

### 3.9.5. [配布済みソフトウェア] タブを確認するには

マシンプロパティの [配布済みソフトウェア] タブを確認します。以下の手順に従って確認してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーからプロパティ設定を行うマシンのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「マシンプロパティ設定」が表示されます。
5. [配布済みソフトウェア] タブを選択します。



6. 配布済みのソフトウェアを確認します。
7. [戻る] をクリックすると、メインウィンドウはマシンの詳細情報に戻ります。

以上でマシンプロパティの [配布済みソフトウェア] タブの確認は完了です。



## 4. 仮想マシンに対する操作

本章では、仮想マシンを運用するための事前準備について記載します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 4.1 仮想マシン用テンプレートを用意する ..... 132
- 4.2 仮想マシンを作成する ..... 134
- 4.3 VM移動 ..... 136

## 4.1. 仮想マシン用テンプレートを用意する

SystemProvisioning では、サブシステムとして登録されている VirtualCenter および XenEnterprise Pool Master が管理するテンプレートを使用することができます。SystemProvisioning から使用できるテンプレートの一覧を確認するには、「4.1.1 SystemProvisioning から使用できるテンプレートを確認するには」、SystemProvisioning からテンプレートを作成するには、「4.1.2 SystemProvisioning からテンプレートを作成するには」を参照してください。

### 4.1.1. SystemProvisioning から使用できるテンプレートを確認するには

SystemProvisioning では、サブシステムとして登録されている VirtualCenter および XenEnterprise Pool Master が管理するテンプレートを使用することができます。以下の手順に従って確認してください。

1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
2. [システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにソフトウェア詳細情報が表示されます。
4. [ソフトウェア一覧] グループボックスに表示されたテンプレートの詳細情報を確認するテンプレート名をクリックします。
5. メインウィンドウにテンプレートの詳細情報が表示されます。

以上で SystemProvisioning から使用できるテンプレートの確認は完了です。

## 4.1.2. SystemProvisioning からテンプレートを作成するには

SystemProvisioning からテンプレートを作成します。以下の手順に従って作成してください。

1. タイトルバーの [仮想] をクリックし、[仮想] ビューに切り替えます。
2. [仮想] ツリーからテンプレートの作成元となるマスタ VM をクリックします。

**注:** テンプレートの作成元となるマシンの電源は事前にオフしておく必要があります。

3. [設定] メニューから [テンプレート作成] をクリックします。
4. メインウィンドウに「テンプレート作成」が表示されます。

The screenshot shows the 'Template Creation' dialog box with the following fields and options:

- テンプレート名: [ ]
- 複製元VM名: vm02
- コスト値: [ ]
- 説明(255文字以内): [ ]
- Duplicate名: [ ]
- VMサーバ: 192.168.10.17
- 格納場所: iStorageS500
- 他のDuplicateからコピーする: [ ]
- Windows設定/Linux設定:  Windows  Linux
- 名前: [ ]
- 組織名: [ ]
- タイムゾーン: (GMT+09:00) 大阪、札幌、東京
- プロダクトキー: [ ]
- ライセンスモード:  同時接続サーバ数  接続クライアント

Buttons: OK, キャンセル

5. [テンプレート作成] グループボックスの各項目を選択 / 入力します。
6. [OK] をクリックします。

以上で SystemProvisioning からのテンプレートの作成は完了です。

## 4.2. 仮想マシンを作成する

SystemProvisioning では、サブシステムとして登録されている VirtualCenter または、XenEnterprise Pool Master が管理する仮想マシンサーバ上で仮想マシンを作成することができます。

### 4.2.1. 仮想マシンの作成方法について

SystemProvisioning から仮想マシンを作成する方法には、[仮想] ビューより作成する方法と [運用] ビューより作成する方法の 2 種類があります。以下にそれぞれの違いと使い分けについて説明します。

◆ [仮想] ビューより作成する方法

[仮想] ビューより仮想マシンを作成してグループで稼動する場合の手順は、以下の通りです。

1. [仮想] ビューの [設定] メニューから [VM 作成 (テンプレート)] を使用して、仮想マシンを作成します。
2. [運用] ビューの [アクション] メニューから [マスタマシン登録] を使用して、作成した仮想マシンをグループで稼動します。

仮想マシンを作成する方法の詳細については、「4.2.2 [仮想] ビューで仮想マシンを作成するには」を、グループで稼動する方法の詳細については、「5.11.1 マスタマシンを登録する」を参照してください。

◆ [運用] ビューより作成する方法

[運用] ビューより仮想マシンを作成してグループで稼動する場合の手順は、以下の通りです。

1. [運用] ビューの [アクション] メニューから [新規リソース割り当て] を使用して、仮想マシンを作成し、そのままグループで稼動します。

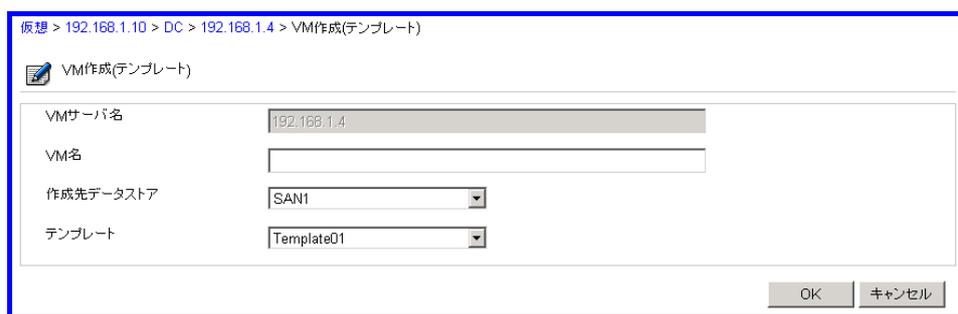
[運用] ビューより新規リソース割り当てを実施する場合には、作成する仮想マシンに対してホスト名や IP アドレスなどの情報を個別に設定することができます。

仮想マシンを作成しグループで稼動する方法の詳細については、「5.11.3 仮想マシンを作成してグループで稼動する」を参照してください。

## 4.2.2. [仮想] ビューで仮想マシンを作成するには

仮想ビューで仮想マシンを作成します。以下の手順に従って作成してください

1. タイトルバーの [仮想] をクリックし、[仮想] ビューに切り替えます。
2. [仮想] ツリーから仮想マシンを作成する仮想マシンサーバをクリックします。
3. [設定] メニューから [VM 作成 (テンプレート)] をクリックします。
4. メインウィンドウに「VM 作成 (テンプレート)」が表示されます。



5. [VM 名] テキストボックスに作成する仮想マシン名を入力します。
6. [作成先データストア] プルダウンボックスから仮想マシンを作成するデータストアを選択します。
7. [テンプレート] プルダウンボックスから仮想マシンを作成するのに使用するテンプレートを選択します。
8. [OK] をクリックします。

以上で仮想ビューでの仮想マシンの作成は完了です。

## 4.3. VM 移動

仮想マシンを別の仮想マシンサーバへ移動します。以下の手順に従って操作してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーから移動する仮想マシンのグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホスト一覧] グループボックスから移動する仮想マシンのホストのチェックボックスをオンにします。
5. [アクション] メニューから [VM 移動] をクリックします。



6. メインウィンドウに「VM 移動」が表示されます。

運用 > カテゴリ > グループ > VM移動

VM移動

VM名: HOST

移動元VMサーバ名: 192.168.1.6

選択	VMサーバ名	状態	電源	使用量/キャパ	IPアドレス	VM数
<input type="radio"/>	192.168.1.14	管理外	Running	0/200	192.168.1.4	9
<input type="radio"/>	192.168.1.4	正常	Running	0/200	192.168.1.4	0
<input type="radio"/>	192.168.1.7	正常	Running	11/200	192.168.1.7	3

VM移動方法の指定

Hot Migration/Cold Migrationを行います

Moveを行います

Failoverを行います

OK キャンセル

7. [移動先 VM サーバー一覧] グループボックスから移動先の仮想マシンサーバを選択します。
8. [VM 移動方法の指定] グループボックスから仮想マシンの移動方法を指定します。[Hot Migration / Cold Migration を行います] チェックボックスをオンにすると、電源オンの仮想マシンを Hot Migration、電源オフの仮想マシンを Cold Migration で移動します。[Move を行います] チェックボックスをオンにすると、仮想マシンをシャットダウン後にディスクを含めて移動します。[Failover を行います] チェックボックスをオンにすると、仮想マシンサーバが障害などでダウンしている場合、仮想マシンを移動します。Hot Migration / Cold Migration および Failover は、仮想マシンが共有ディスク上に存在する場合に有効です。VM の移動後の電源状態は必ずオンになります。
9. [OK] をクリックします。

以上で VM 移動は完了です。



## 5. マシンを運用するための操作

本章では、SigmaSystemCenter でマシンを運用するための操作について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

• 5.1	カテゴリを追加する .....	140
• 5.2	アクセス権限を設定する .....	141
• 5.3	運用グループを追加する .....	144
• 5.4	グループプロパティを設定する .....	145
• 5.5	モデルプロパティを設定する (物理マシンの場合) .....	156
• 5.6	モデルプロパティを設定する (仮想マシンの場合) .....	160
• 5.7	モデルプロパティを設定する (仮想マシンサーバの場合) .....	164
• 5.8	ホストを設定する .....	166
• 5.9	VM最適配置機能を設定する .....	172
• 5.10	プールにマシンを追加する .....	175
• 5.11	グループで稼働する .....	176
• 5.12	スケールアウト .....	182
• 5.13	スケールイン .....	183
• 5.14	マシンの用途を変更する .....	184
• 5.15	マシンを置換する .....	186
• 5.16	マシンへ指定したソフトウェアを配布する .....	187
• 5.17	ソフトウェアの再配布をする .....	189

## 5.1. カテゴリを追加する

新規にカテゴリを追加します。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーから [運用] アイコンもしくは、カテゴリを追加するカテゴリのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [カテゴリ追加] をクリックします。
4. メインウィンドウに「カテゴリ追加」が表示されます。



5. [名前] テキストボックスにカテゴリ名を入力します。
6. [OK] をクリックします。

以上でカテゴリの追加は完了です。

## 5.2. アクセス権限を設定する

カテゴリの単位でロール（役割）を設定し、ユーザアカウントに対してロールを割り当てることにより、カテゴリ単位でのアクセス権限を設定することができます。

### 5.2.1. ロールを追加するには

ロールを追加します。以下の手順に従ってロールを追加してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [ユーザ] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。
4. [ロール一覧] グループボックスから、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
5. メインウィンドウに「ロール追加」が表示されます。



6. [ロール名] テキストボックスにロール名を入力します。
7. [権限レベル] プルダウンボックスから権限レベルを選択します。
8. [OK] をクリックします。

以上でロールの追加は完了です。

## 5.2.2. ロールの権限対象を設定するには

ロールが管理 / 操作 / 参照権限の対象とするカテゴリを指定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [ユーザ] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。
4. [設定] メニューから [ロール範囲編集] をクリックします。
5. メインウィンドウに「ロールにグループを割り当てる」が表示されます。
6. [運用] ツリーからロールを割り当てるカテゴリを選択します。
7. [ロール一覧] グループボックスから、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
8. [ロール一覧] グループボックスの下部に、[ロール一覧] グループボックスが表示されます。



9. 下部の [ロール一覧] グループボックスから、選択したカテゴリに権限対象とするロールのチェックボックスをオンにします。
10. [OK] をクリックします。[ロール一覧] グループボックスにカテゴリに権限対象とするロールが追加されます。
11. [適用] をクリックします。

以上でロールの権限対象設定は完了です。

### 5.2.3. ユーザにロールを割り当てるには

ユーザにロールを割り当てます。以下の手順に従って割り当ててください。

1. タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [ユーザ] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。
4. [ユーザー一覧] グループボックスからロールを割り当てるユーザの [編集] アイコンをクリックします。
5. メインウィンドウに「ユーザ編集」が表示されます。
6. [ロール一覧] グループボックスから、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
7. [ロール一覧] グループボックスの下部に、[ロール一覧] グループボックスが表示されます。

The screenshot shows the 'User Edit' (ユーザ編集) window. The 'User Name' (ユーザ名) field contains 'pvm'. The 'Authority Level' (権限レベル) dropdown is set to 'Administrator'. Below the main form are two 'Role List' (ロール一覧) panels. The top panel is empty, and the bottom panel shows a table with one row: 'ROLE1' with 'Administrator' authority level. Both panels have 'Add' (追加) and 'Delete' (削除) buttons and 'OK'/'Cancel' buttons.

8. 下部の [ロール一覧] グループボックスでユーザに割り当てるロールのチェックボックスをオンにします。ユーザの権限レベルと同じ権限レベルのロールを選択する必要があります。
9. [OK] をクリックします。[ロール一覧] グループボックスにユーザに割り当てるロールが追加されます。
10. [OK] をクリックします。

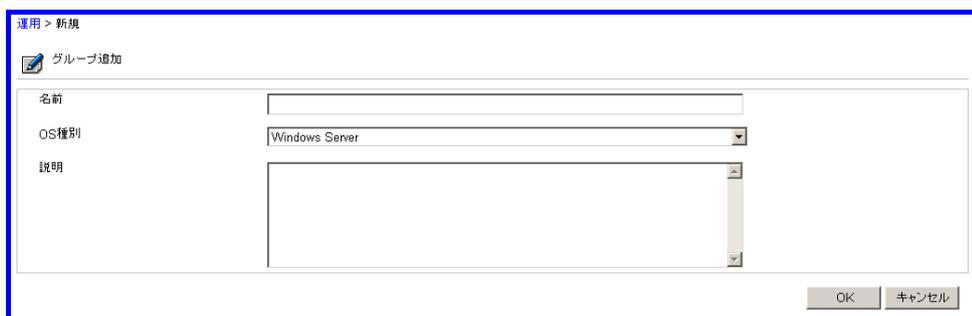
以上でユーザへのロールの割り当ては完了です。

## 5.3. 運用グループを追加する

SigmaSystemCenter では、物理マシンまたは、仮想マシンといったマシンの種類によらず、同一の手順で運用することができます。ただし、運用グループは、マシンの種類ごと、OS の種類ごとに分けて用意する必要があります。1 つの運用グループでは、1 種類のマシンのみ管理できます。SigmaSystemCenter で管理するマシンの種類は、仮想マシンサーバを除く物理マシン、仮想マシン、仮想マシンサーバの 3 種類です。

新規に運用グループを追加します。以下の手順に従って追加してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーから [運用] アイコン、運用グループを追加するカテゴリのアイコンもしくは、グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [グループ追加] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループ追加」が表示されます。



5. [名前] テキストボックスに運用グループ名を入力します。
6. [OS 種別] プルダウンボックスからグループに登録されるマシンの稼動 OS の種類を選択します。

---

**注:** 管理対象マシンが仮想マシンサーバの場合、OS 種別として Linux を選択してください。

---

7. [OK] をクリックします。

以上で運用グループの追加は完了です。

## 5.4. グループプロパティを設定する

運用グループの詳細情報をグループプロパティに設定します。以下の手順に従って設定してください。

### 5.4.1. [全般] タブを設定するには

グループプロパティの [全般] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[全般] タブを選択します。

5. 運用グループ名を変更する場合、[グループ名] テキストボックスに運用グループ名を入力します。
6. 運用グループのプライオリティを変更する場合、[プライオリティ] プルダウンボックスからプライオリティを選択します。

**注:** プライオリティの値が小さいほど優先的に選択されます。

7. 運用グループ単位でポリシーを使用する場合、[ポリシー名] プルダウンボックスからポリシー名を選択します。
8. [プールマシン使用方法] グループボックスよりプールマシンの使用方法を選択します。
9. SIGMABLADE マシンに対して、マシン置換で CPUBlade 置換を優先的に実行する場合、チェックボックスをオンにします。

**注:** [マシン置換では CPUBlade 置換を優先的に実行する] チェックボックスは、サブシステムに SIGMABLADE controller が登録されている場合のみ選択することができます。

10. [適用] をクリックします。

以上でグループプロパティの [全般] タブの設定は完了です。

### 5.4.2. [モデル] タブを設定するには

モデルでは、マシンの種類に依存した情報を設定します。1 つの運用グループに、複数のモデルを追加することができます。マシンスペックの異なるマシンを1つの運用グループで管理する場合には、マシンスペックごとにモデルを用意してください。

グループプロパティの [モデル] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[モデル] タブをクリックします。
5. [モデル一覧] グループボックスにモデルを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
6. [モデル一覧] グループボックスの下部に、[モデル追加] グループボックスが表示されます。



7. [名前] テキストボックスにモデル名を入力します。

8. [種別] プルダウンボックスからモデルの種別を選択します。  
マシンの種類が、仮想マシンサーバ以外の物理マシンの場合には [物理] を、仮想マシンの場合には [VM] を、仮想マシンサーバの場合には [VM サーバ] を選択してください。

---

**注:** 1つの運用グループには、物理、VM、VM サーバのいずれか 1 種類のマシンモデルのみ追加できます。異なるマシンの種類のモデルを混在して追加することはできません。

---

9. [OK] をクリックします。[モデル一覧] グループボックスにモデルが追加されます。
10. [戻る] をクリックすると、メインウィンドウはグループの詳細情報に戻ります。

---

**関連情報:** モデル追加後、モデルの詳細情報を設定する場合は、「5.5 モデルプロパティを設定する」を参照してください。

---

以上でグループプロパティの [モデル] タブの設定は完了です。

### 5.4.3. [ホスト] タブを設定するには

ホストではホスト名や IP アドレスといったマシンの種類に依存しない情報をホスト設定として設定します。

グループプロパティの [ホスト] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[ホスト] タブをクリックします。
5. [ホスト一覧] グループボックスにホストを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
6. [ホスト一覧] グループボックスの下部に、[ホスト追加] グループボックスが表示されます。



7. [ホスト名] テキストボックスにホスト名を入力します。

---

**注：**ロードバランサ制御を行うには、ロードバランサグループのリアルサーバのネットワークアドレスに属するように IP アドレスを設定する必要があります。両方の設定がされていない場合、ロードバランサ制御は行われません。また、ホストの IP アドレスが "自動取得" となっている場合、ロードバランサ制御は行われません。

---

8. [OK] をクリックします。[ホスト一覧] グループボックスにホストが追加されます。
9. [戻る] をクリックすると、メインウィンドウはグループの詳細情報に戻ります。

---

**関連情報：**ホスト追加後、ホストの詳細情報を設定する場合は、「5.8 ホストを設定する」を参照してください。

---

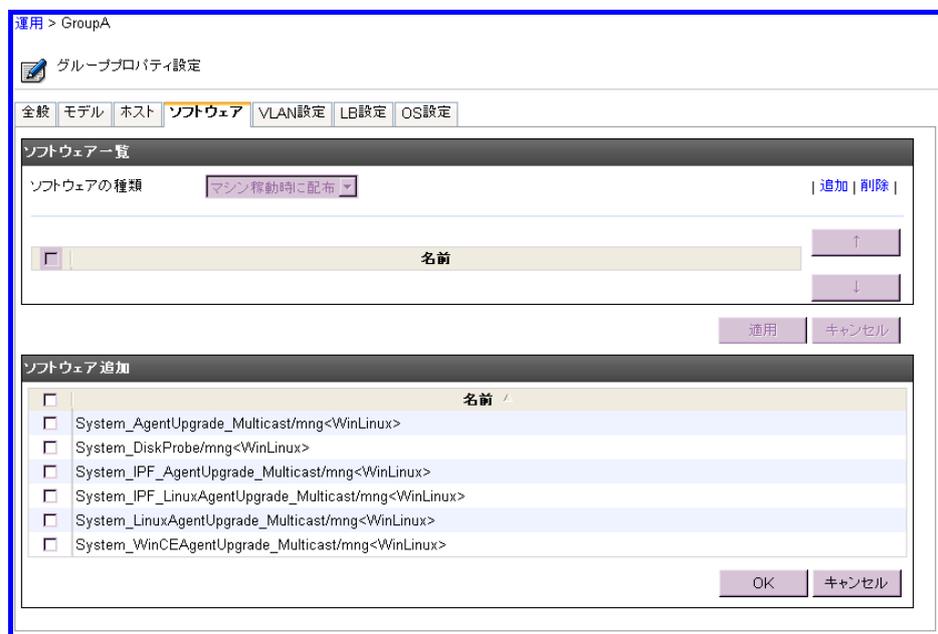
以上でグループプロパティの [ホスト] タブの設定は完了です。

#### 5.4.4. [ソフトウェア] タブを設定するには

グループプロパティの [ソフトウェア] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

**注:** 同じ ESX Server の自動インストールシナリオを複数の運用グループへ登録できません。複数の運用グループへ登録する場合は、同じ手順で別のシナリオを作成してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[ソフトウェア] タブを選択します。
5. [ソフトウェア一覧] グループボックスの [ソフトウェアの種類] プルダウンボックスからソフトウェアを配布するタイミングを選択します。選択すると、既に登録されているソフトウェアが一覧に表示されます。
6. ソフトウェアの配布順序を入れ替える場合、順序を入れ替えるソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックします。
7. [ソフトウェア一覧] グループボックスに配布するソフトウェアを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
8. [ソフトウェア一覧] グループボックスの下部に、[ソフトウェア追加] グループボックスが表示されます。



9. [ソフトウェア追加] グループボックスから、配布するソフトウェアのチェックボックスをオンにします。

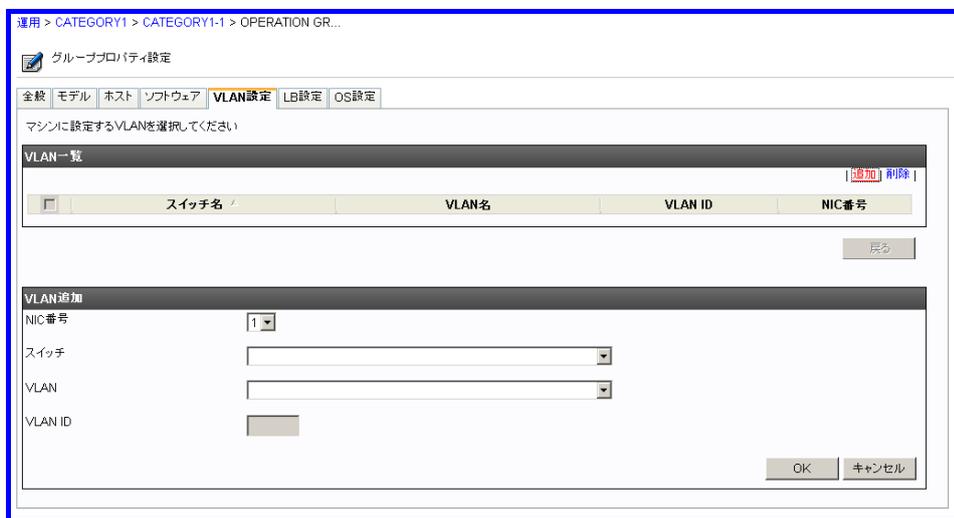
10. [OK] をクリックします。[ソフトウェア一覧] グループボックスにソフトウェアが追加されます。
11. ソフトウェアの配布順序を入れ替える場合、順序を入れ替えるソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックします。
12. [適用] をクリックします。

以上でグループプロパティの [ソフトウェア] タブの設定は完了です。

### 5.4.5. [VLAN 設定] タブ設定するには

グループプロパティの [VLAN] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[VLAN 設定] タブを選択します。
5. [VLAN 一覧] グループボックスに VLAN を追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
6. [VLAN 一覧] グループボックスの下部に、[VLAN 追加] グループボックスが表示されます。



7. [NIC 番号] プルダウンボックスから NIC 番号を選択します。
8. [スイッチ] プルダウンボックスからスイッチを選択します。
9. [VLAN] プルダウンボックスから VLAN を選択します。

10. [OK] をクリックします。[VLAN 一覧] グループボックスに VLAN が追加されます。
11. [戻る] をクリックすると、メインウィンドウはグループの詳細情報に戻ります。

---

**注:** VLAN制御を行うには、マシンプロパティの [ネットワーク] タブも合わせて設定する必要があります。両方の設定がされていない場合、VLAN制御は行われません。マシンプロパティの[ネットワーク] タブの設定については、「3.9.2 [ネットワーク] タブを設定するには」を参照してください。

---

以上でグループプロパティの [VLAN] タブの設定は完了です。

### 5.4.6. [LB 設定] タブを設定するには

グループプロパティの [LB 設定] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[LB 設定] タブをクリックします。
5. [ロードバランサー一覧] グループボックスにロードバランサを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
6. [ロードバランサー一覧] グループボックスの下部に、[ロードバランサ追加] グループボックスが表示されます。



7. [ロードバランサ追加] グループボックスからロードバランサを選択します。
8. [OK] をクリックします。[ロードバランサー一覧] グループボックスにロードバランサが追加されます。
9. [戻る] をクリックすると、メインウィンドウはグループの詳細情報に戻ります。

以上でグループプロパティの [LB 設定] タブの設定は完了です。

### 5.4.7. [OS 設定] タブを設定するには (Windows)

管理対象マシンの OS が Windows を使用する場合、グループプロパティの [OS 設定] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[OS 設定] タブをクリックします。

The screenshot shows the 'グループプロパティ設定' (Group Property Settings) dialog box with the 'OS設定' (OS Settings) tab selected. The 'OS種別' (OS Type) is set to 'Windows Server'. There are fields for 'Administratorのパスワード' (Administrator Password) and a checkbox for 'パスワード更新' (Update Password). Below that, there are radio buttons for '次のワークグループに参加している' (Join workgroup) and '次のドメインに参加している' (Join domain). The 'workgroup' field is filled with 'workgroup'. There are also fields for 'アカウント' (Account) and 'パスワード' (Password) with a 'パスワード更新' checkbox. At the bottom, there are tabs for 'NIC#1', 'NIC#2', 'NIC#3', and 'NIC#4'. Under 'NIC#1', there are fields for '優先DNS' (Priority DNS), '代替DNS' (Replacement DNS), '優先WINS' (Priority WINS), and '代替WINS' (Replacement WINS). The '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel) buttons are at the bottom right.

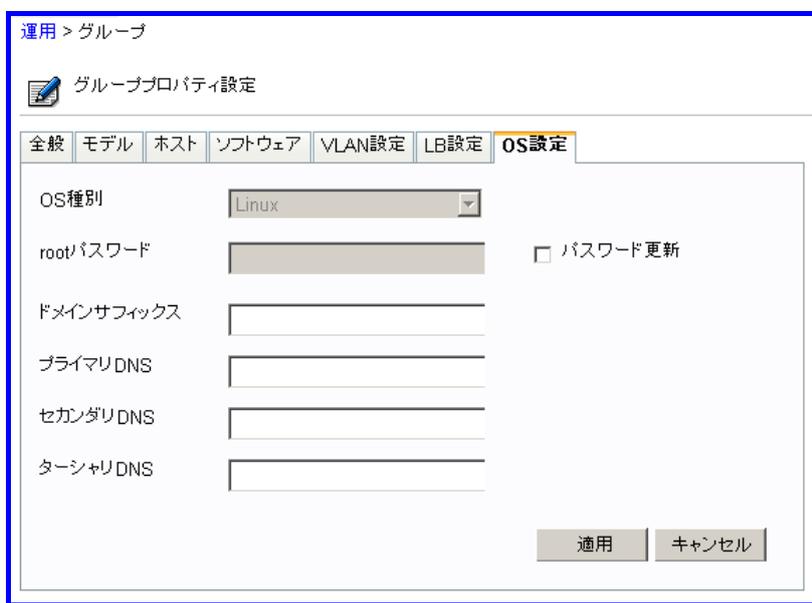
5. Administrator のパスワードを変更する場合、[パスワード更新] チェックボックスをオンにし、[Administrator のパスワード] テキストボックスに新しいパスワードを入力します。
6. ワークグループに参加している場合、[次のワークグループに参加している] チェックボックスをオンにし、テキストボックスに参加しているワークグループ名を入力します。
7. ドメインに参加している場合、[次のドメインに参加している] チェックボックスをオンにし、[アカウント] テキストボックスにドメインアカウントを入力します。また、ドメインのパスワードを変更する場合、[パスワード更新] チェックボックスをオンにし、[パスワード] テキストボックスに新しいパスワードを入力します。
8. 使用する NIC のタブを選択します。
9. [優先 DNS] テキストボックスに優先 DNS の IP アドレスを入力します。
10. [代替 DNS] テキストボックスに代替 DNS の IP アドレスを入力します。
11. [優先 WINS] テキストボックスに優先 WINS の IP アドレスを入力します。
12. [代替 WINS] テキストボックスに代替 WINS の IP アドレスを入力します。
13. [適用] をクリックします。

以上でグループプロパティの [OS 設定] タブ (Windows) の設定は完了です。

### 5.4.8. [OS 設定] タブを設定するには (Linux)

管理対象マシンの OS が Linux を使用する場合、グループプロパティの [OS 設定] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[OS 設定] タブをクリックします。



The screenshot shows the 'OS 設定' (OS Settings) tab in the 'グループプロパティ設定' (Group Property Configuration) window. The window title is '運用 > グループ' and the subtitle is 'グループプロパティ設定'. The 'OS 設定' tab is selected, showing the following fields and options:

- OS種別: Linux (dropdown menu)
- rootパスワード: [Text input field]
- パスワード更新:
- ドメインサフィックス: [Text input field]
- プライマリDNS: [Text input field]
- セカンダリDNS: [Text input field]
- ターシャリDNS: [Text input field]
- 適用 (Apply) button
- キャンセル (Cancel) button

5. root のパスワードを変更する場合、[パスワード更新] チェックボックスをオンにし、[root のパスワード] テキストボックスに新しいパスワードを入力します。
6. [ドメインサフィックス] テキストボックスにドメインサフィックスを入力します。
7. [プライマリ DNS] テキストボックスにプライマリ DNS の IP アドレスを入力します。
8. [セカンダリ DNS] テキストボックスにセカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。
9. [ターシャリ DNS] テキストボックスにターシャリ DNS の IP アドレスを入力します。
10. [適用] をクリックします。

以上でグループプロパティの [OS 設定] タブ (Linux) の設定は完了です。

### 5.4.9. [OS 設定] タブを設定するには (HP-UX)

管理対象マシンの OS が HP-UX を使用する場合、グループプロパティの [OS 設定] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[OS 設定] タブをクリックします。

運用 > CATEGORY1 > CATEGORY1-1 > OPERATION GROUP

グループプロパティ設定

全般 モデル ホスト ソフトウェア VLAN設定 LB設定 **OS設定**

OS種別 HP-UX

root パスワード   パスワード作成

DNSドメイン名

DNSサーバ

適用 キャンセル

5. root パスワードを変更する場合、[パスワード作成] チェックボックスをオンにし、[root パスワード] テキストボックスに新しいパスワードを入力します。
6. [DNS ドメイン名] テキストボックスに DNS ドメイン名を入力します。
7. [DNS サーバ] テキストボックスに DNS サーバの IP アドレスを入力します。
8. [適用] をクリックします。

以上でグループプロパティの [OS 設定] タブ (HP-UX) の設定は完了です。

## 5.5. モデルプロパティを設定する (物理マシンの場合)

「5.4.2 [モデル] タブを設定するには」で追加したモデルの詳細情報を設定します。モデルプロパティでは、マシンの種類に依存した情報を設定します。本節ではモデルの種別が [物理] の場合の設定について説明します。以下の手順に従って設定してください。

### 5.5.1. [全般] タブを設定するには

モデルプロパティの [全般] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[モデル] タブをクリックします。
5. [モデル一覧] グループボックスから詳細設定を行うモデルの [編集] アイコンをクリックします。
6. メインウィンドウに「モデルプロパティ設定」が表示されます。[全般] タブを選択します。

運用 > CATEGORY1 > CATEGORY1-1 > OPERATION GR... > MODEL1

モデルプロパティ設定

全般 | ソフトウェア

グループ名: OPERATION GROUP1

モデル種別: 物理

モデル名: MODEL1

プライオリティ: 1

ポリシー名: 設定なし

[指定ポリシーを参照する](#)

モデル説明

適用 キャンセル

7. モデル名を変更する場合、[モデル名] テキストボックスにモデル名を入力します。
8. モデルで使用するプライオリティを変更する場合、[プライオリティ] プルダウンボックスからプライオリティを選択します。SystemProvisioning が自動的にモデルを選択する場合のプライオリティを指定します。

---

**注:** プライオリティの値が小さいほど優先的に選択されます。

---

9. モデルで使用するポリシーを変更する場合、[ポリシー名] プルダウンボックスからポリシーを選択します。

---

**注:** モデルに対してポリシーが設定されていない場合には、親グループのプロパティに設定されているポリシーが使用されます。

---

10. [適用] をクリックします。

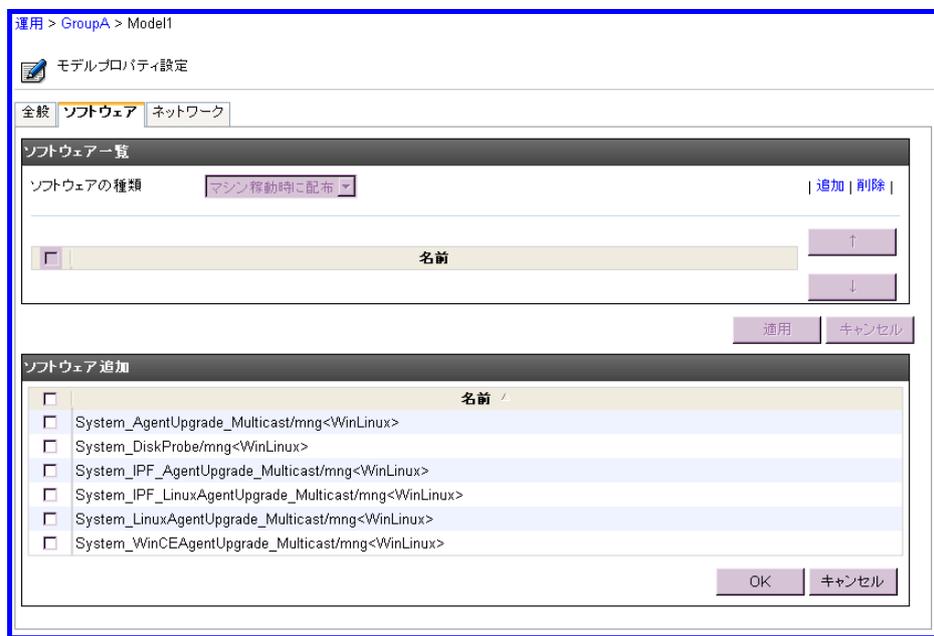
以上でモデルプロパティの [全般] タブの設定は完了です。

### 5.5.2. [ソフトウェア] タブを設定するには

モデルプロパティの [ソフトウェア] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[モデル] タブをクリックします。
5. [モデル一覧] グループボックスから詳細設定を行うモデルの [編集] アイコンをクリックします。
6. メインウィンドウに「モデルプロパティ設定」が表示されます。[ソフトウェア] タブを選択します。
7. [ソフトウェア一覧] グループボックスの [ソフトウェアの種類] プルダウンボックスからソフトウェアを配布するタイミングを選択します。選択すると、既に登録されているソフトウェアが一覧に表示されます。
8. ソフトウェアの配布順序を入れ替える場合、順序を入れ替えるソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックします。
9. [ソフトウェア一覧] グループボックスに配布するソフトウェアを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。

10. [ソフトウェア一覧] グループボックスの下部に、[ソフトウェア追加] グループボックスが表示されます。



11. [ソフトウェア追加] グループボックスから、配布するソフトウェアのチェックボックスをオンにします。
12. [OK] をクリックします。[ソフトウェア一覧] グループボックスにソフトウェアが追加されます。
13. ソフトウェアの配布順序を入れ替える場合、順序を入れ替えるソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックします。
14. [適用] をクリックします。

以上でモデルプロパティの [ソフトウェア] タブの設定は完了です。

## 5.6. モデルプロパティを設定する (仮想マシンの場合)

「5.4.2 [モデル] タブを設定するには」で追加したモデルの詳細情報を設定します。モデルプロパティでは、マシンの種類に依存した情報を設定します。本節ではモデルの種別が [VM] の場合の設定について説明します。以下の手順に従って設定してください。

### 5.6.1. [全般] タブを設定するには

モデルプロパティの [全般] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[モデル] タブをクリックします。
5. [モデル一覧] グループボックスから詳細設定を行うモデルの [編集] アイコンをクリックします。
6. メインウィンドウに「モデルプロパティ設定」が表示されます。[全般] タブを選択します。

運用 > WinVMGroup > VMwareVM

モデルプロパティ設定

全般 | ソフトウェア | ネットワーク

グループ名 WinVMGroup

モデル種別 VM

モデル名 VMwareVM

プライオリティ 1

ポリシー名 設定なし

[指定ポリシーを参照する](#)

VMサーバモデル 設定なし

最適起動を有効にする

VMを作成した時、DPMに登録する

DPM Webサーバ 設定なし

DPM管理サーバ 設定なし

モデル説明

適用 キャンセル

7. モデル名を変更する場合、[モデル名] テキストボックスにモデル名を入力します。
8. モデルで使用するプライオリティを変更する場合、[プライオリティ] プルダウンボックスからプライオリティを選択します。SystemProvisioning が自動的にモデルを選択する場合のプライオリティを指定します。

---

**注:** プライオリティの値が小さいほど優先的に選択されます。

---

9. モデルで使用するポリシーを変更する場合、[ポリシー名] プルダウンボックスからポリシーを選択します。

---

**注:** モデルに対してポリシーが設定されていない場合には、親グループのプロパティに設定されているポリシーが使用されます。

---

10. VM モデルと VM サーバモデルを関連付ける場合、[VM サーバモデル] プルダウンボックスから VM サーバモデルを選択します。VM サーバモデルが指定されている場合には、仮想マシンを作成する際に、指定されている VM サーバモデル配下の仮想マシンサーバからマシンを作成する仮想マシンサーバを選択します。

---

**注:** VM サーバモデルが指定されていない場合、テンプレートが所属する DataCenter 配下の仮想マシンサーバから選択します。

---

11. 最適起動機能を有効にする場合、[最適起動を有効にする] チェックボックスをオンにします。最適起動機能を有効にすると、現在ホストとしている仮想マシンサーバ上で仮想マシンが起動不可能だった場合に、ホストとする仮想マシンサーバを SystemProvisioning が自動で選択します。[VM サーバモデル] プルダウンボックスから VM サーバモデルが指定されていると、指定されている VM サーバモデル配下の仮想マシンサーバからマシンを起動する仮想マシンサーバを選択します。

---

**注:** VM サーバモデルが指定されていない場合、仮想マシンが所属する DataCenter 配下の仮想マシンサーバから選択します。

---

12. 稼動している仮想マシンを DPM に登録する場合、[VM を作成したとき、DPM に登録する] チェックボックスをオンにし、[DPM Web サーバ] プルダウンボックスから Web サーバ for DPM、および [DPM 管理サーバ] プルダウンボックスから管理サーバ for DPM を選択します。
13. [適用] をクリックします。

以上でモデルプロパティの [全般] タブの設定は完了です。

### 5.6.2. [ソフトウェア] タブを設定するには

モデルプロパティの [ソフトウェア] タブを設定します。

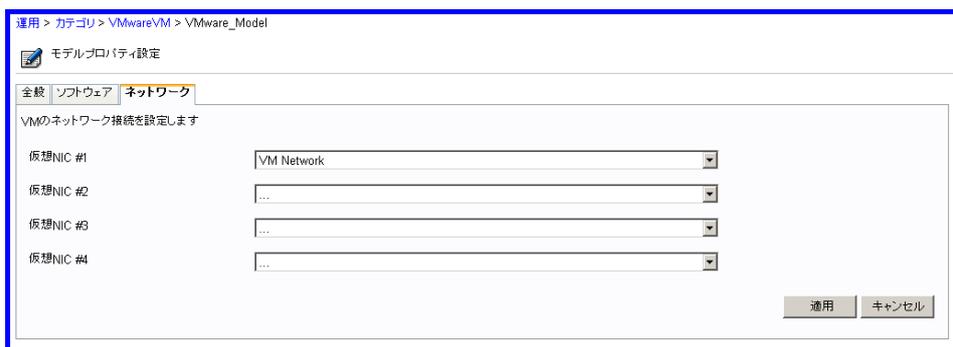
[ソフトウェア] タブの設定については、「5.5.2 [ソフトウェア] タブを設定するには」を参照してください。

### 5.6.3. [ネットワーク] タブを設定するには

モデルプロパティの [ネットワーク] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

**注:** [全般] タブで VM サーバモデルの設定、または、[ソフトウェア] タブでテンプレートの設定を行うと [仮想 NIC] プルダウンボックスに仮想ポート一覧が表示されます。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[モデル] タブをクリックします。
5. [モデル一覧] グループボックスから詳細設定を行うモデルの [編集] アイコンをクリックします。
6. メインウィンドウに「モデルプロパティ設定」が表示されます。[ネットワーク] タブを選択します。



7. 各 [仮想 NIC] プルダウンボックスから仮想マシンが接続する仮想ポートを選択します。また、「...」を選択すると任意の仮想ポートを入力し、設定できます。
8. [適用] をクリックします。

以上でモデルプロパティの [ネットワーク] タブの設定は完了です。

## 5.7. モデルプロパティを設定する (仮想マシンサーバの場合)

「5.4.2 [モデル] タブを設定するには」で追加したモデルの詳細情報を設定します。モデルプロパティでは、マシンの種類に依存した情報を設定します。本節ではモデルの種別が [VMサーバ] の場合の設定を説明します。以下の手順に従って設定してください。

### 5.7.1. [全般] タブを設定するには

モデルプロパティの [全般] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

**注:** モデルに設定する DataCenter が適切に設定されていない場合、VM サーバをグループに追加することができません。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[モデル] タブをクリックします。
5. [モデル一覧] グループボックスから詳細設定を行うモデルの [編集] アイコンをクリックします。
6. メインウィンドウに「モデルプロパティ設定」が表示されます。[全般] タブを選択します。

フィールド名	値
グループ名	ESX
モデル種別	VMサーバ
モデル名	ESX_Model
プライオリティ	1
ポリシー名	設定なし
データセンタ	設定なし
モデル説明	

7. モデル名を変更する場合、[モデル名] テキストボックスにモデル名を入力します。

8. モデルで使用するプライオリティを変更する場合、[プライオリティ] プルダウンボックスからプライオリティを選択します。SystemProvisioning が自動的にモデルを選択する場合のプライオリティを指定します。

---

注: プライオリティの値が小さいほど優先的に選択されます。

---

9. モデルで使用するポリシーを変更する場合、[ポリシー名] プルダウンボックスからポリシーを選択します。

---

注: モデルに対してポリシーが設定されていない場合には、親グループのプロパティに設定されているポリシーが使用されます。

---

10. モデルで使用する DataCenter を [データセンタ] プルダウンボックスから選択します。
11. [適用] をクリックします。

以上でモデルプロパティの [全般] タブの設定は完了です。

## 5.7.2. [ソフトウェア] タブを設定するには

モデルプロパティの [ソフトウェア] タブを設定します。

[ソフトウェア] タブの設定については、「5.5.2 [ソフトウェア] タブを設定するには」を参照してください。

## 5.7.3. [VM 最適配置] タブを設定するには

モデルプロパティの [VM最適配置] タブを設定します。VM最適配置機能を使用しない場合は、[VM最適配置を有効にする] チェックボックスをオフにします。VM最適配置機能を使用する場合には、「5.9 VM最適配置機能を設定する」を参照して設定してください。

[VM最適配置] タブの設定については、「5.9.2 VMサーバモデルを設定する」を参照してください。

---

注: 同じ ESX Server の自動インストールシナリオを複数の運用グループへ登録できません。複数の運用グループへ登録する場合は、同じ手順で別のシナリオを作成してください。

---

## 5.8. ホストを設定する

「5.4.3 [ホスト] タブを設定するには」で追加したホストの詳細情報を設定します。以下の手順に従って設定してください。

### 5.8.1. [全般] タブを設定するには

ホストの [全般] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[ホスト] タブをクリックします。
5. [ホスト一覧] グループボックスから詳細設定を行うホストの [編集] アイコンをクリックします。
6. メインウィンドウに「ホスト設定」が表示されます。[全般] タブを選択します。

運用 > CATEGORY1 > CATEGORY1-1 > OPERATION GR... > OLIVE12

ホスト設定

全般 | ネットワーク | ストレージ | ソフトウェア

ホスト名

タグ

グループに設定されている管理者パスワードを使用する

ホストに設定されている管理者パスワードを使用する

Administratorのパスワード   パスワード更新

プロダクトキー

適用 キャンセル

7. ホスト名を変更する場合、[ホスト名] テキストボックスにホスト名を入力します。
8. [タグ] テキストボックスにタグ (キーワード) を入力します。
9. グループもしくは、ホストに設定されている管理者パスワードのどちらを管理者パスワードとして使用するかを選択します。また、ホストに設定されている管理者パスワードを使用し、パスワードを更新する場合、[パスワード更新] チェックボックスをオンにし、[Administrator のパスワード] テキストボックスに新しいパスワードを入力します。
10. [プロダクトキー] テキストボックスにホストのプロダクトキーを入力します。
11. [適用] をクリックします。

以上でホストの [全般] タブの設定は完了です。

## 5.8.2. [ネットワーク] タブを設定するには

ホストの [ネットワーク] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[ホスト] タブをクリックします。
5. ESMPRO/ServerAgent で物理マシンの監視を行う場合、[管理用 IP アドレス] プルダウンボックスから管理用 IP アドレスを選択します。
6. [ホスト一覧] グループボックスから詳細設定を行うホストの [編集] アイコンをクリックします。
7. メインウィンドウに「ホスト設定」が表示されます。[ネットワーク] タブを選択します。
8. IP アドレスの一覧に IP アドレスを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
9. IP アドレスの一覧の下部に、[IP アドレス設定] グループボックスが表示されます。



10. [IP アドレス] テキストボックスに IP アドレスを入力します。
11. [サブネットマスク] テキストボックスにサブネットマスクを入力します。
12. [デフォルトゲートウェイ] テキストボックスにデフォルトゲートウェイを入力します。
13. [OK] をクリックします。IP アドレスの一覧に IP アドレスが追加されます。
14. [適用] をクリックします。

以上でホストの [ネットワーク] タブの設定は完了です。

### 5.8.3. [ストレージ] タブを設定するには

ホストの [ストレージ] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[ホスト] タブをクリックします。
5. [ホスト一覧] グループボックスから詳細設定を行うホストの [編集] アイコンをクリックします。
6. メインウィンドウに「ホスト設定」が表示されます。[ストレージ] タブを選択します。
7. [ストレージ一覧] グループボックスにディスクボリュームを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。
8. [ストレージ一覧] グループボックスの下部に、[ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。



9. [HBA 情報] グループボックスから HBA の接続をすべて、もしくは、指定するを選択します。接続する HBA を指定する場合、[HBA 番号] テキストボックスに HBA 番号を入力します。
10. [ディスクアレイ] プルダウンボックスからディスクアレイを選択します。
11. [ディスクボリューム] プルダウンボックスからディスクボリュームを選択します。

12. [OK] をクリックします。[ストレージ一覧] グループボックスにディスクボリュームが追加されます。
13. [適用] をクリックします。

---

**注:** ストレージ制御を行うには、マシンプロパティの [ストレージ] タブも合わせて設定する必要があります。両方が設定されていない場合、ストレージ制御は行われません。マシンプロパティの [ストレージ] タブの設定については、「3.9.3 [ストレージ] タブを設定するには」を参照してください。

---

以上でホストの [ストレージ] タブの設定は完了です。

#### 5.8.4. [ソフトウェア] タブを設定するには

ホストの [ソフトウェア] タブを設定します。以下の手順に従って設定してください。

---

**注:** 同じ ESX Server の自動インストールシナリオを複数の運用グループへ登録できません。複数の運用グループへ登録する場合は、同じ手順で別のシナリオを作成してください。

---

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[ホスト] タブをクリックします。
5. [ホスト一覧] グループボックスから詳細設定を行うホストの [編集] アイコンをクリックします。
6. メインウィンドウに「ホスト設定」が表示されます。[ソフトウェア] タブを選択します。
7. [ソフトウェア一覧] グループボックスの [ソフトウェアの種類] プルダウンボックスからソフトウェアを配布するタイミングを選択します。選択すると、既に登録されているソフトウェアが一覧に表示されます。
8. ソフトウェアの配布順序を入れ替える場合、順序を入れ替えるソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックします。
9. [ソフトウェア一覧] グループボックスに配布するソフトウェアを追加する場合、[アクション] メニューの [追加] をクリックします。

10. [ソフトウェア一覧] グループボックスの下部に、[ソフトウェア追加] グループボックスが表示されます。



11. [ソフトウェア設定] グループボックスから、配布するソフトウェアのチェックボックスをオンにします。
12. [OK] をクリックします。[ソフトウェア一覧] グループボックスにソフトウェアが追加されます。
13. ソフトウェアの配布順序を入れ替える場合、順序を入れ替えるソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックします。
14. [適用] をクリックします。

以上でホストの [ソフトウェア] タブの設定は完了です。

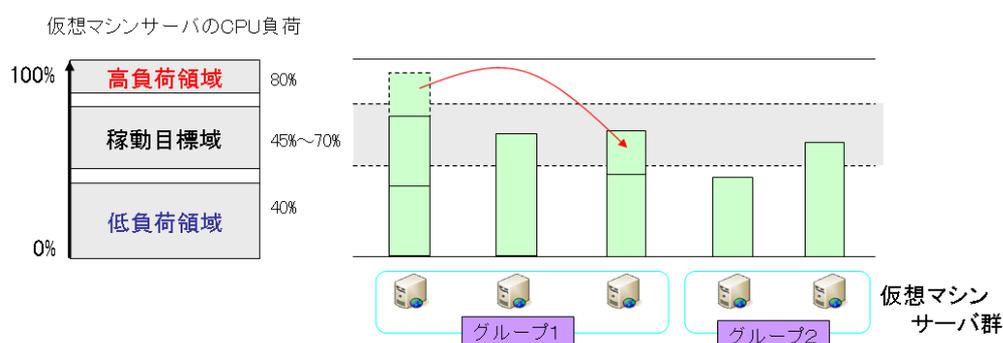
## 5.9. VM 最適配置機能を設定する

本節では、VM 最適配置機能の設定方法について説明します。VM 最適配置機能の概要については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」の「1.3.6. VM 最適配置」を参照してください。

### 5.9.1. 仮想マシンサーバをグループで管理するには

SystemProvisioning による Hot Migrate / Cold Migrate は、同一のグループで稼動している仮想マシンサーバ間で行われます。仮想マシンの負荷分散や省電力機能、また仮想マシンサーバ障害時の Failover による障害復旧など、仮想マシンの Hot Migrate / Cold Migrate を伴う機能を使用する場合には、仮想マシンの移動対象となる仮想マシンサーバ群を1つのグループに登録してください。

以下は、仮想マシンの負荷分散の例です。

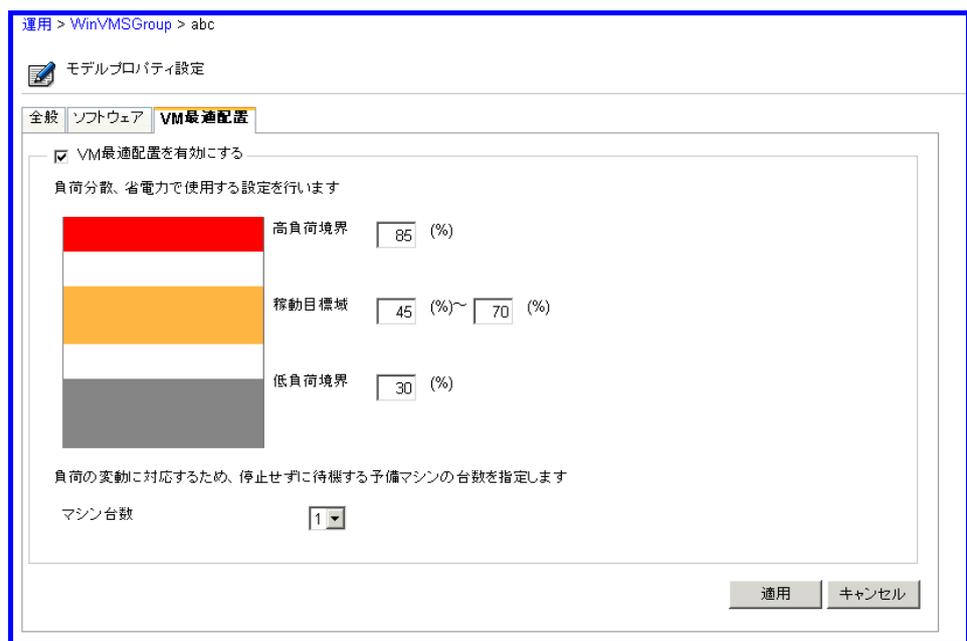


SystemProvisioning は、仮想マシンサーバの負荷状態を監視して、負荷が集中している仮想マシンサーバ上から、負荷があまり高くない他の仮想マシンサーバへ仮想マシンを自動的に Hot Migrate することにより、負荷を適正にすることができます。負荷分散対象とする仮想マシンサーバ群を1つのグループに登録して稼動してください。別グループで稼動している仮想マシンサーバは、仮想マシンの Migrate 対象にはなりません。

## 5.9.2. VM サーバモデルを設定するには

仮想マシンサーバのグループに対して、VMサーバモデルを設定します。モデルの設定方法については、「5.5 モデルプロパティを設定する」を参照してください。ここでは、VM最適配置機能を利用するために必要なモデルプロパティ設定の [VM最適配置] タブの設定について説明します。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプロパティ設定を行う運用グループのアイコンをクリックします。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
4. メインウィンドウに「グループプロパティ設定」が表示されます。[モデル] タブをクリックします。
5. [モデル一覧] グループボックスから詳細設定を行うモデルの [編集] アイコンをクリックします。
6. メインウィンドウに「モデルプロパティ設定」が表示されます。[VM 最適配置] タブを選択します。



7. VM 最適配置機能を使用する場合は、[VM 最適配置を有効にする] チェックボックスをオンにします。
8. 高負荷境界を変更する場合、[高負荷境界] テキストボックスに高負荷境界の割合を設定します。
9. 稼働目標域を変更する場合、[稼働目標域] テキストボックスに稼働目標の範囲を設定します。
10. 低負荷境界を変更する場合、[低負荷境界] テキストボックスに低負荷境界の割合を設定します。

11. [マシン台数] プルダウンボックスから、負荷の変動に対応するために、起動している仮想マシンが "0" になった場合にもシャットダウンせずに待機しておく仮想マシンサーバの台数を選択します。このパラメータは、省電力機能を使用する場合に有効です。"1" 以上の値を設定することを推奨します。
12. [適用] をクリックします。

以上で VM サーバモデルの設定は完了です。

### 5.9.3. SystemMonitor 性能監視を設定するには

SystemMonitor性能監視では、仮想マシンサーバの性能状態の監視を行い、CPU高負荷または、低負荷が発生した場合、SystemProvisioningへ通報します。SystemMonitor性能監視の設定については、「2.6 SystemMonitor性能監視で性能を監視するための設定を行う」を参照してください。ここでは、VM最適配置機能を利用するために必要な設定について説明します。

1. SystemMonitor 性能監視の管理コンソールを起動します。
2. SystemMonitor 性能監視でグループを追加し、SystemProvisioning 上の VM サーバモデルを構成反映の対象として設定します。
3. [ツール] メニューから [SystemProvisioning 構成一括反映] をクリックし、VM サーバモデルの情報を反映します。
4. ツリー上に仮想マシンサーバが表示されたことを確認します。
5. ツリーのグループ名を右クリックし、[閾値監視設定] を選択します。
6. 「閾値監視設定」ダイアログボックスが表示されます。
7. [閾値定義] および [性能監視リスト] に、対象とする SystemProvisioning の VM サーバモデルで設定した内容が反映されていることを確認します。自動で反映された項目は、青色で表示されます。

---

**関連情報:** 閾値監視設定については、「SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド」の「6. 閾値監視と通報」を参照してください。

---

以上で SystemMonitor 性能監視の設定は完了です。

### 5.9.4. 省電力機能を使用するには

VM 最適配置で省電力機能を使用する場合には、仮想マシンサーバのグループに対して、[標準ポリシー (仮想マシンサーバ 省電力)] を設定してください。仮想マシンの使用台数が少なくなる夜間のみ省電力運転を行うといった運用を行うには、グループに設定するポリシーを SigmaSystemCenter のコマンドを使用して日中と夜間とで切り替えてください。

## 5.10. プールにマシンを追加する

運用グループのプールで待機するマシンを追加します。運用グループプールに追加したマシンは、その運用グループ用のプールマシンとなりますが、1 台のマシンを複数のグループプールに待機させ、用途変更などに対応することもできます。以下の手順に従って追加してください。

**注:** SIGMABLADE マシンをプールに追加する場合、対象の SIGMABLADE マシンを DPM に登録しておく必要があります。DPM に登録されていない場合、正常に動作しません。また、DPM にマシンを登録した後、SigmaSystemCenter から収集を行ってください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからプールマシンを追加するグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [設定] メニューから [プールに追加] をクリックします。
5. メインウィンドウに「プールに追加」と表示されます。[モデル] プルダウンボックスからモデルを選択します。



6. プールに追加するマシンのチェックボックスをオンにします。
7. [OK] をクリックします。
8. プールにマシンを追加するか確認メッセージが表示されます。

以上でプールへのマシン追加は完了です。

## 5.11. グループで稼働する

SigmaSystemCenter では、[運用] ビューでホストにマシンを割り当てることを“稼働”と呼びます。本節では、マシンをグループで稼働する方法について説明します。

### 5.11.1. マスタマシンを登録するには

SigmaSystemCenter では、ネットワーク設定やソフトウェアのインストールなどが完了しており、そのまま運用に使用できるマシンを“マスタマシン”と呼びます。ソフトウェアの配布やネットワーク設定を行わずにマスタマシンをグループで稼働することを“マスタマシン登録”と呼びます。“マスタマシン登録”を実施するには、あらかじめマスタマシンのホスト名やネットワーク情報などを設定したホストを用意しておきます。以下の手順に従って登録してください。

**注:** SIGMABLADE マシンをグループで稼働させる場合、対象の SIGMABLADE マシンを DPM に登録しておく必要があります。DPM に登録されていない場合、正常に動作しません。また、DPM にマシンを登録した後、SigmaSystemCenter から収集を行ってください。

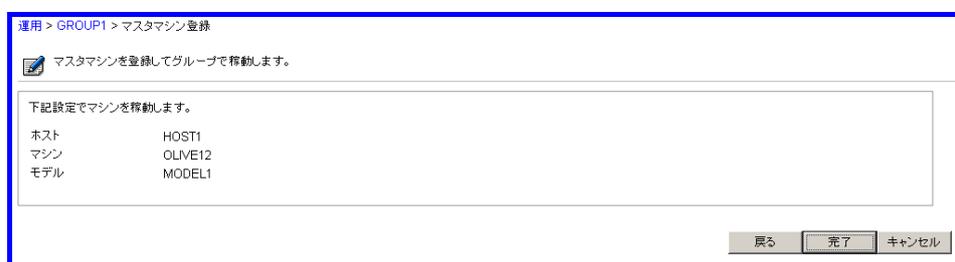
1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからマスタマシンの登録をするグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホスト一覧] グループボックスからマスタマシンの情報が設定されているホストのチェックボックスをオンにします。
5. [アクション] メニューから [マスタマシン登録] をクリックします。



6. メインウィンドウに「マスタマシンを登録してグループで稼働します。」が表示されます。  
[モデル] プルダウンボックスからモデルを選択します。



7. グループに追加するマスタマシンを選択します。
8. [次へ] をクリックします。
9. メインウィンドウに、マスタマシンの登録確認情報が表示されます。



10. [完了] をクリックします。

以上でマスタマシンの登録は完了です。

### 5.11.2. ホストにリソースを割り当てるには

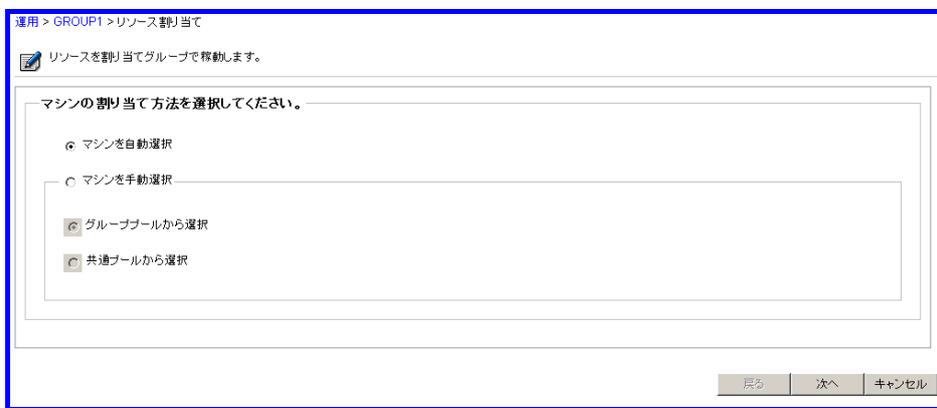
ソフトウェアの配布やネットワーク設定を行ってマシンをグループで稼働することを“リソース割り当て”と呼びます。以下の手順に従って登録してください。

**注:** SIGMABLADE マシンをホストに割り当ててグループで稼働させる場合、対象の SIGMABLADE マシンを DPM に登録しておく必要があります。DPM に登録されていない場合、正常に動作しません。また、DPM にマシンを登録した後、SigmaSystemCenter から収集を行ってください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからマシンを登録するグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホスト一覧] グループボックスからリソースを割り当てるホストのチェックボックスをオンにします。
5. [アクション] メニューから [リソース割り当て] をクリックします。



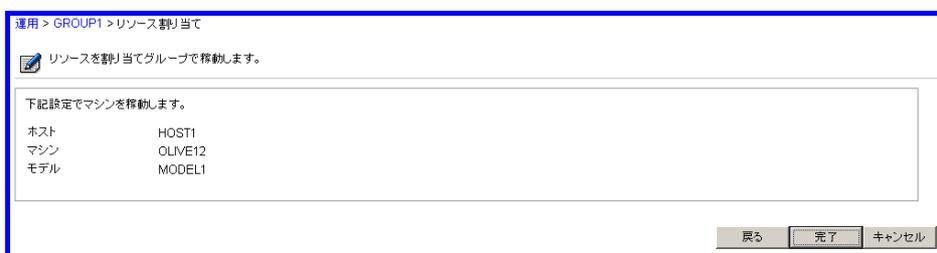
6. メインウィンドウに「リソースを割り当てグループで稼働します。」が表示されます。マシンの割り当て方法を選択します。



7. [次へ] をクリックします。
8. マシンの割り当て方法を自動選択した場合、手順 11 に進みます。マシンの割り当て方法を手動選択した場合、メインウィンドウに「リソースを割り当てグループで稼働します。」が表示されます。



9. 追加したいマシンを選択します。
10. [次へ] をクリックします。
11. メインウィンドウにマシンを割り当てる確認情報が表示されます。



12. [完了] をクリックします。  
以上でホストに対してリソースの割り当てを行い、グループへのマシン登録は完了です。

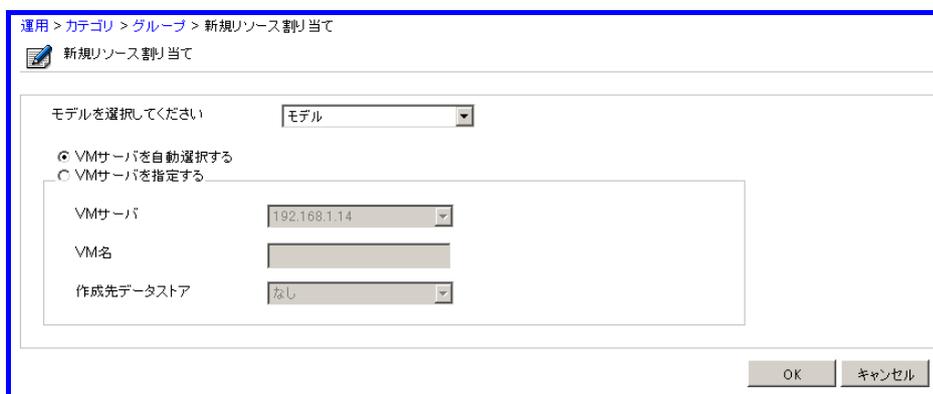
### 5.11.3. 仮想マシンを作成してグループで稼働するには

仮想マシンを新規に作成してグループで稼働する場合、「新規リソース割り当て」を使用します。以下の手順に従って登録してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからマシンを登録するグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホスト一覧] グループボックスから仮想マシンの情報が設定されているホストのチェックボックスをオンにします。
5. [アクション] メニューから [新規リソース割り当て] をクリックします。

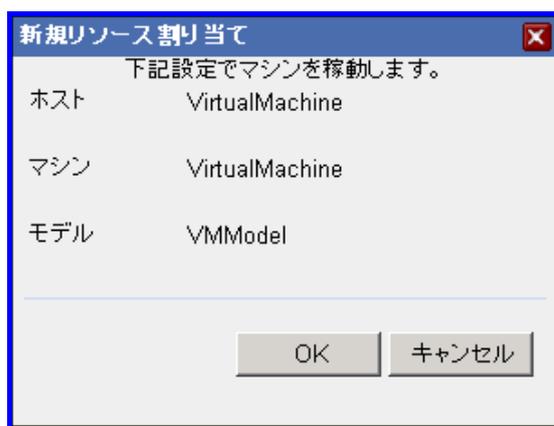


6. メインウィンドウに「新規リソース割り当て」が表示されます。



7. 仮想マシンを作成するモデルを選択します。モデルプロパティ設定の [ソフトウェア] タブで指定されているテンプレートを使用し、仮想マシンを作成します。

8. 仮想マシンサーバの選択方法を選択します。仮想マシンサーバを自動選択する場合、手順 12 へ進みます。
9. 仮想マシンサーバを指定する場合、[VM サーバ] プルダウンボックスから仮想マシンサーバを選択します。
10. [VM 名] テキストボックスに仮想マシン名を入力します。
11. 仮想マシンサーバを指定する場合、[作成先データストア] プルダウンボックスから作成先 Datastore を選択します。作成先 Datastore がなしの場合、自動選択されます。
12. [OK] をクリックします。
13. メインウィンドウに新規リソース割り当ての確認情報が表示されます。



14. [OK] をクリックします。

以上で仮想マシンを作成してグループで稼動は完了です。

## 5.12. スケールアウト

運用グループプールで待機するマシンを稼動 (スケールアウト) します。以下の手順に従ってスケールアウトしてください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからスケールアウトするグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [設定] メニューから [スケールアウト] をクリックします。

The screenshot shows the 'VM Server' configuration window. It is divided into several sections:

- 基本情報 (Basic Information):** A table with fields for Name (VMServer), Priority (1), OS (Linux), Policy Name, Resource Pool Usage (GroupOnly), CPU Preemptive Migration (False), and Description.
- ホスト一覧 (Host List):** A table with columns: Host Name, Status, Power, IP Address, Resource, Model, and Properties. It shows two hosts: 'esx35' (Normal, Running, 192.168.10.17, vms-001, VMS-1) and 'vmserver02' (Definition only, Auto-acquire).
- リソースプール (Resource Pool):** A table with columns: Resource Name, Status, Power, Type, MAC Address, Shared, and Model. It shows one resource: 'vms-000' (Normal, -, Unitary, VMware, V..., -, VMS-1).
- 設定 (Settings) and 操作 (Operations) menus:** Located on the right side, the '操作' menu is open, showing 'スケールアウト' (Scale Out) as the selected option.

5. スケールアウトを行うか確認メッセージが表示されます。
6. 完了するとグループに追加されたマシンは [ホスト一覧] グループボックスに表示されます。

以上でスケールアウトは完了です。

## 5.13. スケールイン

運用グループで稼働中のマシンをプールに待機（スケールイン）します。以下の手順に従ってスケールインしてください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからスケールインするグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [設定] メニューから [スケールイン] をクリックします。



5. スケールインを行うか確認メッセージが表示されます。
6. 完了すると待機状態となったマシンは [リソースプール] グループボックスに表示されます。

以上でスケールインは完了です。

## 5.14. マシンの用途を変更する

運用グループで稼働マシンの用途を変更します。以下の手順に従って用途変更してください。

**注:** VM サーバモデルの運用グループで稼働中の仮想マシンサーバは、物理モデルの運用グループに用途変更を行うことはできません。また、仮想マシンの用途変更はできません。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーから用途変更するマシンが所属しているグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホスト一覧] グループボックスから用途変更するマシンのチェックボックスをオンにします。
5. [アクション] メニューから [マシンの用途変更] をクリックします。



6. 「マシンの用途変更」ダイアログボックスが表示されます。移動先グループを選択します。



7. [OK] をクリックします。

以上でマシンの用途変更は完了です。

## 5.15. マシンを置換する

運用グループで稼働中のマシンを置換します。以下の手順に従って置換してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーから置換するマシンが所属しているグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホスト一覧] グループボックスから置換するマシンのチェックボックスをオンにします。
5. [アクション] メニューから [マシンの置換] をクリックします。



### 注:

- ・ 「5.4.1 [全般] タブを設定するには」の[マシン置換でCPUBlade置換を優先的に実行する] チェックボックスをオンに設定されている場合、SIGMABLADEマシンに対して、利用中のIO仮想化ブレードを引き継いだ置換 (CPUブレードのみの置換) が優先的に実行されます。
- ・ 仮想マシンサーバおよび仮想マシンの置換を行うことはできません。

6. 確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でマシンの置換は完了です。

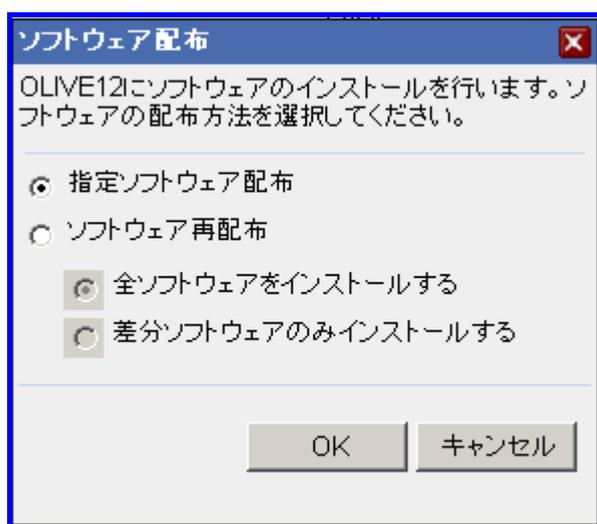
## 5.16. マシンへ指定したソフトウェアを配布する

任意のタイミングでマシンへ指定したソフトウェアを配布します（指定ソフトウェア配布）。以下の手順に従って配布してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからソフトウェアを配布するグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホスト一覧] グループボックスからソフトウェアを配布するマシンのチェックボックスをオンにします。
5. [アクション] メニューから [ソフトウェア配布] をクリックします。



6. 「ソフトウェア配布」ダイアログボックスが表示されます。[指定ソフトウェア配布] を選択し、[OK] をクリックします。



7. メインウィンドウに「指定ソフトウェア配布」が表示されます。



8. [ソフトウェア一覧] グループボックスから配布するソフトウェアのチェックボックスをオンにします。
9. 複数のソフトウェアを配布する場合、ソフトウェアの配布順序を入れ替えることができます。ソフトウェアの配布順序を入れ替える場合、順序を入れ替えるソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[↑] もしくは、[↓] をクリックします。
10. [OK] をクリックします。

以上でマシンへ指定したソフトウェアの配布は完了です。

## 5.17. ソフトウェアの再配布をする

ソフトウェアの再配布を行います。以下の手順に従って再配布を行ってください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからソフトウェアを再配布するグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホストー覧] グループボックスからソフトウェアを再配布するマシンのチェックボックスをオンにします。
5. [操作] メニューから [ソフトウェア再配布] をクリックします。

運用 > VMServer

**基本情報**

名前	VMServer
プライオリティ	1
OS種別	Linux
ホリゾン名	
リソースプール利用方式	GroupOnly
CPUブレード置換を優先	False
説明	

**ホストー覧**

表示件数: 20 | 割り当て解除 | その他の操作...

ホスト名	状態	電源	IPアドレス	リソース	モデル	プロパティ
esx35	正常	Running	192.168.10.17	vms-001	VMS-1	
vmsserver02	定義のみ		自動取得			

割り当て解除 | その他の操作...

**リソースプール**

表示件数: 20 | プールから削除 | その他の操作...

リソース名	状態	電源	種別	MACアドレス	共有	モデル
vms-000	正常	-	Unitary,VMware,V...		-	VMS-1

プールから削除 | その他の操作...

**設定**

- グループ編集
- グループ移動
- グループ削除
- プロパティ

**操作**

- スケールアウト
- スケールイン
- プールに追加

**起動**

- 再起動
- シャットダウン
- サスペンド

ソフトウェア再配布

画面更新

6. メインウィンドウに「ソフトウェアの再配布」が表示されます。



7. グループへの配布方法を選択します。
8. ソフトウェアのインストール方法の選択を行います。
9. [OK] をクリックします。

以上でソフトウェアの再配布は完了です。

# セクション III メンテナンスを行う

このセクションでは、SigmaSystemCenterの保守の操作およびバックアップ方法について記載します。

- 6 保守
- 7 バックアップ・リストア



## 6. 保守

本章では、SigmaSystemCenter のメンテナンス方法について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

• 6.1	保守の操作 .....	194
• 6.2	管理対象マシンを追加登録する .....	199
• 6.3	マシンへ追加APの配布・パッチを適用する .....	205
• 6.4	ログの採取 .....	210
• 6.5	ハードウェアを交換する .....	216

## 6.1. 保守の操作

### 6.1.1. SystemProvisioning を起動 / 再起動 / 停止するには

SystemProvisioning を起動 / 再起動 / 停止します。以下の手順に従って操作してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から「PVMService」を選択し、[サービスの開始]、[サービスの再起動]、もしくは、[サービスの停止] をクリックします。

以上で SystemProvisioning を起動 / 再起動 / 停止は完了です。

### 6.1.2. マシンを起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンドするには

マシンの起動、再起動、シャットダウンまたは、サスペンドを行います。以下の手順に従って操作してください。

---

**注:** SIGMABLADE controller 経由で登録された SIGMABLADE マシンは、DPM に登録されていない場合、一部の電源操作が行えません。SIGMABLADE マシンを DPM に登録し、SigmaSystemCenter で収集を行った後、電源操作をしてください。

---

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからマシンを起動、再起動、シャットダウンもしくは、サスペンドを行うマシンのグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。

4. [ホスト一覧] グループボックス、もしくは、[リソースプール] グループボックスからマシンの起動、再起動、シャットダウンもしくは、サスペンドをするホストのチェックボックスをオンにします。



5. [操作] メニューもしくは、[アクション] メニューから [起動]、[再起動]、[シャットダウン] もしくは、[サスペンド] をクリックします。

**注:**

- ・ [操作] メニューから起動、再起動、シャットダウンもしくは、サスペンドを行う場合、ホストにリソースが割り当てられているすべてのマシンに処理が行われます。
- ・ [アクション] メニューから起動、再起動、シャットダウンもしくは、サスペンドを行う場合、[ホスト一覧] グループボックスもしくは、[リソースプール] グループボックスから選択したマシンのみ処理が行われます。

6. 確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でマシンの起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンドは完了です。

### 6.1.3. メンテナンスモードをオン / オフするには

メンテナンスモードのオン / オフを行います。以下の手順に従ってください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからメンテナンスモードをオンもしくは、オフにするマシンのグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホスト一覧] グループボックスもしくは、[リソースプール] グループボックスからメンテナンスモードをオンもしくは、オフにするマシンのチェックボックスをオンにします。



5. メンテナンスモードをオンにする場合、[アクション] メニューから [メンテナンスオン] をクリックし、メンテナンスモードをオフにする場合、[アクション] メニューから [メンテナンスオフ] をクリックします。
6. 確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でメンテナンスのオン / オフは完了です。

### 6.1.4. マシンのハードウェア状態を故障から正常に解除するには

マシンのハードウェアの状態を故障から正常に解除します。以下の手順に従って操作してください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからマシンのハードウェア状態を故障から正常に解除するマシンのグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホストー覧] グループボックスもしくは、[リソースプール] グループボックスから、マシンのハードウェア状態を故障から正常に解除するマシンのチェックボックスをオンにします。
5. [アクション] メニューから [故障状態の解除] を選択します。



6. 確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でマシンのハードウェア状態を故障から正常に解除は完了です。

### 6.1.5. ジョブ実行結果のリセット

SystemProvisioning は、何らかの理由によりポリシーによるアクションや Web コンソールの操作などからマシンの起動・停止など、アクションの実行に失敗するとリソースの状態を「異常」に設定します。「異常」となっているマシンに関してログの採取や障害原因を取り除いた後、以下の手順に従って対象マシンの管理状態をリセットしてください。

1. タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。
2. [運用] ツリーからジョブ実行結果のリセットを行うグループのアイコンをクリックします。
3. メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。
4. [ホスト一覧] グループボックスもしくは、[リソースプール] グループボックスから、ジョブ実行結果のリセットを行うマシンのチェックボックスをオンにします。
5. [アクション] メニューから [ジョブ実行結果のリセット] をクリックします。



6. 確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でジョブ実行結果リセットは完了です。

## 6.2. 管理対象マシンを追加登録する

SigmaSystemCenter の運用開始後、管理対象マシンを追加登録する手順を説明します。誤って同一マシンが別マシンとして SystemProvisioning に登録することがないように注意が必要です。

また、SIGMABLADE controllerを使用する場合の登録手順については、「6.2.4 SIGMABLADE controllerを使用する場合」を参照してください。

### 6.2.1. 物理マシンを追加登録するには

物理マシンを管理対象マシンとして追加登録します。以下の手順に従って登録してください。物理マシンを仮想マシンサーバとして使用する場合、「6.2.2 仮想マシンサーバを追加登録するには」を参照してください。

1. SystemProvisioning のサブシステムとして登録されている DPM に、管理対象マシンを登録します。
2. マシンを登録した DPM に対して、SystemProvisioning からマシン情報の収集を行います。タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
3. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
4. メインウィンドウにサブシステムの詳細情報が表示されます。[サブシステム一覧] グループボックスから該当する DPM のチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [収集] をクリックします。
5. 収集したマシンの確認を行います。タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替え、[マシン] アイコンをクリックします。
6. [設定] メニューから [マシン登録] をクリックし、[管理外のマシン一覧] グループボックスを確認します。DPM に登録したマシンの情報が正しく反映されていることを確認します。

---

**注:** 追加登録されたマシンは、この時点では SystemProvisioning の管理対象となっていないため、[管理外のマシン一覧] グループボックスに表示されます。

---

以上で物理マシンの追加登録は完了です。

## 6.2.2. 仮想マシンサーバを追加登録するには

仮想マシンサーバを管理対象マシンとして追加登録します。以下の手順に従って登録してください。

1. VM 最適配置機能や省電力機能を使用する場合には、SystemProvisioning のサブシステムとして登録されている DPM に、仮想マシンサーバを登録します。

---

**注:** DPMのWebコンソールの「コンピュータの追加」ウィンドウでUUIDが登録されていることを確認してください。登録手順については、「2.8.3 DPMに一般マシンを登録するには」または、「2.8.4 DPMにCPUブレードを登録するには」を参照してください。

---

2. マシンを登録した DPM に対して SystemProvisioning からマシン情報の収集を行います。タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
3. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
4. メインウィンドウにサブシステムの詳細情報が表示されます。[サブシステム一覧] グループボックスから該当するDPMのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [収集] をクリックします。
5. 収集したマシンの確認を行います。タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替え、[マシン] アイコンをクリックします。
6. [設定] メニューから [マシン登録] をクリックし、[管理外のマシン一覧] グループボックスを確認します。DPM に登録したマシンの情報が正しく反映されていることを確認します。

---

**注:** 追加登録されたマシンは、この時点では SystemProvisioning の管理対象となっていないため、[管理外のマシン一覧] グループボックスに表示されます。

---

7. SystemProvisioning のサブシステムとして登録されている仮想環境管理ソフトウェアに仮想マシンサーバを登録します。
8. マシンを登録した仮想環境管理ソフトウェアに対して、SystemProvisioning からマシン情報の収集を行います。タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
9. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
10. メインウィンドウにサブシステムの詳細情報が表示されます。[サブシステム一覧] グループボックスから該当する仮想環境管理ソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [収集] をクリックします。
11. 収集したマシンの確認を行います。タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替え、[マシン] アイコンをクリックします。
12. [設定] メニューから [マシン登録] をクリックし、[管理外のマシン一覧] グループボックスを確認します。仮想環境管理ソフトウェアに登録したマシンの情報が正しく反映されていることを確認します。

**注:** 追加登録されたマシンは、この時点では SystemProvisioning の管理対象となっていないため、[管理外のマシン一覧] グループボックスに表示されません。

---

以上で仮想マシンサーバの追加登録は完了です。

### 6.2.3. 仮想マシンを追加登録するには

仮想マシンを管理対象マシンとして追加登録します。以下の手順に従って登録してください。

1. SystemProvisioning のサブシステムとして登録されている仮想環境管理ソフトウェアに、仮想マシンを登録します。
2. マシンを登録した仮想環境管理ソフトウェアに対して、SystemProvisioning からマシン情報の収集を行います。タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
3. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
4. メインウィンドウにサブシステムの詳細情報が表示されます。[サブシステム一覧] グループボックスから該当する仮想環境管理ソフトウェアのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [収集] をクリックします。
5. 収集したマシンの確認を行います。タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替え、[マシン] アイコンをクリックします。
6. [設定] メニューから [マシン登録] をクリックし、[管理外のマシン一覧] グループボックスを確認します。仮想環境管理ソフトウェアに登録したマシンの情報が正しく反映されていることを確認します。

---

注：追加登録されたマシンは、この時点では SystemProvisioning の管理対象となっていないため、[管理外のマシン一覧] グループボックスに表示されます。

---

7. 仮想マシンに対して、アプリケーション、パッチなどのインストールを行う場合には、仮想マシンを DPM に登録する必要があります。SystemProvisioning のサブシステムとして登録されている DPM にマシンを登録してください。

---

注：DPM の Web コンソールの「コンピュータの追加」ウィンドウで UUID が登録されていることを確認してください。登録されていない場合には手動で入力してください。

---

8. マシンを登録した DPM に対して SystemProvisioning からマシン情報の収集を行います。タイトルバーの [管理] をクリックし、[管理] ビューに切り替えます。
9. [管理] ツリーから [サブシステム] アイコンをクリックします。
10. メインウィンドウにサブシステムの詳細情報が表示されます。[サブシステム一覧] グループボックスから該当する DPM のチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [収集] をクリックします。
11. 収集したマシンの確認を行います。タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替え、[マシン] アイコンをクリックします。
12. [設定] メニューから [マシン登録] をクリックし、[管理外のマシン一覧] グループボックスを確認します。DPM に登録したマシンの情報が正しく反映されていることを確認します。

---

**注:** 追加登録されたマシンは、この時点では SystemProvisioning の管理対象となっていないため、[管理外のマシン一覧] グループボックスに表示されません。

---

以上で仮想マシンの追加登録は完了です。

#### 6.2.4. SIGMABLADE controller を使用する場合

追加登録する管理対象マシンを SIGMABLADE controller を使用して管理している場合の注意事項を説明します。

- ◆ 環境設定で定期情報収集機能を有効に設定している場合、SystemProvisioning は、定期的にサブシステムに対してマシン情報などの収集を行います。SIGMABLADE マシンがブレード収納ユニットに設置されると、定期情報収集を契機に自動的に SystemProvisioning で認識され、管理外のマシンとして登録されます。定期情報収集機能が無効に設定している場合は、SIGMABLADE controller を指定し、明示的に収集を行う必要があります。
- ◆ SIGMABLADE マシンを DPM で管理する場合、DPM にマシンを追加する際に、DPM の Web コンソールの「コンピュータの追加」ウィンドウで、マシンの MAC アドレスに、SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC の MAC アドレスが設定されるようにしてください。設定されていない状態で、DPM よりマシン情報が収集されると、別マシンとして SystemProvisioning に登録される場合があります。

---

**注:** SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC の MAC アドレスの確認手順については、「6.2.5 SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC について」を参照してください。

---

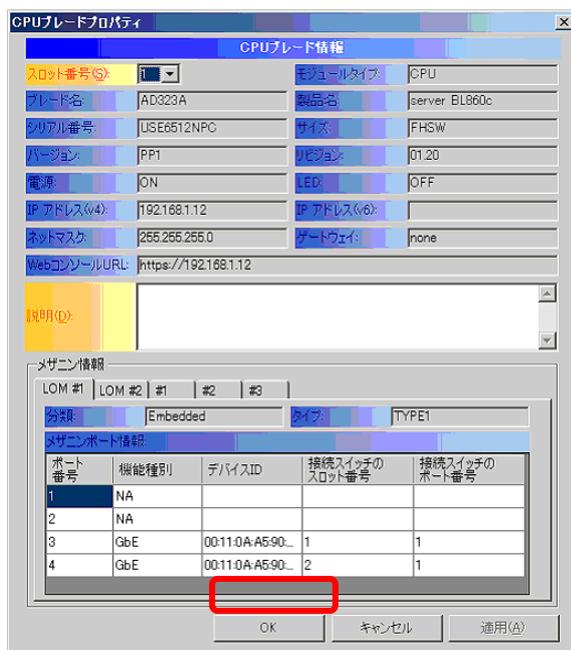
- ◆ SIGMABLADE マシンを仮想マシンサーバとして使用する場合、SIGMABLADE マシンは仮想環境管理ソフトウェアと SIGMABLADE controller の両方で管理されることとなります。この場合、両者の間にはマシンを認識するための共通の情報が存在しません。同一マシンが誤って別マシンとして SystemProvisioning に登録されないように、DPM を利用して SystemProvisioning が管理するマシン情報に UUID 情報を設定する事が必須となります。上記の DPM 登録の際の注意事項を踏まえたうえで、「6.2.2 仮想マシンサーバを追加登録するには」に従ってマシンを登録してください。マシンの UUID 情報を設定していない状態で、SIGMABLADE controller が登録したマシンに対し、仮想環境管理ソフトウェアよりマシン情報が収集されると、別マシンとして SystemProvisioning に登録される場合があります。

## 6.2.5. SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC について

SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC の MAC アドレスを確認します。MAC アドレスの確認には、SIGMABLADE controller コンソールを利用します。以下の手順に従って確認してください。

**関連情報:** SIGMABLADE controller コンソールの使用方法については、「SIGMABLADE controller ユーザーズガイド コンソール操作編」を参照してください。

1. SIGMABLADE controller コンソールを起動します。
2. サーバロケータへ接続 (ログイン) します。
3. Enclosure ツリーで Enclosure ノードを選択します。
4. 「モジュール管理画面」が表示されます。[ビュー] タブを選択します。
5. フロントビューで対象の CPU ブレードを選択し、ポップアップメニューから [プロパティ (P)] をクリックします。
6. 「CPU ブレードプロパティ」が表示されます。



7. 「メザニン情報の」の [LOM#1] タブを選択します。
8. 表示されているデバイス ID の中で最もポート番号の小さいデバイス ID が、SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC の MAC アドレスとして、SystemProvisioning から認識される MAC アドレスです。

以上で SIGMABLADE controller が認識している管理用 NIC の MAC アドレスの確認は完了です。

## 6.3. マシンへ追加 AP の配布・パッチを適用する

マシンへ追加のアプリケーションを配布、パッチを適用するために DPM のイメージビルダーでパッケージを登録し、シナリオファイルを作成します。以下の手順に沿って登録してください。

---

**関連情報:** DPM (HP-UX 版) 上でのイメージ作成、シナリオ作成の詳細は、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド機能編」の「3.5 パッチイメージの作成、適用と削除」、「3.6 ソフトウェアイメージの作成、適用と削除」を参照してください。

---

### 6.3.1. マシンへ追加 AP の配布をするには

マシンへ追加のアプリケーションを配布するには、DPM のイメージビルダーでアプリケーションのパッケージを登録し、アプリケーション配布用のシナリオファイルを作成します。

---

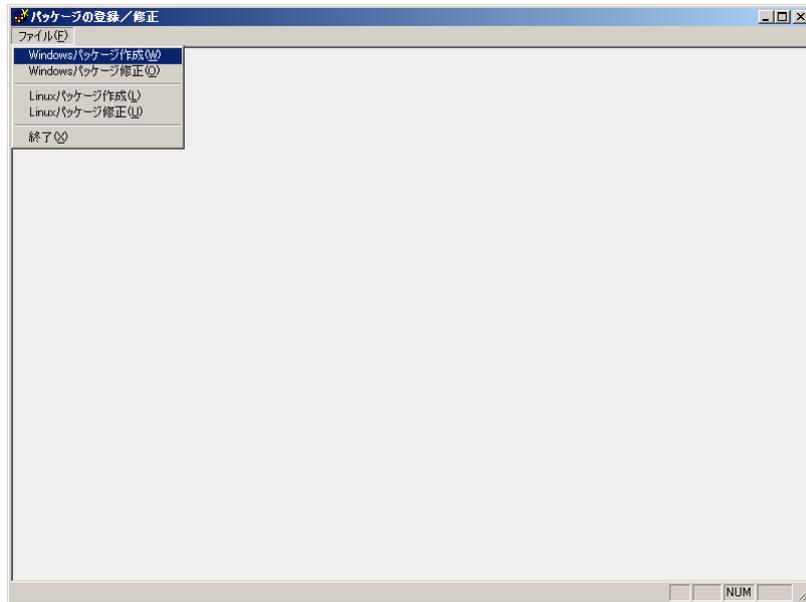
**関連情報:**

- ・ アプリケーションの登録については、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本動作編」の「3.2 サービスパック/HotFix/Linux パッチファイル、アプリケーションの登録」を参照してください。
  - ・ シナリオの作成については、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本動作編」の「3.3.2 アプリケーションインストールのシナリオファイル作成」を参照してください。
- 

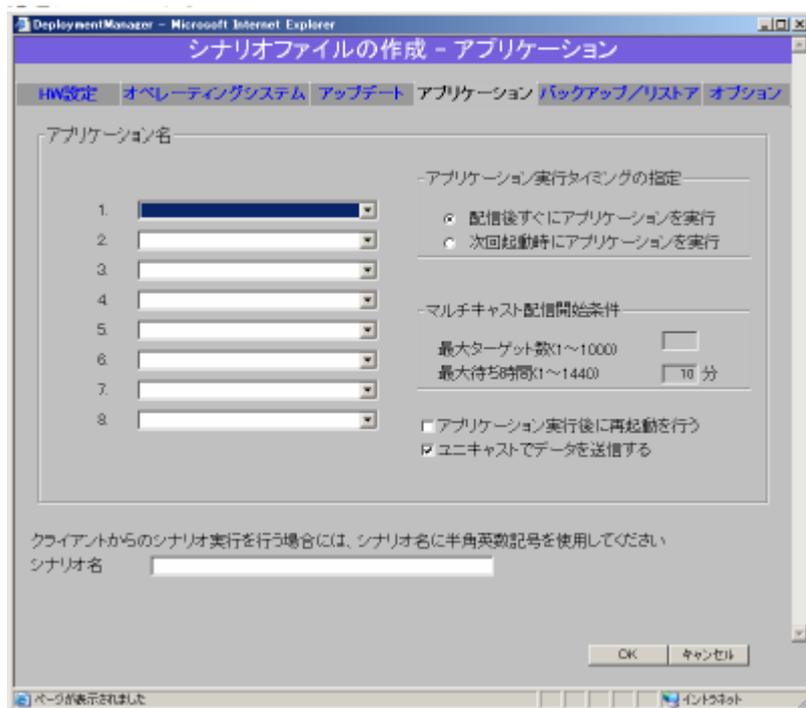
1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [DeploymentManager] - [イメージビルダー] を選択し、イメージビルダーを起動します。
2. 「イメージビルダー」画面の [パッケージの登録 / 修正] をクリックします。



3. 「パッケージの登録 / 修正」画面が表示されます。[ファイル] - パッケージを使用する OS の [パッケージ作成] をクリックし、パッケージを作成します。



4. DPM の Web コンソールを起動します。
5. DPM の Web コンソールの [シナリオ] メニューから [シナリオファイルの作成] をクリックします。
6. [アプリケーション] タブを選択し、[アプリケーション名] グループボックス内のプルダウンボックスから登録したアプリケーションを選択し、各項目を選択 / 入力します。



7. シナリオ実行時のシナリオ実行条件を設定する場合は、[オプション] タブを選択します。シナリオ実行後にマシンの電源をオフにする場合は、[実行後に電源を切断する] チェックボックスをオンにします。
8. [シナリオ名] テキストボックスにシナリオ名を入力し、[OK] をクリックします。

以上でマシンへ追加 AP の配布は完了です。

### 6.3.2. マシンへパッチを適用するには

マシンへパッチの適用を行う場合、DPM のイメージビルダーでパッチのサービスパックを登録し、パッチ適用のシナリオファイルを作成します。

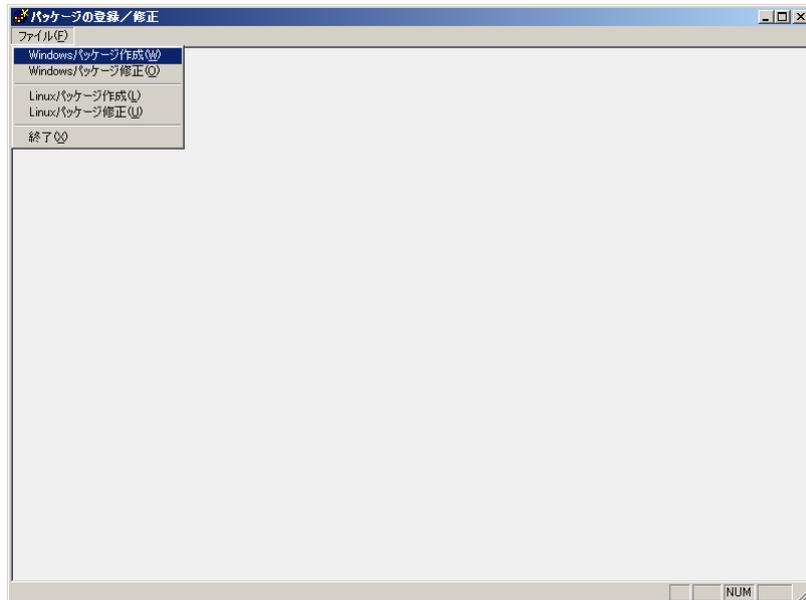
#### 関連情報:

- ・ パッチファイルの登録については、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本動作編」の「3.2 サービスパック/HotFix/Linux パッチファイル、アプリケーションの登録」を参照してください。
- ・ シナリオの作成については、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本動作編」の「3.3.1 サービスパック/HotFix/Linux パッチファイル適用のシナリオファイル作成」を参照してください。

1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [DeploymentManager] - [イメージビルダー] を選択し、イメージビルダーを起動します。
2. 「イメージビルダー」画面の [パッケージの登録 / 修正] をクリックします。



- 「パッケージの登録 / 修正」画面が表示されます。[ファイル] - パッケージを使用する OS の [パッケージ作成] をクリックし、パッケージを作成します。



- DPM の Web コンソールを起動します。
- DPM の Web コンソールの [シナリオ] メニューから [シナリオファイルの作成] をクリックします。
- [アップデート] タブを選択し、[サービスパック/HotFix] グループボックス内のプルダウンボックスから登録したパッチファイルを選択し、各項目を入力します。



7. シナリオ実行時のシナリオ実行条件を設定する場合は、[オプション] タブを選択します。シナリオ実行後にマシンの電源をオフにする場合は、[実行後に電源を切断する] チェックボックスをオンにします。
8. [シナリオ名] テキストボックスにシナリオ名を入力し、[OK] をクリックします。

以上でパッチの適用は完了です。

## 6.4. ログの採取

SigmaSystemCenter で障害が発生した場合、コンポーネントのログを採取し、原因を調べます。

---

**関連情報:** SystemProvisioning、DPM のログ一覧については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」で原因を特定し、対処方法を参照してください。

---

### 6.4.1. SystemProvisioning のログを採取するには

SystemProvisioning の運用状況を記録します。監視ビューの運用ログで過去のログを参照することができます。以下の手順に従ってログを採取してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [イベントビューア] を選択し、イベントビューアを起動します。
2. 「イベントビューア」画面が表示されます。[アプリケーション] をクリックし、イベントログを採取します。
3. 次のフォルダに記録されているログファイルを採取します。  
SystemProvisioning インストールフォルダ¥log  
SystemProvisioning インストールフォルダ¥Provisioning¥Logs

---

**注:** 既定値は (C:¥program files¥NEC¥PVM¥log) および (C:¥program files¥NEC¥PVM¥ Provisioning¥Logs) です。

---

4. 「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」で原因を特定し、対処方法を参照します。

---

**注:** 上記ログファイルにて障害の原因が調査できない場合、構成情報データベースを調査する必要があります。構成情報データベース方法については、「7.2.1 構成情報データベースをバックアップするには」を参照してください。

---

以上で SystemProvisioning のログ採取は完了です。

## 6.4.2. SystemMonitor 性能監視のログを採取するには

SystemMonitor 性能監視では、「SystemMonitor 性能監視」というログ名で、エラーや運用のイベント情報を管理サーバのイベントログに記録しており、エラー情報はアプリケーションログまたはシステムログに記録されます。

性能監視サービスの開始に失敗した場合などのエラー情報についても、アプリケーションログまたはシステムログに記録される場合があります。

SystemMonitor 性能監視で問題が発生した場合は、イベントビューアのアプリケーションログ、システムログ、SystemMonitor 性能監視ログをテキスト形式で採取し、原因を調べます。以下の手順に従ってログを採取してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [イベントビューア] を選択し、イベントビューアを起動します。
2. 「イベントビューア」画面が表示されます。[SystemMonitor 性能監視] をクリックし、イベントログ、アプリケーションログ、システムログを採取します。
3. SystemMonitor 性能監視インストールフォルダ¥log に記録されている詳細ログを採取します。

---

**注:** 既定値は (C:¥Program Files¥NEC¥SystemMonitorPerformance¥log) です。

---

4. 「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」で原因を特定し、対処方法を参照します。

---

**関連情報:** SystemMonitor 性能監視のイベントログについては、「SystemMonitor 性能監視ユーザーズガイド」の「8.1 イベントログ」に参照してください。

---

以上で SystemMonitor 性能監視のログ採取は完了です。

### 6.4.3. DPM のログを採取する

DPM のログを採取します。以下の手順に従ってログを採取してください。

ログ採取対象は、管理サーバおよび管理対象マシンです。

#### ◆ Windows (IA32 / EM64T) の場合

1. 管理サーバとエラーが発生しているマシンに Administrator 権限を持つユーザでログインし、SigmaSystemCenter の製品 CD-R 内の以下のフォルダを、任意の場所にコピーします。(以下では C:¥Dpmllog にコピーする例を記載します)

(SigmaSystemCenter の製品 CD-R):¥DPM¥TOOLS¥DpmLog

2. コマンドプロンプトを起動します。  
[スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックし、コマンドプロンプトを起動します。
3. ログファイルの保存場所を指定します。以下のコマンドを入力してください。

```
cd /d C:¥Dpmllog
```

4. オプション「-A」を付けて、DpmLog.exe を実行します。

```
DpmLog.exe -A
```

#### ◆ Windows (IPF) の場合

DpmLog.exe は、IPF は未サポートとなります。手動で以下の情報を採取してください。

- イベントログ（イベントログ形式(.evt)で採取してください）  
アプリケーション  
システム
- ファイル（存在しない場合は採取の必要はありません）  
%SystemRoot%¥Inst\_Dpm\_Client.log  
%SystemRoot%¥system32  
%SystemRoot%¥system32¥DepAgent.log  
%SystemRoot%¥system32¥DepAgent.log.bak  
%SystemRoot%¥system32¥rupdsvc.log  
%SystemRoot%¥system32¥rupdsvc.log.bak  
%SystemRoot%¥system32¥DPMTray.log  
%SystemRoot%¥DeploymentManager  
%SystemDrive%¥Sysprep  
(%SystemRoot%、%SystemDrive%は環境変数です)
- レジストリ（レジストリエディタよりエクスポートして採取してください。存在しない場合は採取の必要はありません）  
- HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft 配下

## Updates

Windows NT¥CurrentVersion¥Hotfix

Windows¥CurrentVersion¥Uninstall

Windows¥CurrentVersion¥Component Based Servicing¥Packages (Windows Server 2008 のみ)

- HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet 配下  
Services  
Control

- 以下のコマンドの実行結果

[スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックし、コマンドプロンプトを起動します。

```
ipconfig /all
```

```
route -p print
```

```
net use
```

```
net share
```

```
net config WORKSTATION
```

```
net config server
```

```
netstat -a -o -n
```

- システム情報

[スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックし、コマンドプロンプトを起動します。

以下のコマンドを実行し、作成された msdrpt.txt を採取します。

- Windows Server 2003 の場合

```
%CommonProgramFiles%¥Microsoft Shared¥MSInfo¥msinfo32.exe /report  
msdrpt.txt
```

(%CommonProgramFiles% は環境変数です)

- Windows Server 2008 の場合

```
%windir%¥system32¥msinfo32.exe /report msdrpt.txt
```

(%windir% は環境変数です)

◆ Linux の場合

1. cp コマンドの -p オプションなどを使用し、タイムスタンプが変更されないようにログファイルを採取します。以下のファイルを採取してください。

- ・ システム設定ファイル

- /etc/hosts
  - /etc/resolv.conf
  - /etc/sysconfig/network
  - /etc/sysconfig/clock
  - /etc/sysconfig/iptables
  - /etc/sysconfig/ipchains
  - /etc/rc.d/rc
  - /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-\* ファイル

- ・ クライアントサービス for DPM 関連ファイル

- /opt/dpmclient/ フォルダ配下の全ファイル

2. 以下のコマンドを実行し、結果を採取します。

```
ifconfig -a
netstat -a | grep 560
route
ps -axm | grep depagtd
iptables -L
```

---

**注:** ファイルを送付する際は、zip や gzip などのコマンドを用いて Linux 上でファイルを圧縮し、送付してください。

---

以上で DPM のログ採取は完了です。

#### 6.4.4. DPM (HP-UX 版) のログを採取するには

DPM (HP-UX 版) には、オペレーションエラーログ、エラーログがあります。障害が発生した場合、各ログを採取し、原因を調べます。以下の手順に従ってログを採取してください。

---

**関連情報:** DPM (HP-UX 版) のログについては、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド機能編」の「6. トラブルシューティング」を参照してください。

---

1. 管理サーバ for DPM (HP-UX) インストールフォルダ¥dpm¥0001¥log に記憶されているオペレーションエラーログ、エラーログファイルを採取します。

---

**注:** 管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールフォルダの既定値は (C:¥Program Files¥dpm\_hpux) です。

---

以上で DPM (HP-UX 版) のログ採取は完了です。

## 6.5. ハードウェアを交換する

SystemProvisioning は、マシンの NIC についている MAC アドレスでマシンを管理していません。マシンの交換や NIC 交換を行った場合、新しい MAC アドレスを新しいマシンとして認識させる必要があります。

ハードウェアを交換する際に、マシンの起動や停止を行う場合は、必ずメンテナンスモードに移行してください。メンテナンスモードに移行せずに電源操作を行った場合、故障とみなされ、自動的にあらかじめ設定された復旧作業を実行することがあります。

### 6.5.1. プライマリ NIC 以外の NIC を交換するには

プライマリ NIC 以外の NIC を交換する場合、マシンの状態により手順が異なります。以下のマシンの状態に応じて交換してください。

- ◆ グループで稼動しているマシンの場合
  1. メンテナンスモードオン  
Web コンソールから NIC を交換するマシンのメンテナンスモードをオンにします。
  2. マシンをシャットダウン  
Web コンソールからマシンをシャットダウンします。
  3. NIC を交換
  4. マシンを起動  
Web コンソールからマシンを起動します。
  5. ESMPRO/ServerManager で情報を再取得  
ESMPRO/ServerManager のマップからマシンを削除し、再登録（自動発見）を行います。
  6. Web コンソールの [操作] メニューで [画面更新] を行います。
  7. NIC の情報を設定  
Web コンソールから「マシンプロパティ設定」ウィンドウを開き、交換した NIC の情報を設定します。
  8. メンテナンスモードオフ  
Web コンソールからマシンのメンテナンスモードをオフにします。

- ◆ 一度も稼動したことの無いマシン (Primary NIC 以外の表示なし) の場合  
事前に作業、操作をする必要はありません。自由に NIC を交換することが可能です。
  
- ◆ 稼動したことがあるが現在は稼動していないマシン (Primary NIC 以外の表示あり) の場合
  1. マシンをシャットダウン  
Web コンソールからマシンをシャットダウンします。
  2. NIC を交換
  3. マシンを起動  
Web コンソールからマシンを起動します。
  4. NIC の情報を設定  
Web コンソールから「マシンプロパティ設定」ウィンドウを開き、交換した NIC の情報を設定します。
  5. Web コンソールの [操作] メニューで [画面更新] を行います。

以上でプライマリ NIC 以外の NIC を交換は完了です。

## 6.5.2. プライマリ NIC を交換するには

プライマリ NIC を交換します。以下の手順に従って交換してください。

---

**注:** 管理サーバ for DPM を操作するには更新権が必要です。SystemProvisioning で管理サーバ for DPM を操作する場合、下記の 3 つのツールから更新権を取得できますが、一度に更新権を取得できるのは 1 つのみです。ある操作が更新権を取得している間、他の操作は更新を行うことができません。

- SystemProvisioning Web コンソール
- DPM の Web コンソール
- コマンドライン for DPM

DPM での操作が完了した場合は、その後の SigmaSystemCenter の操作や動作のために、必ず更新権を解除してください。

---

1. 交換するマシンをグループから割り当て解除  
NIC 交換前のマシンがグループに登録されているマシンの場合、Web コンソールから該当マシンをグループから割り当て解除にします。
2. 交換するマシンを管理外に変更  
Web コンソールの [リソース] ビューの [アクション] メニューから交換するマシンを管理外にします。
3. DPM で NIC の更新  
NIC を交換し、マシンを再起動します。DPM の Web コンソールに表示されている該当マシンの NIC が更新されます。
4. マシンを SystemProvisioning に登録  
Web コンソールで [収集] を行い、DPM で登録したマシンを登録します (管理外で登録されます)。
5. 交換前の状態へ復旧  
NIC 交換前に該当するマシンがグループで稼動していた場合、マスタマシンの登録 (ソフトウェアを配布せずにグループで稼動する) 方法でグループに追加します。  
プールマシンとして設定されていた場合、プールマシンとして再設定します。

以上でプライマリ NIC の交換は完了です。

### 6.5.3. マシンを交換するには

マシンを交換します。以下の手順に従って交換してください。

---

**注:** 管理サーバ for DPM を操作するには更新権が必要です。SystemProvisioning で管理サーバ for DPM を操作する場合、下記の 3 つのツールから更新権を取得できますが、一度に更新権を取得できるのは 1 つのみです。ある操作が更新権を取得している間、他の操作は更新を行うことができません。

- ・ SystemProvisioning Web コンソール
- ・ DPM の Web コンソール
- ・ コマンドライン for DPM

DPM での操作が完了した場合は、その後の SigmaSystemCenter の操作や動作のために、必ず更新権を解除してください。

---

1. DPM でマシンを登録  
DPM で新規マシンを登録します。
2. 障害マシンと置換  
登録したマシンが Web コンソールで新規マシンとして認識された後、プールマシンとして設定します。  
次に、障害マシンと置き換えます。
3. 障害マシンを運用グループから削除  
Web コンソールの運用グループから割り当て解除にします。
4. 障害マシンを DPM から削除  
DPM のメインウィンドウのツリービューから障害マシンを選択します。  
[コンピュータ] メニューから [コンピュータの削除] を選択し、確認画面を表示させます。  
マシンを削除する場合は、[OK] をクリックします。
5. 障害マシンを管理外に変更  
Web コンソールの [リソース] ビューの [アクション] メニューから障害マシンを管理外にします。

以上でマシンの交換は完了です。

#### 6.5.4. ディスクを交換するには

ディスク交換の場合、マシンは同一マシンとして管理されています。ディスクを交換するには、以下の手順に従って交換してください。

---

**注:** HP-UX マシンのディスク交換時にハードウェアパスが変更される場合は、DPM (HP-UX 版) のコンピュータ情報のブートパスを変更する必要があります。

詳細は「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「4.5 構成変更時のリソースファイルの変更手順」を参照してください。

---

1. メンテナンスモードオン  
Web コンソールから交換するディスクを使用しているマシンのメンテナンスモードをオンにします。
2. 交換するマシンのシャットダウン  
Web コンソールからディスクを交換するマシンをシャットダウンします。
3. ディスク交換
4. マシンを起動  
Web コンソールからマシンを起動します。
5. メンテナンスモードオフ  
マシンの起動後に Web コンソールからメンテナンスモードをオフにします。
6. ソフトウェアの再配布  
Web コンソールの運用リソースからソフトウェアの再配布を実行します。
7. ハードウェア状態をリセット  
ソフトウェアの再配布完了後、マシンが正常状態に戻ったことを確認します。

以上でディスクの交換は完了です。

## 6.5.5. HBA を交換するには

各ストレージ機器と接続された HBA の交換を行います。以下の手順に従って HBA を交換してください。

◆ iStorage と接続された HBA の交換

---

**注:** 交換前の WWN と交換後の WWN を忘れないように注意してください。

---

1. メンテナンスモードオン  
Web コンソールから交換する HBA を使用しているマシンのメンテナンスモードをオンにします。
2. 交換するマシンをシャットダウン  
Web コンソールから交換するマシンをシャットダウンします。
3. HBA を交換
4. iStorageManager の設定  
iStorageManager クライアントで、変更したい HBA とつながっている iStorage 筐体を選択し、構成設定を行います。  
[個別設定 / 参照] でアクセスコントロール (WWN) 設定を選択します。  
交換前の WWN をもつ LD セットを選択して [パス情報とのリンク] を選択します。  
交換前の WWN を交換後の WWN で置換します。  
[OK] をクリックし、設定を確定します。
5. ストレージ情報を更新  
Web コンソールの [リソース] ビューの [操作] メニューから [収集] を選択します。
6. HBA 情報を更新  
Web コンソールの [リソース] ビューのマシンプロパティの [ストレージ] タブから交換前の HBA を削除し、交換後の HBA を追加します。
7. マシンを起動  
Web コンソールでマシンを起動します。
8. メンテナンスモードオフ  
マシンの起動後に Web コンソールからメンテナンスモードをオフにします。

◆ Symmetrix または CLARiX と接続された HBA の交換

---

**注:** 交換前の WWPN / WWNN と交換後の WWPN / WWNN を忘れないように注意してください。

---

1. メンテナンスモードオン  
Web コンソールから交換する HBA を使用しているマシンのメンテナンスモードをオンにします。
2. 交換マシンをシャットダウン  
Web コンソールから交換するマシンをシャットダウンします。
3. ディスクボリュームの接続解除  
交換元 HBA と接続されているディスクボリュームの接続を解除します。
4. 交換するマシンの HBA を交換
5. ディスクボリュームの接続  
交換元 HBA と接続されていたディスクボリュームを再度接続します。手順 3 で接続されていた状態と同じように設定してください。
6. ストレージ情報を更新  
Web コンソールの [リソース] ビューの [操作] メニューから [収集] を選択します。
7. HBA 情報を更新  
Web コンソールの [リソース] ビューのマシンプロパティ設定の [ストレージ] タブから交換前の HBA を削除し、交換後の HBA を追加します。
8. マシンを起動  
Web コンソールからマシンを起動します。
9. メンテナンスモードオフ  
マシンの起動後に Web コンソールからメンテナンスモードをオフにします。

以上で HBA の交換は完了です。

## 6.5.6. スイッチブレードを追加するには

スイッチブレードを追加します。以下の手順に従って追加してください。

1. スイッチブレードを挿入
2. SystemProvisioning にスイッチブレードを登録  
Web コンソールでサブシステムとして、スイッチブレードを登録します。サブシステム登録後、リソースにスイッチブレードが表示されますので、管理対象に変更します。必要であればスイッチブレード VLAN を作成します。
3. スイッチブレードを関連付け  
マシンにスイッチブレードを関連付けます。  
グループで稼動しているマシンに設定する場合、Web コンソールからメンテナンスモードをオンにする必要があります。  
稼動しているマシンにスイッチブレードを関連付けても、設定時には VLAN 設定は行われません。  
稼動していないマシンで設定する場合、マシンを稼動するときに NIC とポートの関連付けが自動的に行われます。
4. VLAN グループへの登録  
VLAN 制御を行う場合、グループにスイッチブレード上の VLAN を設定します。グループで稼動しているマシンは、新規スイッチブレード上の VLAN 登録時に、VLAN 制御ができません。  
既に運用を開始したグループで新規スイッチブレード上の VLAN 制御を行う場合、グループで稼動しているマシンをすべてグループから削除してから、マスタマシンの登録 (ソフトウェアを配布せずにグループで稼動する) 方法でグループに追加します。

以上でスイッチブレードの追加は完了です。

### 6.5.7. スイッチブレードを交換するには

スイッチブレードを交換します。以下の手順に従って交換してください。

1. メンテナンスモードオン  
同一筐体内にグループで稼動しているマシンがある場合、Webコンソールから稼動しているマシンのメンテナンスモードをオンにします。稼動していないマシンに対しては、この操作は不要です。
2. スイッチブレードを交換  
スイッチブレードを抜きます。  
交換前のスイッチブレードの CF (コンパクトフラッシュ) カードを交換後のスイッチブレードに挿入します。  
新しいスイッチブレードを挿入します。  
CF カードの交換ができなかった場合、シリアル接続などにより、交換前のスイッチブレードと同じ設定状態にします。
3. メンテナンスモードオフ  
Web コンソールから [収集] を行い、SystemProvisioning のデータベースが更新されます。  
このタイミングで、現状の正しいデータベースが認識されます。  
手順 1 でメンテナンスモードをオンにしたマシンがある場合、Webコンソールからメンテナンスモードをオフにします。

以上でスイッチブレードの交換は完了です。

## 6.5.8. スイッチブレードを削除するには

スイッチブレードを削除します。以下の手順に従って削除してください。

---

**注:** CPU ブレードへの接続がなくなるため、完全に削除する運用はありません。

また、SystemProvisioning が管理するネットワークに接続する、プライマリ NIC に接続されているスイッチブレードの削除は行わないでください。

---

1. サブシステムの削除  
Web コンソールから、サブシステムとして登録されているスイッチブレードを削除します。
2. スイッチブレードを抜く

以上でスイッチブレードの削除は完了です。

## 6.5.9. NetvisorPro スイッチを追加するには

NetvisorPro スイッチを追加するには、NetvisorPro での VLAN 設定が必要です。

以下の手順に従って追加してください。

1. SystemProvisioning に NetvisorPro を登録  
Web コンソールでサブシステムとして、NetvisorPro を登録します。すでに登録されている場合は必要ありません。サブシステム登録後、リソースに NetvisorPro が管理するスイッチが表示されますので、管理対象に変更します。必要ならスイッチ VLAN を作成します。
2. スイッチを関連付け  
マシンにスイッチを関連付けます。  
グループで稼動しているマシンに設定する場合、Web コンソールからメンテナンスモードをオンにする必要があります。稼動しているマシンにスイッチを関連付けても、設定時には、VLAN 制御は行われません。  
稼動していないマシンで設定する場合、NIC とポートの関連付けを行います。
3. グループへの登録  
VLAN 制御を行う場合、グループにスイッチ上の VLAN を設定します。グループ内で稼動しているマシンは、新規スイッチ上の VLAN 登録時に、VLAN 制御させることができません。  
既に運用を開始したグループで新規スイッチブレード上の VLAN 制御を行う場合、グループで稼動しているマシンをすべてグループから削除してから、マスタマシンに登録します。

以上で NetvisorPro スイッチの追加は完了です。

## 6.5.10. NetvisorPro スイッチを交換する

NetvisorPro スイッチを交換するには、スイッチに接続されているマシンがグループで稼働しているマシンがある場合とない場合で交換の条件が異なります。以下にそれぞれについて説明します。

- ◆ マシンが稼働している場合の交換  
シリアル接続、NetvisorPro の管理画面で、交換前のスイッチと同じ設定状態にします。SigmaSystemCenter での設定変更はありません。
  - 同一機種種のスイッチ交換のみ可能です。
  - スロット交換の場合、同一スロットの交換のみ可能です。
  - 稼働しているマシンがある場合、交換処理中はメンテナンスモードをオンに移行することを推奨します。
  
- ◆ マシンが稼働していない場合の交換  
稼働しているマシンがある場合の交換と同様に、交換前のスイッチと同じ設定状態にすることで SigmaSystemCenter での設定変更はありません。別のスイッチとして登録する場合、スイッチを新規に管理対象とし、Web コンソールの [リソース] ビューのマシンプロパティ設定の [ネットワーク] タブで、NIC とスイッチポートとの関連付けを設定します。

以上で NetvisorPro スイッチの交換は完了です。

## 6.5.11. NetvisorPro スイッチを削除するには

NetvisorPro スイッチを削除します。以下の手順に従って削除してください。

1. メンテナンスモードオン  
スイッチに接続されているマシンがグループで稼働している場合、Web コンソールからメンテナンスモードをオンにします。
2. スイッチを削除  
Web コンソールのマシンプロパティ設定からスイッチの関連付けを削除します。
3. スイッチを管理外に変更  
Web コンソールのリソースの [アクション] メニューからスイッチを管理外にします。
4. メンテナンスモードオフ  
手順 1 でメンテナンスモードをオンにしたマシンがある場合、Web コンソールからメンテナンスモードをオフにします。

以上で NetvisorPro スイッチの削除は完了です。

## 6.5.12. ESX Server のディスクを交換するには

ESX Server のディスクを交換する場合、以下の方法があります。

- ◆ ESX Server をバックアップする場合
- ◆ 仮想マシンを別の ESX Server へ移動する場合

それぞれの方法でディスクを交換するには、以下の手順に従ってください。

---

**注:** ESX Server の運用停止を行う場合、必ず事前に該当 ESX Server 上で仮想マシンが稼動していないことを確認し、その後に操作を行ってください。ESX Server 上で仮想マシンが稼動している場合、仮想マシンが停止状態となるため、操作後は仮想マシンの運用が行えなくなります。

---

- ◆ ESX Server をバックアップする場合  
ESX Server をバックアップしてディスクを交換するには、以下の手順に従ってください。

---

**関連情報:** VirtualCenter の操作の詳細については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. メンテナンスモードオン  
Web コンソールから対象 ESX Server 上の仮想マシンのメンテナンスモードをオンにします。
2. ESX Server 上の仮想マシンをシャットダウン  
Web コンソールから対象 ESX Server 上の仮想マシンをシャットダウンします。
3. VirtualCenter から対象の ESX Server の接続を削除  
VirtualCenter から対象の ESX Server の接続削除については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。
4. ESX Server をバックアップ  
ESX Server のバックアップ方法については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。
5. ESX Server をシャットダウン  
Web コンソールから ESX Server をシャットダウンします。
6. ESX Server のディスクを交換  
ESX Server のシャットダウン後、ディスクの交換を行います。
7. ESX Server をインストール  
ESX Server のインストールについては、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。  
ESX Server のネットワーク設定およびパスワードは既存の ESX Server と同じ設定を行ってください。
8. ESX Server をリストア

ESX Server のリストア方法については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

9. VirtualCenter で ESX Server を接続
10. メンテナンスモードオフ  
Web コンソールからメンテナンスモードをオフにします。
11. 登録された情報を更新  
Web コンソールで [収集] を実施して、登録された情報の更新を行います。

- ◆ 仮想マシンを別の ESX Server へ移動させる場合  
仮想マシンを別の ESX Server へ移動させてディスクを交換するには、以下の手順に従ってください。

---

**注:** ディスク交換作業前に移動元の ESX Server と移動先の ESX Server が同一の DataCenter に登録されていることを確認してください。

---

---

**関連情報:** VirtualCenter の操作の詳細については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. メンテナンスモードオン  
Web コンソールから対象 ESX Server 上の仮想マシンのメンテナンスモードをオンにします。
2. 仮想マシンを別の ESX Server へ移動  
Web コンソールで、同一 DataCenter 上に登録されている別の ESX Server へ仮想マシンの移動を行います。
3. ESX Server をシャットダウン  
Web コンソールから ESX Server をシャットダウンします。
4. ESX Server のディスクを交換  
ESX Server のシャットダウン後、ディスクの交換を行います。
5. ESX Server をインストール  
ESX Server のインストールについては、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。  
ESX Server のネットワーク設定およびパスワードは既存の ESX Server と同じ設定を行ってください。
6. VirtualCenter で ESX Server を接続  
VirtualCenter から ESX Server に正しく接続されていることを確認してください。
7. 仮想マシンをディスク交換後の ESX Server に移動  
Web コンソールでディスク交換を行った ESX Server に仮想マシンの移動を行います。

8. メンテナンスモードオフ  
Web コンソールからメンテナンスモードをオフします。
9. 登録された情報を更新  
Web コンソールで [収集] を実施して、登録された情報の更新を行います。

以上で ESX Server のディスク交換は完了です。

### 6.5.13. ESX Server のハードディスク以外のデバイスを交換するには

ESX Server のハードディスク以外のデバイスを交換します。以下の手順に従って交換してください。

---

**関連情報:** VirtualCenter の操作の詳細については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. メンテナンスモードオン  
Web コンソールから対象 ESX Server 上の仮想マシンのメンテナンスモードをオンにします。
2. ESX Server をシャットダウン  
Web コンソールから ESX Server をシャットダウンします。
3. ESX Server のデバイスを交換  
ESX Server のシャットダウン後、デバイスの交換を行います。  
ESX Server のデバイスの交換方法については、VMware 社発行の各製品マニュアルを参照してください。
4. VirtualCenter で ESX Server を接続  
VirtualCenter から ESX Server に正しく接続されていることを確認してください。
5. メンテナンスモードオフ  
Web コンソールからメンテナンスモードをオフにします。
6. 登録された情報を更新  
Web コンソールから [収集] を行い、登録された情報の更新を行います。

以上で ESX Server のハードディスク以外のデバイス交換は完了です。

## 6.5.14. Xen Server のディスクを交換するには

Xen Server のディスクを交換します。以下の手順に従って交換してください。

---

**関連情報:** XenCenter の操作の詳細については、Citrix 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. **メンテナンスモードオン**  
Web コンソールから対象 Xen Server の仮想マシンのメンテナンスモードをオンにします。
2. **Xen Server の仮想マシンをシャットダウン**  
XenCenter から対象 Xen Server の仮想マシンをシャットダウンします。
3. **プールから Xen Server を削除**  
Xen Server がプールに登録されている場合は、プールから Xen Server を削除します。
4. **XenCenter で Xen Server の接続を削除**  
XenCenter から Xen Server の接続を削除します。
5. **Xen Server をバックアップ**  
Xen Server のバックアップ方法については、Citrix 社発行の各製品マニュアルを参照してください。
6. **Xen Server のディスクを交換**  
Xen Server のシャットダウン後、ディスクの交換を行います。
7. **Xen Server をインストール**  
Xen Server のインストールについては、Citrix 社発行の各製品マニュアルを参照してください。Xen Server のネットワーク設定およびパスワードは既存の Xen Server と同じ設定を行ってください。
8. **Xen Server のリストア**  
Xen Server のリストアについては、Citrix 社発行の各製品マニュアルを参照してください。
9. **XenCenter で Xen Server を接続**  
XenCenter から Xen Server を接続します。
10. **メンテナンスモードオフ**  
Web コンソールからメンテナンスモードをオフにします。
11. **登録された情報を更新**  
Web コンソールで [収集] を行い、登録された情報の更新を行います。

以上で Xen Server のディスク交換は完了です。

### 6.5.15. Xen Server のハードディスク以外のデバイスを交換するには

Xen Server のハードディスク以外のデバイスを交換するには、以下の手順に従ってください。

---

**関連情報:** XenCenter の操作の詳細については、Citrix 社発行の各製品マニュアルを参照してください。

---

1. **メンテナンスモードオン**  
Web コンソールから対象の Xen Server の仮想マシンのメンテナンスモードをオンにします。
2. **Xen Server をシャットダウン**  
XenCenter から Xen Server をシャットダウンします。
3. **Xen Server のデバイスを交換**  
Xen Server のシャットダウン後、デバイスの交換を行います。Xen Server のデバイス交換方法については、Citrix 社発行の各製品マニュアルを参照してください。
4. **XenCenter で Xen Server を接続**  
XenCenter から Xen Server を接続します。
5. **メンテナンスモードオフ**  
Web コンソールからメンテナンスモードをオフにします。
6. **登録された情報を更新**  
Web コンソールで [収集] を行い、登録された情報の更新を行います。

以上で Xen Server のハードディスク以外のデバイス交換は完了です。

## 6.5.16. NIC-NetvisorPro 管理スイッチポートの接続を変更するには

稼動しているマシンは、メンテナンスモードをオンにしても、構成情報への VLAN の反映が不可能のため、接続を変更できません。

メンテナンス状態でのNICの交換 (MACアドレスの変更) は可能です。NICの交換方法については、「6.5.1 プライマリNIC以外のNICを交換するには」あるいは「6.5.2 プライマリNICを交換するには」を参照してください。

また、同一筐体内に稼動しているマシンが存在する場合でも、稼動していないマシンの接続設定、および稼動していないマシンにスイッチの接続設定を追加あるいは削除することは可能です。

稼動していないマシンの接続設定を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. 物理的に NIC とスイッチポートとの結線を変更
2. SystemProvisioning のスイッチの関連付け
  1. タイトルバーの [リソース] をクリックし、[リソース] ビューに切り替えます。
  2. [システムリソース] ツリーからマシンプロパティ設定を行うマシンのアイコンをクリックします。
  3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。
  4. メインウィンドウに「マシンプロパティ設定」が表示されます。
  5. [ネットワーク] タブを選択します。[NIC 一覧] グループボックスから関連付けを行う NIC の [編集] アイコンをクリックします。
  6. [NIC 設定] が表示されます。NIC とスイッチポートとの関連付けを変更します。

以上で NIC-NetvisorPro 管理スイッチポートの接続変更は完了です。

## 7. バックアップ・リストア

本章では、SigmaSystemCenter 運用時のバックアップ方法およびリストア方法について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 7.1      バックアップ計画 ..... 234
- 7.2      SystemProvisioningをバックアップ / リストアする ..... 235
- 7.3      SystemMonitor性能監視をバックアップ / リストアする ..... 237

## 7.1. バックアップ計画

管理サーバおよび管理対象マシンでは、アップデートが行われたときなど、こまめにバックアップを取っておくことにより、配信イメージ (リストイメージ) を最新の状態にしておきます。仮に障害が起きた場合でも復旧することができます。本節では、各マシンでのバックアップの概要や方法について説明します。

### 7.1.1. 管理サーバ

- ◆ SystemProvisioning の設定情報  
SystemProvisioning の設定情報のバックアップは、定期的に行うことを推奨します。  
設定情報のバックアップ / リストアの方法は、「7.2 SystemProvisioningをバックアップ / リストアする」を参照してください。
- ◆ SystemMonitor 性能監視の設定情報  
SystemMonitor の設定情報のバックアップは、定期的に行うことを推奨します。  
設定情報のバックアップ / リストアの方法は、「7.3 SystemMonitor性能監視をバックアップ / リストアする」を参照してください。

### 7.1.2. 管理対象マシン

SigmaSystemCenter の配信を最新の状態に維持するためには、アップデートが行われるたびに DPM によるバックアップを行い、配信イメージ (リストイメージ) を最新の状態にする必要があります。DPM を利用してバックアップを行う場合、マシンを停止状態にしてバックアップを行う必要があります。容量やネットワーク状態によってバックアップにかかる時間が異なります。

管理対象マシンでアップデートが頻繁に行われる場合、以下の方法でバックアップを行ってください。

- ◆ 業務負荷の低い時間帯を利用してバックアップを行う
- ◆ マニュアル操作によりオンラインでバックアップを行う

## 7.2. SystemProvisioning をバックアップ / リストアする

構成情報データベースは、必要に応じてバックアップを行ってください。ハードウェア障害などの理由により、管理サーバが故障しても、バックアップを行っていれば構成情報データベースを復旧できます。

構成情報データベースのバックアップとリストアは、SQL Server 2005 が提供する sqlcmd コマンドを使用して行います。

---

**関連情報:** sqlcmd コマンドの詳細については Microsoft 社から提供されている以下の URL などを参照してください。

<http://msdn2.microsoft.com/ja-jp/library/ms170207.aspx>

---

### 注:

- ・ SystemProvisioning でインストールされる SQL Server 2005 の初期 sa パスワードは (rc76duvg) になっています。システム管理者の方は sqlcmd コマンドを使用して sa パスワードの変更を行ってください。
  - ・ インスタンス名をデフォルト値 (SSCCMDB) より変更した場合、"(local)¥インスタンス名" としてください。また、インストール後にネットワーク上の別のサーバに構築された SQL Server 2005 に構成情報データベースを移行した場合は、"サーバ名¥インスタンス名" としてください。
- 

### 7.2.1. 構成情報データベースをバックアップするには

構成情報データベースのバックアップは、コマンドを使用して行います。以下の手順に従ってバックアップしてください。

#### 1. Web コンソールを停止

Web コンソールを開いている場合は、閉じます。

#### 2. SystemProvisioning を停止

#### 3. バックアップコマンドを実行

コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。ここでは C ドライブの¥temp に backup.dat というバックアップファイルを作成する例を示します。

```
> sqlcmd -E -S (local)¥ssccmdb
1> backup database pvmintf to disk = 'c:¥temp¥backup.dat'
with init
2> go
```

#### 4. SystemProvisioning を起動

バックアップが終了したら、SystemProvisioning を起動します。

以上で構成情報データベースのバックアップは完了です。

## 7.2.2. 構成情報データベースをリストアするには

構成情報データベースのリストアは、コマンドを使用して行います。

また、構成情報データベースの内容を初期化した後にバックアップファイルの内容をリストアします。

構成情報データベースをリストアするには、以下の手順に従ってください。

1. Web コンソールを停止

Web コンソールを開いている場合は、閉じます。

2. SystemProvisioning を停止

3. リストアコマンドを実行

コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。ここでは C ドライブの`%temp` に `backup.dat` というバックアップファイルから復元する例を示します。

```
> sqlcmd -E -S (local)%ssccmdb
1> restore database pvminf from disk =
  'c:%temp%backup.dat' with replace
2> go
```

4. SystemProvisioning を起動

リストアが終了したら、SystemProvisioning を起動してください。

以上で構成情報データベースのリストアは完了です。

## 7.3. SystemMonitor 性能監視をバックアップ / リストアする

SystemMonitor 性能監視のデータベースのバックアップとリストアは、SQL Server 2005 が提供する sqlcmd コマンドを使用して行います。

### 7.3.1. SystemMonitor 性能監視をバックアップするには

SystemMonitor 性能監視をバックアップします。以下の手順に従ってバックアップしてください。

1. SystemMonitor 性能監視管理コンソールを停止  
SystemMonitor 性能監視の管理コンソールメインウィンドウの [ファイル] メニューから、[終了] を選択すると、管理コンソールが終了されます。
2. 性能監視サービスの終了  
[スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。サービス一覧から「System Monitor Performance Monitor Service」を選択し、[サービスの停止] をクリックします。
3. ファイルをバックアップ  
以下の 2 つのファイルをバックアップします。  
SystemMonitor 性能監視インストールディレクトリ配下

---

**注:** 既定値は (%Program Files%\NEC\SystemMonitorPerformance) です。

---

```
bin¥rm_client.xml  
bin¥rm_service_init.xml
```

4. データベースをバックアップ  
コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。ここでは C ドライブの¥temp に sysmonbk.dat というバックアップファイルを作成する例を示します。  

```
> sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB -Q "backup database  
RM_PerformanceDatabase2 to disk = 'c:¥temp¥sysmonbk.dat'  
with init"
```

---

**注:** インスタンス名をデフォルト値 (SSCCMDB) より変更した場合、"(local)¥インスタンス名" としてください。

---

### 5. 性能監視サービスの開始

性能監視サービスを開始します。

[スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。サービス一覧から「System Monitor Performance Monitor Service」を選択し、[サービスの開始] をクリックします。

以上で SystemMonitor 性能監視のバックアップは完了です。

## 7.3.2. SystemMonitor 性能監視をリストアするには

SystemMonitor 性能監視をリストアします。以下の手順に従ってリストアしてください。

### 1. SystemMonitor 性能監視管理コンソールを停止

SystemMonitor 性能監視の管理コンソールメインウィンドウの [ファイル] メニューから、[終了] を選択すると、管理コンソールが終了されます。

### 2. 性能監視サービスの終了

[スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。サービス一覧から「SystemMonitor Performance Monitor Service」を選択し、[サービスの停止] をクリックします。

### 3. バックアップファイルを上書き

バックアップを取った以下の 2 つのファイルを上書きします。

SystemMonitor 性能監視インストールディレクトリ配下

---

**注:** 既定値は (%Program Files%\NEC\SystemMonitorPerformance) です。

---

bin¥rm\_client.xml

bin¥rm\_service\_init.xml

### 4. データベースリストアコマンドを実行

コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。ここでは C ドライブの¥temp に sysmonbk.dat というバックアップファイルをリストアする例を示します。

```
> sqlcmd -E -S (local)¥SSCCMDB -Q " restore database
RM_PerformanceDatabase2          from          disk
= 'c:¥temp¥sysmonbk.dat' with replace "
```

---

**注:** インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、「(local)¥インスタンス名」としてしてください。

---

**5. 性能監視サービスの開始**

性能監視サービスを開始します。

[スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。サービス一覧から「SystemMonitor Performance Monitor Service」を選択し、[サービスの開始] をクリックします。

以上で SystemMonitor 性能監視のリストアは完了です。



